

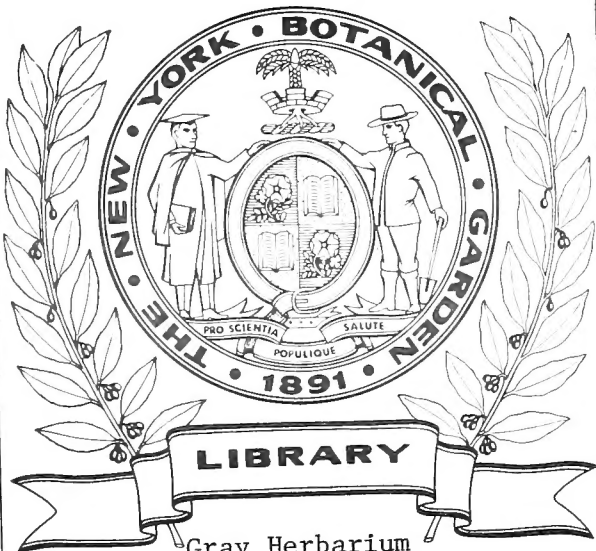
QK368
.N31

Nakai, Takenoshin, 1882-1952

Report On The Vegetation
Of The Island Ooryongto Or
Dagelet Island, Corea

QK368

.N31



Gray Herbarium
Purchase
December 1970

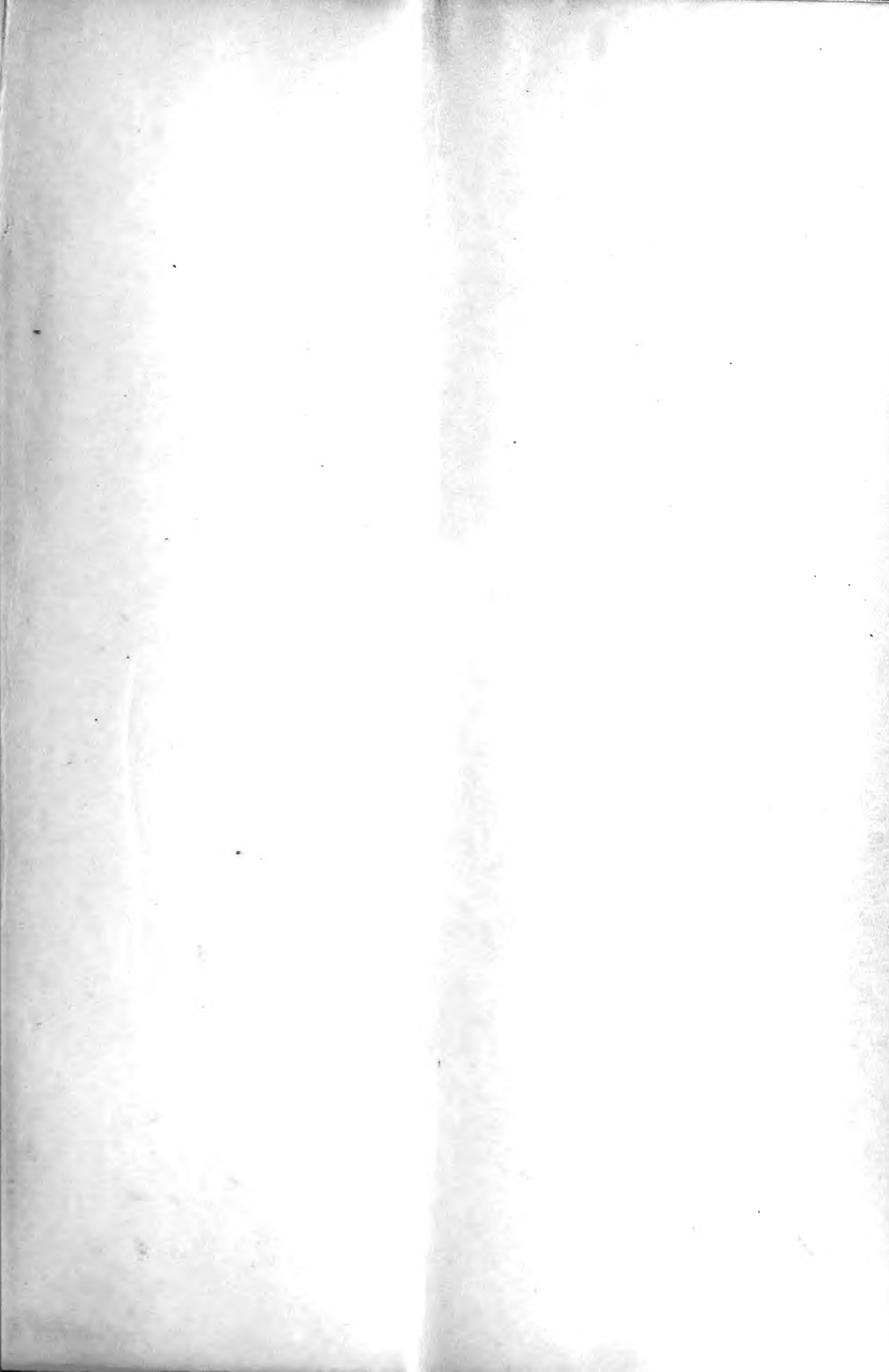


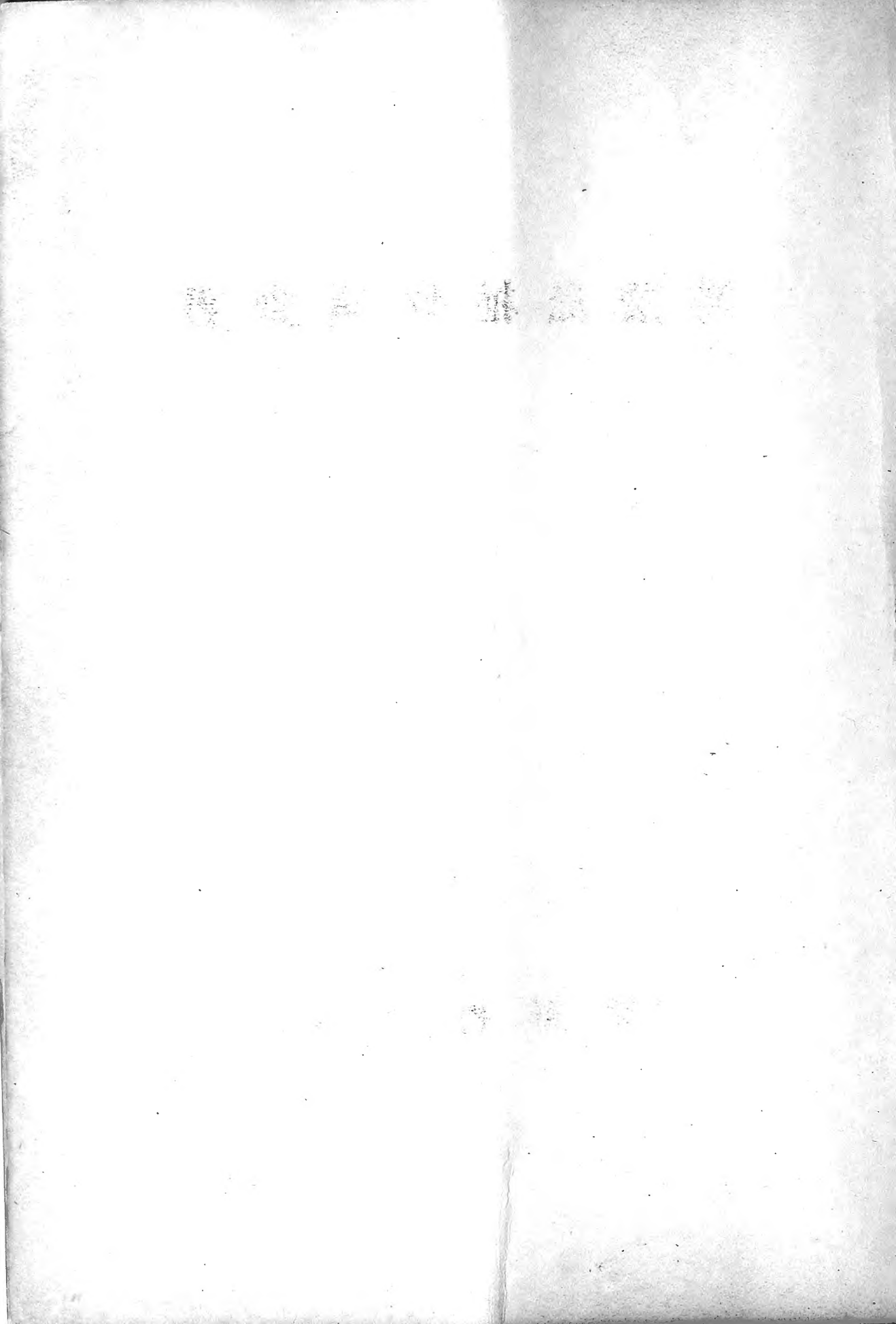
蔚陵島植物調查書

朝鮮總督府









鬱陵島植物調查書

朝鮮總督府

Report on the Vegetation
of
The Island Ooryongto or Dagelet Island,
Corea

February, 1818.

BY

TAKENOSHIN NAKAI, *Rigakuhakushi*,
LECTURER IN BOTANY IN THE TOKYO IMPERIAL UNIVERSITY,
GOVERNMENT BOTANIST OF CHŌSEN.



PUBLISHED BY
THE GOVERNMENT OF CHOSEN.
SEOUL, COREA

1919.



Errata

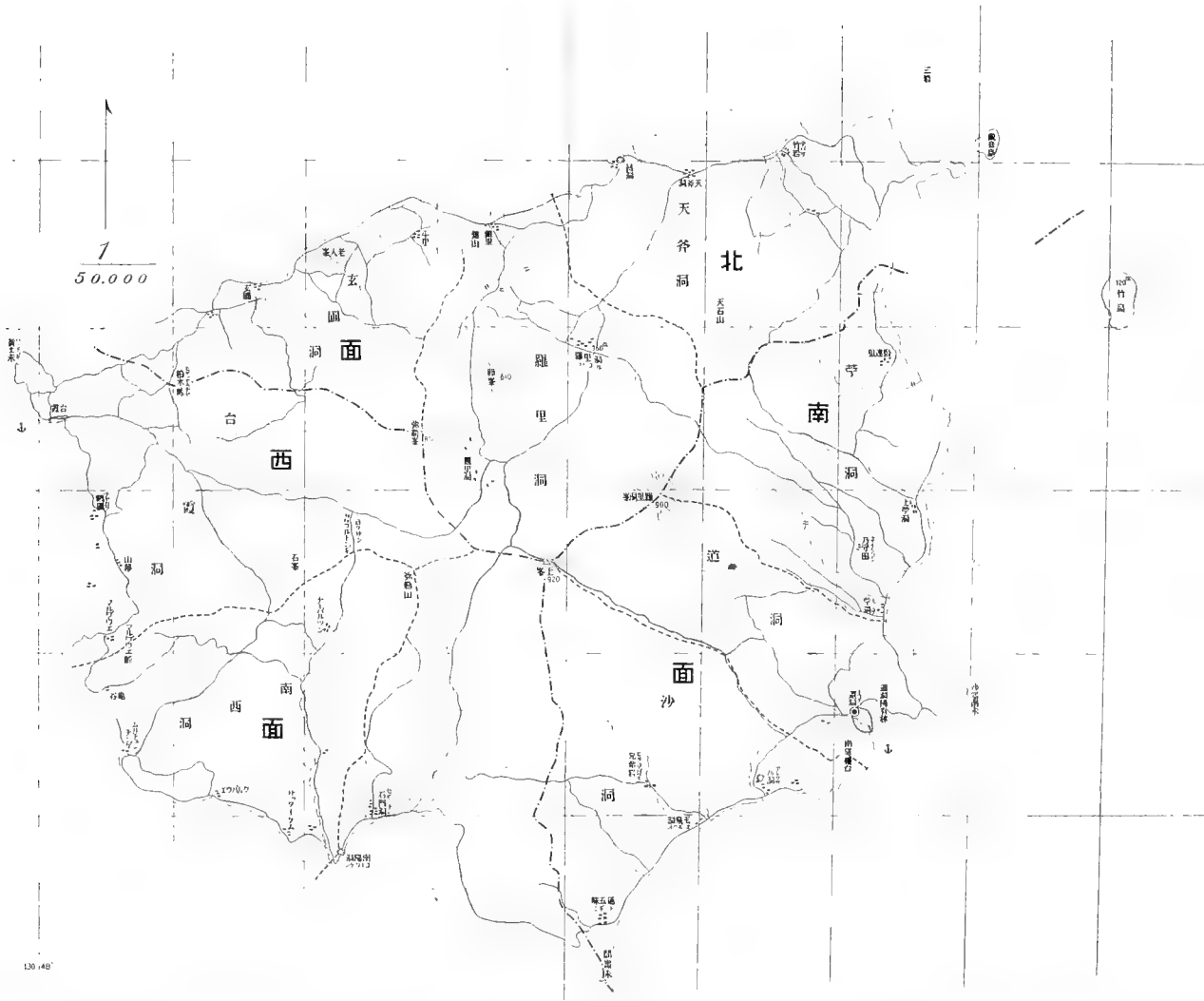
- Title page 5 line for 1818 read 1918.
p. 46 Put '陸' of 11 line at the end of 13 line
p. 49 1 line for serppllum read Serpyllum
p. 55 11 line for 三種 read 三期
p. 56 14 line for たんば read たんな

本編ハ本府囑託理學博士中井猛之
進ノ鬱陵島植物調査報告書ニシテ
學術並産業上參考ニ資スヘキモノ
アルヲ以テ印刷ニ附ス

大正八年四月

朝鮮總督府





備考 岡ノ概形ハ雖見抜向ノ測定セシモノヨリ取り、
之レニ多少ノ補正ヲナセリ

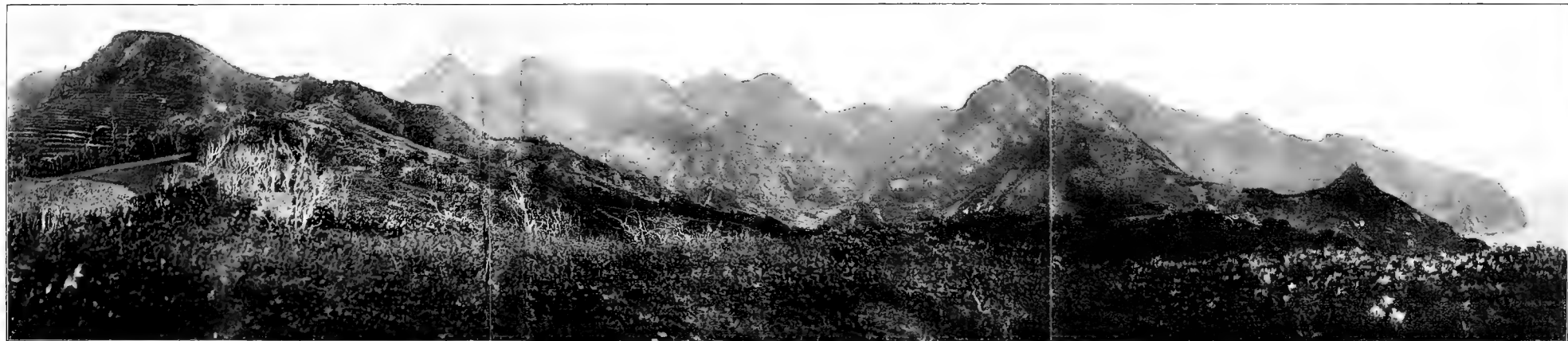
3727



目 次

	頁
1. 島ノ位置並ニ地勢	1
2. 島ノ名稱ト成因	3
3. 島ノ氣候ト四近ノ潮流	8
4. 島ノ植物調査ノ歴史	9
5. 島ノ自生植物	13
6. 海岸植物帯ト山地植物帯トノ區別	28
7. 島ノ植物帯ノ特色	32
8. 島ノ特産植物	33
9. 島ノ木本植物ガ日本海ノ圍繞地ニ於ケル分布ノ有様並ニ其各地 方トノ關係ノ親疎	43
10. 鬱陵島ノ分離期	47
11. 島ヲ含ム舊大陸ハ沙漠ニ非ズ	58
12. 島ノ自生木本植物ノ檢索表、並ニ所在地	58
13. 島ノ有用植物	74
a. 材用植物	74
b. 藥用植物	76
c. 食用植物	79
d. 其他ノ有用植物	80
14. 島ノ有毒植物	81
15. 移植植物ノ成績	83
16. 島今後ノ生産	84





景 全 島 陵 爵
ル 見 リ ヲ (嶺 北 西 ノ 島) 祭 ノ 末 主 黄



(1) 島ノ位置並ニ地勢

蔚陵島ハ朝鮮ノ最東端ニ位シ、江原道竹邊ヲ距ル東北東、海上二十六里ニアリ。不等邊五角形ヲナシ、東經百三十度四十七分四十秒(^{ハンドギミ}黄土未ノ角)ヨリ百三十度五十五分(沙空南未ノ角ニ)至リ。附屬ノ竹島ノ東端ハ百三十度五十六分十秒ニ達シ、北緯三十七度二十七分四十四秒ヨリ三十七度三十三分三十一秒ニ亘ル。周圍ハ未ダ實測ヲセシモノナク、又斷崖多クシテ到底完全ノ實測ヲナシ難ク、或ハ十里ト謂ヒ或ハ十五里ト云フ。屈曲少ナク港灣ナシ。

全島ハ白頭山ト同ジク暗青色ノアルカリ性ノ岩石ヨリ成リ、之レニ粗面岩ヲ交フル所アリ(岩石ハ東大教授小藤博士ノ鑑定ヲ經タリ)。又何時ノ頃ノ噴火ノ爲メカ生ゼシ浮石ノ被フ所モアリ。最高峯ヲ上峯ト云ヒ海拔九百二十米突。天氣晴朗ナレバ西ノ方江原道ノ山影ヲ見、又雨降ル前、空氣澄ミ渡ル時ハ東南方沖合遙カニ卵島ヲ望ミ得(^{ラリコルボン}ミコツボン)。彌勒峯(^{ラリコル}ミ)八百米突等ト共ニ島ノ北側ニアル舊火口、羅里洞平原ヲ圍リテ立ツ。之ヨリ



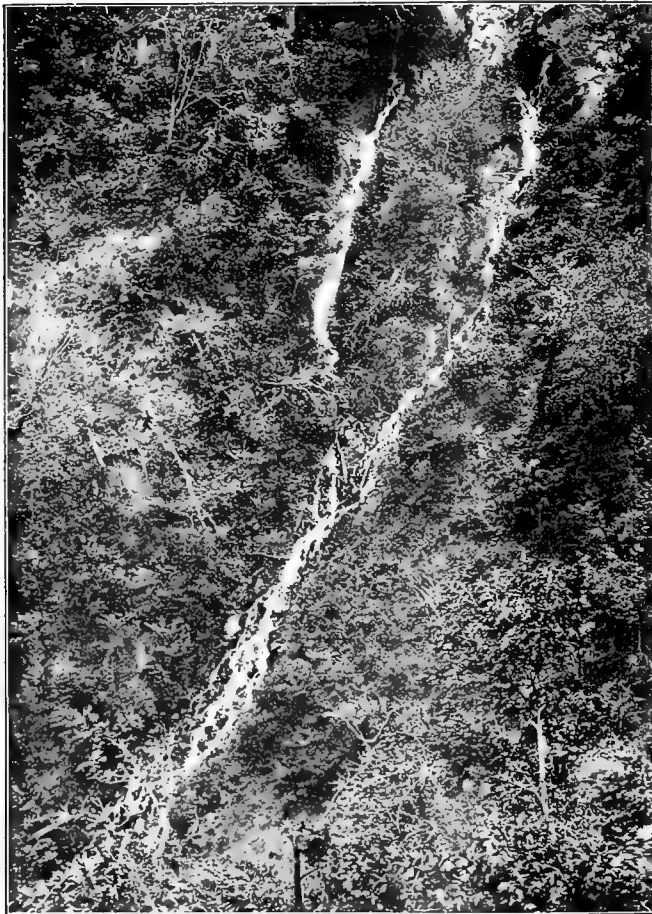
彌勒峯登山道ヨリ羅里洞平原ノ下瞰ス、¹ハ卵峰ニシテ舊火口中ニ成リシ新火山ニシテ²ヨリリニ亘ル地ハ其噴火ノ爲メニ成リシ丘陵ナリ。

1. おにいたや

2. つが

支脈各方ニ分出シ、地形極メテ險峻ナリ。本島ガ急峻ニ海底ヨリ突出セル火山ナル事ハ、日本海々戰當時ニ露國軍艦ガ芋洞ノ沖僅々百二十間ノ所ニテ百三十五尋ノ海底ニ沈ミ居ルニテ知ルベシ。附屬ノ島ハ竹島ヲ始メ大小十餘個アリ。竹島ト鬱陵島トノ間ハ水深二百尋餘ニ達スル由、即チ島ハ約四十五度ノ角度ヲナシテ海中ヨリ聳立シ居ルモノ、如シ。

河川ハ數多ケレドモ短小ニシテ其中稍其態ヲナスハ西面南陽洞ニアルモ



兩頭ノ瀧（假稱）、羅里洞平原ノ水ガ岩隙ヨリ噴出シテ錐山ニ向ヒテ此瀑ヲナス、高サ十餘丈、長キ事ニ於テ本島第一ナリ。

コーリケン
ソングサン
ノナリ。水量多キ
ハ錐山下ノモノニ
如クモノナシ。此
ラリコル
ハ羅里洞四周ノ山
ヨリ羅里洞ニ下ル
水ガ一旦地下ニ入
リ、更ニ錐山ニ向
ヒテ下ル途中ヨリ
湧出シテ海ニ向フ
モノニシテ、水ノ
噴出點ヨリ海迄約
數町ニスギズ。水
量多ク、且四時絶
ユル事ナク、其狀
ヨリ察スレバ、羅
里洞平原下ハ一大
貯水池ヲナシ居ル
ニ非ルナキカ。

瀑布トシテ見ル
ベキハ錐山瀑ニシ
テ其附近ニアル無
名瀑數個アリ。芋
洞ノ奥ニモアレド
モ水量少クシテ見
ルニ足ラズ。又臥

達里ニ近ク海ニ注グ所ニヨキ瀑布アレドモ海ヨリ望マザレバ良瀑布ナルヲ認メ難シ。泉ハ皆水質良好ナリ。河川ニ淡水魚、淡水貝ナク、水草ニ乏シ。

島ニハ野獸、爬蟲、水陸兩棲類等アルナク、又朝鮮雉、鶉、雀ナク、群雅ハ至ル所ニ横行シテ漁民ノ勞ヲ奪ヒツ、アリ。



ヤクムル
 薬水 羅里洞平原ノ地下水ガ最モ勢ヨク湧出スル所ニシテ急湍直ニ海ニ向ヒ其途中ニ錐山瀑
 ヲナス。

- a. おにいたや b. みづき(花アリ) c. たけしまぶな
 d. おひょうにれ e. たけしまにはとこ

(2) 島ノ名稱ト成因

島ハ朝鮮側ト日本側トニテ其名稱ヲ異ニス。朝鮮側ニテハ昔時干山國ト呼ビ慄悍ノ民族居住シテ獨立ノ一國ヲナセシモ後、新羅ニ降レリ。李朝ニ及ンデ海賊ノ根據地ト化セシヲ以テ兵ヲ遣ハシテ討テ之レヲ滅ボシ、後人民ノ居住ヲ禁ゼリ、由來島ハ自然ノ成ルニ任セ、森林ハ鬱葱トシテ繁茂シ多クノ有用材モ林立スルニ及ビ、西曆千八百八十四年(明治十七年)再ビ島長ヲ置キ人民ヲ移シテ開拓ヲ始メタリ。鬱陵島ノ名ハ其當時ヨリ用フ。土民ハヌーニ不死島ト云フ。之レ山中ニぎょうぢやにんにく、うど、ひめあざみ、あさのさりんさう等ノ食用植物多ク、饑年ニ遇フモ其ヲ以テ饑ヲ凌ギ得ルヲ以テナリ。現ニ大正三年、四年ニ亘ル饑年ニ際シテハ土民ハ大部分此土産ノ草ニテ饑ヲ凌ギヌ。

隠岐、出雲邊ノ住民ハ潮流ヲ利用シテ早クヨリ往來セシモノノ如ク、島ヲ呼ンデ武島ト稱シ、其土産タル武島百合、桐樹等ヲ内地ニ移セリ。現住民ハ所屬ノ一島竹島ト共ニ一ニ松島トモ呼ブ。之レ松ガ繁茂シ竹ガ繁茂セル爲



錐山瀑。高サ約二十五尺、水量多ク、鬱陵島第一ノ瀑布ナリ。
附近ニハ常綠闊葉樹多ク又岩面ニハふきアリ。

メニ非ズシテ、松竹ト並稱シ、日出度キ意ニ用キシ由。日露戦争當時ノ海軍ノ報告書ニ松島トアル所以ナリ。

本島ノ名稱ノ由來ニ就キ東京帝國大學教授文學博士坪井九馬三氏ハ前後三回ニ亙リテ余ニ懇書ヲ寄セラレ詳細ナル示教アリタリ。此文書ハ島ノ歴史ヲ知ル上ニ必要ノモノナレバ茲ニ原文ノ儘ヲ掲グルコト、ス。

第一回（略ス）。

第二回（大正七年二月二十七日）。

（前略）、タケシマの儀は江戸幕府時代に於て其竹とアハビを以て顯れ邦人多く往來候爲に朝鮮政府よ

り嚴談を受候事再三に及び候此島の記録に見候は三國史記の伊斯夫傳最も古く高麗史の地理志之に次申候、新羅時代には干山と書き候が最も古く後に文字を修めて武陵又は羽陵と書申候、鬱陵と書くは高麗以來の事に候、干、羽は朝鮮音ウ、武は同音ム、鬱は同音ウルにて孰れも音を傳へたるまでのこと字義に關係なし其は此島の對岸地方を新羅の時に干兮也と稱へしを高麗の時に至りて鬱珍也と改字候を以て之を推すべし山は御承知の如く山河の山と山嶼の山とあり此場合は山嶼の山にて邦人がモルカ島を丁子山、支那人がブラウ、コンドールを崑崙山と呼ぶと同例なるべければ新羅人も變にしやれて山を陵と書きしかど高麗以來鬱陵島と成しなるべし、されば島名は本來ウ又はムにて隱岐人が今も武島と言ふは新羅時代の古名其儘にて宜敷「ムシ

マ」と稱ふべしムタウとは謂ふべからず、誠に不思議なる古名の傳承にて邦名マツシマ、タケシマも亦芽出度くて實に結構此上なし（下略）。

第三回（大正七年八月三日夜認）。

（前略）、昨年（本春？）は彼武島竹島の御研究に就き御懇切なる示教を賜はり難有御禮申上候、小生其後此二名の由來に就き折々注意罷在候處頃日聊か端緒を得申候に付御報申上候。

本邦史料中彼島に關し確實の材料擧かり候は一條天皇寛弘年中彼島人數名本邦に漂着候時の事にて其節政府にて救助致し歸島せしめ申候當時の目錄たる藤原行成の「權記」源爲憲の詩（「本朝廉藻」所載）藤原公任の歌（「千載集」所載）採其材料に有之候。

代迂陵島人感皇恩誌

源 爲 憲

遠來殊俗感皇恩。	彼不能言我代言。	一葦先摧身死沒。
孤蓬暗轉命穉存。	故鄉有母秋風淚。	旅館無人暮雨魂。
豈慮紫泥許歸去。	望雲遙指舊家園。	

高麗蕃徒之中有新羅國迂陵島人折兢悅之者 其文不優頗知詩編 臨別之日予與一篇

うるまのしまの人こゝにはなたれきてこゝの人のものいふをさくことしらてなきあるといふころかへりことせぬ女につかはしける 公 任

おほつかなうるまのしまの人なれやわかことのはをしらすかほなる猶同後世の咏例に夫木集三十六

家 隆

よそにきくうるまのしまのうるさくはいひたにはなて思ひたえなむ
一條天皇寛弘年中の王高麗穆宗顯宗の二代に跨り紀元千〇〇四——千〇〇八年なり此史料に據れば 迂陵はウルマと讀みたるか或は邦人彼島をウルマと呼ひたるなり、「マ」は「間」にて沖繩縣下波照間、八重山ハタマの充用字也 鳩間、慶良間、來間、多良間採に出づる間と同しく「バ」（場）と同語にて轉々して島の意味となりしものたらざるべからず、されば干山、武陵、羽陵、迂陵、蔚島、蔚陵など種々雜多の漢字を假充するも發音は本邦に於てはウルマ、新羅、高麗に於ては悉皆なりしが此時代に於ては島に韓人居住し下手ながら漢文を草し漢詩をも愛誦したる者さへありし事明白なり、然るに毅宗十三年即ち我保元三年紀元千五百五十八年此島を視察せしめしに報告に云ふ、

有村落基趾七所或有石佛鐵鐘石塔〇勝覽

と而して居住民あるをいはず無人島なりしなり、後に崔忠獻は獻議して移民を送りしに屢々風濤に遇ひて覆没し舟人多く死したれば 島の居民を呼還したり、崔忠獻は高宗六年逝く享年七十一、明宗、神宗、熙宗、康宗、高宗に仕へ

後白河法皇、後鳥羽法皇と同時に又平清盛、源頼朝、頼家、實朝とも時を同じくす、李朝太宗の時(應永八年——同二十五年)此島に流民の多く逃れ居るを聞き命じて行きて之を捕ふ竹大如杠、鼠大如猫、桃大於舛の報告此時に出づ、世宗二十年(永享十年紀元千四百三十八年)復往きて逃民七十餘人を搜捕して還へり住民遂に空し、成宗二年(文明三年紀元千四百七十一年)探檢員を此島に遣りしに大竹大蝮魚を取りて還れり此島の大鮑の談始めて茲に出づ(以上輿地勝覽に據りて記したり)

本邦に於ては文祿慶長以前に此島を磯竹島又は竹島と稱せり其は何時の頃よりなるか此名を咏みこみたる古歌は鳥渡見當り不申 尙ほ考ふべし芝峯類説に

蔚陵島、壬辰變後、人有往見者、亦被倭焚掠、無後人煙、近聞、倭奴占據磯竹島、或謂磯竹、卽蔚陵島也、

芝峯は朝鮮に對する我外交官たりし宗氏の職員より磯竹の名稱を聞きしなるべく以て此名の室町時代より存したるを察すべし、又成宗の時より以來李朝は此島に移民せず或は漁民等任意に居住したりしやも計られず然れば李朝は此島を經營したりし記事を見ず本邦人の出漁に任せたるならむ、元和三年に江戸幕府は此島の經營を池田光政の家來伯耆米子の村川市兵衛正清に免許したる時にも「竹島渡海許狀」を授けたるに元祿七年正清の子正勝渡海するに及び若干の韓人在島するを始めて認めたり、而して翌年は韓人既に島に満ちたれば其二人を生捕りて還りたりといふ元祿年間の所謂「竹島事件」茲に起る、「竹島紀事」と題する書は此事件書類にて「竹島文談」と云ふは對島の陶山庄右工門の書翰集にて亦此事件に關するものなり、尙ほ幕末には松浦武四郎の「竹島雜誌」あり以て竹島は江戸幕府公用の稱呼たりしを證すべし、されば對馬人は何の謂れありて此島を竹島と呼びしか其由來は明かならず、獨り此間にありて隱岐人は此島を武島と呼び傳へし事甚だ奇なり、武島は武陵に同じ韓人の普通に用ふる蔚島は同じくウルマ又はウルセムの對音又は對譯なり隱岐人の之をタケシマと訓讀するは對馬人にかぶれたるに非る乎尤もタケシマの名は對馬人より出でたりとするも既に公用、外交用の稱呼と立身したるうへは否をいはず之を用ふること固より至當のことなり、さりとて古來傳承したる武島を棄てず之れにタケシマの訓を與へて二者を兩存したるはあつばれ御てぎはにて敬服するの他なし而して主島を松島、屬島を竹島と呼別けて小名を定むると共に祝意を寓したるは優美にして深慮あり彼發見者又は占領者又は經營者が臆面もなく自己の名を新地に付したがるおこがましさと月髓天淵の差ありと謂ふべし、之を要するに此島の大名即ち總名を竹島といふも武島といふも蔚島といふも皆正確にして之を棄つ

べき謂れなし、故に孰れも之を存して其由來を明にすべきのみ(下略)。以上抑モ本島ハ新火山岩ヨリ成リ、現ニ舊火口ヲ有スルモ其活動ハ歴史以前ニシテ之レヲ知ルニ由ナシ。日本海ガ第三紀漸新世 (Tertiary-Oligocene) ノ頃ニハ大陸ノ一部トシテ存在シ、朝鮮、日本、現亞細亞大陸ノ東半ト共ニ連續セル一大陸ヲナセシ事ハ、地質學者、古生物學者ノ皆一致スル所ナリ。近來本邦海藻學ノ泰斗岡村金太郎博士ハ地學雜誌上ニテ、日本海ニハ太平洋ニナキ



道南國有林ノ一部、此屏風ノ如ク岩上ニハ、ひめこまつ、つが、びやくしん、おぼばぐみ、たけしましやりんとう、たけしましもつけ、ようらくにはとこ、つばき、もちのき、むくのき、等々混生シ且内最モ珍奇ノ植物ニ富ム。頂上ノ人ハ申井囑託一行ナリ。

海藻ノアルハ僅カニ一屬ナルニ、日本海ニナクシテ太平洋ニアル屬ハ十六屬ニ達ス。之レ日本海ノ生成ガ地質學上極メテ近代ノ事ニ屬スルノ證ナリ。又北原多作氏ノ説ヲ引キテ、舊日本海大陸ハ少クモ平原ニシテ、或ハ沙漠ナリシニ非ズヤト迄論及セリ。

日本海ガ地質學上近ク第三期ニ至ル迄、大陸トシテ存在セシ事ハ最早疑ナキ所ニシテ、反テ滿洲平原ガ海ニアラザリシヤヲ思ハシム。鬱陵島ハ新火山岩タルアルカリ性岩ノ噴出ニヨリテ、此大陸ノ少クモ一部ガ日本海ニ殘留セシ當時ニ成生セシモノノ如シ。

其當時ニ存セシ、舊日本海大陸ガ平原ノミニ非ザリシ事ハ、推測スルニ難カラズ。又其ノ大陸ガ沙漠ニ非ズシテ反テ森林ノ之ヲ被ヒシ事ハヨク現時ノ鬱陵島植物ノ種類ヨリシテ之ヲ推定シ得。此ハ後章ニ詳説スベシ。

(3) 島ノ氣候ト四近ノ潮流

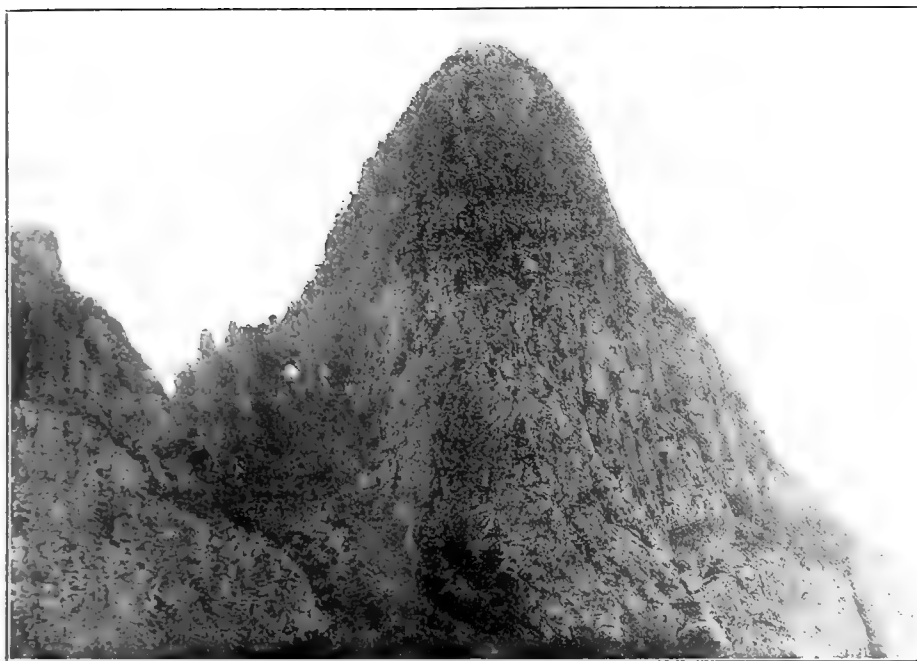
島ノ氣候ハ一ニ四近ヲ洗フ潮流ノ影響ヲ受ク、潮流ニツイテハ未ダ精密ナル實測ヲ經ズ、從テ之ヲ精確ニ斷ジ難キモ、漁民ニ質セバ、ホボ表面主要ノ流ノ狀況ヲ知り得、即チ左ノ如シ。

對島海流ガ日本本島ノ西側ヨリ山陽道ノ北岸ニ沿ヒテ東北ニ走ルモノハ出雲沖ニテ分レテ西北ニ向ヒ、鬱陵島ノ西南ヨリ其兩岸ヲ洗ヒ、北東端觀音島附近ニ至リ茲ニ南下シ來ル優勢ナル寒流ニ出合ヒ、其勢ニ推サレテ逆行ス。故ニ島根縣ヨリ鬱陵島ニ渡ラント欲セバ此暖流ニ乗ジ、僅々一兩日ニテ達シ得ベシ。又鬱陵島ノ漁民ニシテ東岸、道洞附近ニ住スルモノハ先ヅ、夕刻ヨリ出デテ此暖流ニ乗リテ釣ヲ垂ルレバ、夜半潮流ノ爲メ觀音島附近迄



モシグ
葎海ヨリ立岩並ニ竹島ヲ望ム。立岩並ニ立岩ト竹島トノ間ニアル無名ノ岩ハ剝削作用ニテ陸ヨリ離レシモノ、如クナルモ竹島ハ海底ノ陥没ニ依リテ分離セシ如ク本島トノ間二百餘尋アリ。竹島ノ岩石モアルカリ性岩ニテ火口ナシ。

流サレ、更ニ寒流ノ爲メニ逆行シ、拂曉ニハ道洞沖合ニ歸還ス。同様ニ西北端ハンドロミ黄土未又ハ臺霞ノ沖合ヨリ釣ヲ垂ルレバ、夜半ハ竹岩沖ニ達シ、寒流ニ推サレテ拂曉黄土未又ハ臺霞ノ沖合ニ還リ得。斯ノ如クナル故 鬱陵島ハ寒暖兩流ノ影響ヲ受ケ、極寒酷暑ナク、戶外ニアルモ冬期ニ氷點下十度以下(華氏)



ソノゴサン

錐山 東方ヨリ見ル。山ハ島ノ北側ニアリテ舊外輪山ノ海ニツクル所ニ聳ユ。
おほちようじがまづみ、たけしましやりんとら、まるばはしどい、
たけしまいはきんばい、等ヲ集メ得ベシ。

ニ下ル事ナク、夏期モ九十度ニ昇ル事ハ僅々一兩日ニ過ギズ、概ネ最高華氏八十六、七度ノ間ニアリ。而シテ實ニ冬期ノ平均溫度ハ華氏四十四、五度(最低二十五度)、夏期ノ平均溫度ハ華氏七十六、七度(最高八十七度)ノ間ニアリ。晴天多ケレドモ雨量ハ比較的多ク、梅雨ハ六七月ニ亘ル。降雪ノ量ハ年ニ依リ異ナルモ通例二三尺ヲ常トス。大正六年ノ如キハ異例ニシテ海岸ノ村落ニスラ六尺ノ積雪ヲ見タリ。山中特ニ南陽洞ノ奥、羅里洞ノ奥等ニアリテハ降雪特ニ甚ダシク、七月ニ至ル迄、溪ニ殘雪ヲ見ル事アリト云フ。現ニ余ノ至リシ際ノ如キ深サ數尺ノ堆雪ヲ見タリ。冬期ハ海荒レテ交通ニ便ナラズ。六、七、八ノ三ヶ月ヲ以テ最モ平穩ノ時トス。

(4) 島ノ植物調査ノ歴史

本島植物ガ著名トナリシハ東本願寺建築用材ヲ此島ヨリ採リテ送リシニ始マル、大正元年十一月總督府技手岡本金藏氏命ヲ受ケテ此島ニ渡リ、親シク全島ヲ遍歴シ、其歴史、人情ニ至ル迄ヲ取調べテ之レヲ報告セリ。森林荒廢ノ狀、樹木利用法等ハ詳ニ其紙上ニ知ルヲ得ベシ。次デ大正五年總督府技



背後ノ白キハ残雪ナリ

南陽洞ノ奥。

標高八百米突邊ニテ中井囑託一行雪中ノ撮影 大正六年六月十四日

1. 總督府技手吉岡寅吉
3. 總督府雇荒井榮

2. 中井囑託
4. 總督府雇鄭台鏡

手違見(現技師)、石戸谷ノ諸氏モ此所ニ至リテ山林區域ノ測定、並ニ樹木ノ採收ニ從事ス。其結果ハ朝鮮彙報 大正六年一月號ニ 鬱陵島ノ森林植物ト題シテ出デ、四十科七十九種ノ木本植物ヲ舉グ。其標本ノ一部ハ豫メ石戸谷技手ヨリ余ニ送ラレ、余之レヲ鑑定セシヲ以テ、其中改訂ヲ要スベキモノ並ニ注意ヲ要スベキモノヲ舉ゲンニ、

- | | |
|--------|-------------------|
| まだけ | 栽培品ニシテ本來此島ノモノニ非ズ。 |
| めだけ | やだけノ誤ナリ。 |
| ねまがりだけ | ちしまざさノ誤ナリ。 |
| えぞやなぎ | かうらいやなぎノ誤ナリ。 |
| あつに | ちひようにれノ葉ノ裂刻ナキ形ナリ。 |
| ごとうづる | つるあぢさいノ誤ナリ。 |
| やまざくら | たけしまざくらノ誤ナリ。 |

みやまくまいちご	たけしまいちごノ誤ナリ。
ひろはのきはだ	たけしまきはだノ誤ナリ。
ちんちん	栽培品ニシテ本来ノ自生品ニ非ズ。
ひめゆづりは	ゆづりはノ誤ナリ。
てうせんやまぶどう	たけしまやまぶどうノ誤ナリ。
うりのき	紫金牛科ニ非ズ、瓜木科トスベシ。
てうせんみづき	くまのみづきノ誤ナリ。
しなぎり	さりノ誤ナリ。
にはとこ	ようらくにはとこノ誤ナリ。
又岡本枝手ノ報告書中ニテ樹木名數多アリ。余ハ既ニ同氏並ニ石戸谷氏ノ好意ニヨリテ同氏ノ採品全部ヲ得テ之ヲ檢セシ故ニ、其誤ト見ルベキモノヲ正ス義務アリト信ズ。	
五葉松	ひめこまつニ同ジ。
はこねだけ、めだけ	共ニやだけナリ。
ねまがりだけ、みやこざさ、すずだけ	トアルハ皆ちしまざさナリ。
やまやなぎ	トアルハたけしまやなぎ。
かはやなぎ	トアルハかうらいやなぎ。
して	トアルハあかして。
かはらはんのき	トアルハみやまはんのき。
ぶな、いぬぶな、北海道ぶな	トアルハ皆たけしまぶなナリ。
しらかし	標本ナシ、石戸谷、中井、Wilson 皆採ラズ、疑ハシ。
えのき	トアルハえぞえのき。
まくわ	トアルハやまくわ。
こうぞ	トアルハかぢのき。
ひのきばやどりぎ	標本ナシ、石戸谷、中井、Wilson 皆採ラズ、疑ハシ。
みつばあけび	同上。
ながえのつづらふぢ	トアルハあをつづらふぢ。
こうもりかづら	トアルハあをつづらふぢノ誤?
まるばのき	未ダ朝鮮域内ニテ發見セラレズ、又標本モナシ、恐ラク他ノモノ、誤ナラン。
みやまななかまど	トアルハななかまどナリ。
いはしもつけ	トアルハやましもつけナリ。
さがりいちご	トアルハたけしまいちごナリ。
やまざくら	トアルハたけしまざくらナリ。
みやまざくら	標本ナシ、たけしまざくらノ山上生ノモノナラン。

はませんだん	標本ナシ、余等モ其所ニ生ゼルヲ見ズ。
ひめゆづりは	ゆづりはニ同ジ。
つるつげ	つるまさきノ誤ナラン。
とげもち	斯ル植物ナシ。
こばのつるまさき	つるまさきノ若キモノナリ。
さはだつ	つりばなナリ。
もみぢ	あきのはうちはナリ。
はうちはかへて	あきのはうちはナリ。
かぢかへて、みねかへて、あさのはかへて、いたやかへて、あにもみぢト	
	アルハ皆あにいたやナリ。



ひめこまつノ大木。西面、南西洞。幹ノ直徑四尺餘、高サ約百尺、昔時ハ斯ノ如キ大木至ル所ニアリシ由ナルモ今ハ此木以上ノ老木ナシ、而シテ本樹モ亦早晚鮮人ノ無慈悲ナル斧ニカ、ラントス惜ムベキ哉。

うりかへて	うりのきナリ。
やまぶどう	たけしまやまぶどうナリ。
しなのき、ぼだいじゆ	たけしましなのきナリ。
はまぼう	標本ナシ、余等モ亦採ラズ、疑ハシ。
なつぐみ	まるばぐみニ同ジ。
さはみづき	斯ル植物ナシ。
しやくなげ、きばなしやくなげ	ハ皆しろばなしやくなげノ花色ヲ異ニスルモノナリ。
つるこけもも	標本ナシ、余等モ亦採ラズ、疑ハシ。
こはくうんぼく	はくうんぼくナリ。
いぼた、みやまいぼた	トアルハたけしまいぼた。
くちなしかづら	斯ル植物ハナシ。
ていかかづら	標本ナシ、余等モ亦採ラズ、疑ハシ。
やぶひらさき	ひらさきしきぶノ誤ナリ。
がまづみ	みやまがまづみノ誤ナリ。
にはとこ	ようらくにはとこ。
やぶてまり	むしかりノ誤ナラン。
こねり	斯ノ如キ植物ナシ。住民ガねりト稱シツ、アルハたけしまきんぎんぼくナリ。

大正六年五月ヨリ六月ニ亘リ、余ハ囑託ヲ受ケテ此島ニ渡リシガ時恰モ養蠶期ニシテ宿泊ニ困難セリ。但シ島廳員並ニ住民ノ好意ニ依リ全島ヲ遍歴シテ三百有餘ノ植物ヲ檢出スルヲ得タリ。即チ島ノ植物調査ハ之レヲ以テ第三回目トス。

(5) 島ノ自生植物

以上三回ノ調査ノ結果眞ノ自生ト目スベキハ左ノ諸種ナリ。其中羊齒類ノ一部ハ同類ノ専攻家理學士兒玉親輔氏ノ鑑定ヲ經タリ。茲ニ謹シテ感謝ノ微意ヲ表ス。* ヲ附シアルハ島ノ特産品ナリ。

I. Polypodiaceæ 水龍骨科

- | | |
|--|------------------|
| 1) <i>Adiantum pedatum</i> , L. | くじやくした |
| 2) <i>Asplenium incisum</i> , Thunb. | とらのをしだ |
| 3) <i>Athyrium acutipinnulum</i> , Kodama. | たけしまめした (新種) |
| 4) <i>A. giganteum</i> , Kodama. | かうらいおほめした (朝鮮特産) |
| 5) <i>A. microcarpum</i> , Makino. | やまいぬわらび |

- 6) *Athyrium melanolepis*, Christ. var. *angustifrons*, Kodama.
ほそばめしだ (朝鮮特産)
- 7) *Cyclophorus linearifolius*, Christensen. びろうどしだ
- 8) *Diplazium Oldhami*, Christ. かうらいみぞしだ (朝鮮特産)
- 9) *Dryopteris africana*, Christensen. みぞしだ
- 10) *D. callopsis*, Christensen. なんといしだ
- 11) *D. Pseudo-Filixmas*, Nakai et Kodama. をしだ
- 12) *D. lacera*, Thunb. くまわらび
- *13) *D. takesimensis*, Kodama. たけしましだ (新種)
- 14) *D. Taquetii*, Christ. てりはべにしだ (朝鮮特産)
- *15) *D. sp. ?* 日本領域内ニハ未ダスル羊齒ナシ、但シ子囊群ナク
検定不能ナリ。
- 16) *Matteuccia orientalis*, Trev. いぬがんそく
- 17) *Microlepia pilosella*, Moore. いぬしだ
- 18) *Phyllitis Scolopendrium*, Newm. こたにわたり
- 19) *Polypodium hastatum*, Thunb. みつてうらぼし
- 20) *P. lineare*, Thunb. のきしのぶ
- 21) *P. subspathulatum*, Hook. ひめのきしのぶ
- *22) *P. vulgare*, L. v. *latifrons*, Kodama. ひろはえぞでんだ
- 23) *Polystichum Brauni*, Feé. ほそばゐので
- 24) *P. falcatum*, Sw. をにやぶそてつ
- 25) *P. japonicum*, Nakai. ゐので
- 26) *P. lonchitoides*, Christ. つやなしやぶそてつ
- 27) *P. retrorso-paleaceum*, Kodama. やまゐので
- 28) *P. Standishii*, Christ. りょうめんしだ
- 29) *P. tripterum*, J. Sm. しゅもくしだ
- *30) *P. subbipinnatum*, Kodama. おほしゆもくしだ (新種)
- 31) *P. varium*, Presl. いたちしだ
- 32) *Pteridium aquilinum*, Kuhn. わらび
- II. Osmundaceæ 蕨科**
- 33) *Osmunda regalis*, L. ぜんまい
- III. Ophioglossaceæ 瓶爾小草科**
- 34) *Botrychium ternatum*, Sw. ふゆのはなわらび
- IV. Equisetaceæ 木賊科**
- 35) *Equisetum arvense*, L. すぎな

- 36) *Equisetum palustre*, L. いぬすぎな
- V. Selaginellaceæ 卷柏科**
- 37) *Selaginella rupestris*, Spr. ひもかづら
- VI. Taxaceæ 一位科**
- 38) *Taxus cuspidata*, Sieb. et Zucc. いちろ
- VII. Pinaceæ 松科**
- 39) *Juniperus chinensis*, L. びやくしん (朝鮮特産)
- 40) *Pinus densiflora*, Sieb. et Zucc. あかまつ
- 41) *P. parviflora*, Sieb. et Zucc. ひめこまつ
- 42) *Tsuga Sieboldii*, Carr. つが
- VIII. Alismataceæ 澤瀉科**
- 43) *Alisma Plantago*, L. v. *Michaletii*, Aschers. et Graebn. へらをもだか
- IX. Gramineæ 禾本科**
- 44) *Agropyrum ciliare*, Fr. かもじぐさ
- 45) *Agrostis Scouleri*, Trin. たちぬかぼ
- 46) *Alopecurus fulvus*, Sw. すずめのてばう
- 47) *Andropogon brevifolius*, Sw. v. *genuinus*, Hackel. うしくさ
- 48) *Bromus japonicus*, Thunb. すずめのちやひき
- 49) *Eragrostis ferruginea*, Beauv. かぜくさ
- 50) *Festuca ovina*, L. v. *duriuscula*, Koch. おほうしのけぐさ
- 51) *F. parvigluma*, Steud. とぼしがら
- 52) *Imperata arundinacea*, Cyr. ちがや
- 53) *Miscanthus sinensis*, L. すすき
- 54) *Oplismenus undulatifolius*, Beauv. ちぢみざさ
- 55) *Panicum crus-galli*, L. var. のびえノ類
- 56) *P. sanguinale*, L. めひじは
- 57) *Pennisetum purpurascens*, Makino. ちからしば
- 58) *Phragmites Karka*, Trin. うどののよし
- 59) *Poa annua*, L. v. *eristvta*, Hackel. すずめのかたびら
- 60) *P. acroleuca*, Steud. みぞいちごつなぎ
- 61) *Pollinia imberbis*, Nees, v. *genuina*, Hackel. あしぼそ
- 62) *Polypogon misere*, Makino. ひえがえり
- 63) *Sasa japonica*, Makino. やだけ
- 64) *S. kurilensis*, Makino et Shibata. ちしまざさ
- 65) *Setaria pachystachys*, Fr. et Sav. はまえのころ

- 66) *Setaria viridis*, Beauv. えのころぐさ
67) *Trisetum flavescens*, Beauv. v. *papillosum*, Hackel. かにつりぐさ
68) *Zoysia pungens*, Willd. しば

X. Cyperaceæ 莎草科

- 69) *Carex breviculmis*, R. Br. v. *Royleana*, Nees. あをすげ
*70) *C. brepahricarpa*, Fr. v. *insularis*, Nakai.
たけしましようじょうすげ (新變種)
71) *C. japonica*, Thumb. ひごぐさ
72) *C. oahuensis*, C. A. Mey. v. *Boottiana*, Kük. いそすげ
73) *C. planiculmis*, Kom. ひかげしらすげ (朝鮮特産)
74) *C. pumila*, Thumb. かうばうむぎ
*75) *C. takesimensis*, Nakai. たけしまなるこすげ (新種)
*76) *C. viridissima*, Nakai. たけしまかんすげ (新種)
77) *Cyperus Textori*, Miq. きがやつり

XI. Araceæ 天南星科

- 78) *Arisæma japonicum*, Thumb. てんなんしょう
79) *Pinellia ternata*, Ten. からすびしやく

XII. Commelinaceæ 鴨跖草科

- 80) *Commelina communis*, L. つゆぐさ

XIII. Liliaceæ 百合科

- 81) *Allium nipponicum*, Fr. et Sav. のびる
*82) *A.* sp.? 日本領内ニナキ一種ナリ恐ラク新種ナランモ花ナク
シテ檢定不能ナリ。
83) a) *Allium Victorialis*, L. ぎょうじやにんにく
* b) *A.* f. *variegatum*, Nakai. 斑入ぎょうじやにんにく
84) *Asparagus lucidus*, Lindl. くさすぎかづら
85) *Disporum sessile*, Don. はうちやくさう
*86) *Lilium Hansouii*, Leitch. たけしまゆり
87) *L. tigrinum*, Gawl. をにゆり
88) *Liriope graminifolia*, Baker. やぶらん
89) *Majanthemum kamtchaticum*, Nakai. おほまひづるさう
90) *Ophiopogon japonicum*, Gawl. じのひげ
91) *Polygonatum robustum*, Nakai. おほあまどころ
92) *Smilax herbacea*, L. v. *nipponica*, Maxim. しほで
93) *Trillium obovatum*, Pursh. しろばなえんれいさう

XIV. Orchidaceæ 蘭科

- | | |
|---|-----------|
| 94) <i>Calanthe Sieboldii</i> , Dene. | きえびね |
| 95) <i>Cephalanthes erecta</i> , Thunb. | ぎんらん |
| 96) <i>Cymbidium virens</i> , Lindl. | しゆんらん |
| 97) <i>Goodyera Maximowiczii</i> , Makino. | あけぼのしらすらん |
| 98) <i>G. Schlechtendaliana</i> , Bl. | みやまうづら |
| 99) <i>Oreorchis patens</i> , Lindl. | こけいらん |
| 100) a) <i>Platanthera decipiens</i> , Lindl. | のびねちどり |
| * b) <i>P. f. albiflora</i> Nakai. | 白花のびねちどり |

XV. Salicaceæ 楊柳科

- | | |
|--|----------------|
| *101) <i>Salix Ishidoyana</i> , Nakai. | たけしまやなぎ |
| 102) <i>S. koreensis</i> , Anders. | かうらいやなぎ (朝鮮特産) |

XVI. Betulaceæ 樺木科

- | | |
|---|---------|
| 103) <i>Alnus Maximowiczii</i> , Carr. | みやまはんのき |
| 104) <i>Carpinus laxiflora</i> , Sieb. et Zucc. | あかして |

XVII. Fagaceæ 殼斗科

- | | |
|--|--------|
| *105) <i>Fagus multinervis</i> , Nakai. | たけしまぶな |
| 106) <i>Quercus mongolica</i> , Fischer. | もんごりなら |

XVIII. Ulmaceæ 榆科

- | | |
|---|--------|
| 107) <i>Abelicea serrata</i> , Makino. | けやき |
| 108) <i>Aphananthe aspera</i> , Planchon. | むくのき |
| 109) <i>Celtis Bungeana</i> , Planchon. | えぞえのき |
| 110) <i>Ulmus laciniata</i> , Mayr. | おひょうにれ |

XIX. Moraceæ 桑科

- | | |
|--|-------|
| 111) <i>Humulus japonica</i> , Sieb. et Zucc. | かなむぐら |
| 112) <i>Broussonetia papyrifera</i> , Sieb. et Zucc. | かぢのき |
| 113) <i>Morus bombycis</i> , Koidzumi. | やまぐは |

XX. Urticaceæ 蕁麻科

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| 114) <i>Boehmeria nivea</i> , Gaud. | まを |
| 115) <i>B. spicata</i> , Thunb. | こあかそ |
| 116) <i>B. triensis</i> , Makino. | おほあかそ |
| 117) <i>Urtica japonica</i> , Maxim. | いらくさ |

XXI. Loranthaceæ 槲寄生科

- | | |
|---------------------------------------|------|
| 118) <i>Viscum coloratum</i> , Nakai. | やどりぎ |
|---------------------------------------|------|

XXII. Polygonaceæ 蓼科

- 119) *Persicaria alata*, (Hamilt.) Nakai. たにそば
 120) *P. Blumei*, (Meisn.) Nakai. いぬたて
 121) *P. filiformis*, (Thumb.) Nakai. みづひき
 122) *P. Hydropiper*, Opitz. かはたて
 123) *P. nodosa*, Opitz. おほいぬたて
 124) *P. Posumbu*, (Hamilt.) Nakai. はなたて
 125) *P. Thunbergii*, (S. et Z.) Nakai. みぞそば
 126) *P. vulgaris*, Webb. さなへたて
 127) *Polygonum aviculare*, L. みちやなぎ
 128) a) *Reynoutria sachalinensis*, Nakai. おほいたどり
 * b) f. *variegata*, Nakai. 斑入おほいたどり
 129) *Rumex conglomeratus*, L. あれちぎしぎし
 130) *R. crispus*, L. なかばぎしぎし
 131) *R. japonicus*, Meisner. ぎしぎし
 132) *Tiniaria dumetora*, (L.) Nakai. つるいたどり

XXIII. Chenopodiaceæ 藜科

- 133) *Atriplex littoralis*, L. はまあかざ
 134) *Chenopodium album*, L. あかざ
 135) *C. bryonæfolium*, Bunge. こあかざ
 136) *C. viride*, L. あをあかざ
 137) *Kochia scoparia*, Schrad. くさぼうき

XXIV. Amaranthaceæ 莧科

- 138) *Achyranthes bidentata*, Bl. むのこづち
 139) *Amaranthus Blitum*, L. いぬびゆ

XXV. Phytolaccaceæ 商陸科

- *140) *Phytolacca insularis*, Nakai. たけしまやまごぼう

XXVI. Portulacaceæ 馬齒莧科

- 141) *Portulaca oleracea*, L. すべりひゆ

XXVII. Caryophyllaceæ 石竹科

- 142) *Arenaria serpyllifolia*, L. のみのつづり
 143) *Cerastium vulgatum*, L. v. *glandulosum*, Fenzl. みみなぐさ
 144) *Dianthus litorosus*, Makino. いそなでして
 145) *D. superbus*, L. かはらなでして
 146) *Sagina maxima*, A. Gray. はまつめくさ
 147) *Stellaria aquatica*, Scop. うしはこべ

- 148) *Stellaria media*, Cyr. はこべ
- XXVIII. Ranunculaceæ 毛茛科**
- 149) *Clematis paniculata*, Thumb. せんにんさう
150) *C. triphylla*, Thumb. ぼたんづる
*151) *Hepatica maxima*, Nakai. おほすはまさう
152) *Ranunculus sceleratus*, L. たがらし
153) *R. quelpaertensis*, Nakai. きつねのぼたん
154) a) *Thalictrum minus*, L. v. *elatum*, Léc. あきからまつ
* b) *f. variegatum*, Nakai. 斑入あきからまつ
- XXIX. Lardizabalaceæ 木通科**
- 155) *Akebia quinata*, Dene. あけび
- XXX. Berberidaceæ 小蘗科**
- 156) *Berberis amurensis*, Rupr. v. *latifolia*, Nakai. おほひろはめぎ (朝鮮特産)
- XXXI. Menispermaceæ 防己科**
- *157) a) *Cebatha orbiculata*, O. Kuntz. *f. macrophylla*, Nakai. おほばあをかづら
f. subtriloba, Miq. あをかづら
- XXXII. Lauraceæ 樟科**
- 158) *Machilus Thunbergii*, Bl. いぬぐす
159) *Malapoenna Sieboldii*, O. Kuntz. しろだも
- XXXIII. Papaveraceæ 罌粟科**
- 160) *Chelidonium majus*, L. くさのわう
- XXXIV. Fumariaceæ 延胡索科**
- *161) *Corydalis filistipes*, Nakai. たけしまえんごさく (新種)
162) *C. pallida*, Pers. きけまん
163) *C. platycarpa*, Makino. はまさけまん
- XXXV. Cruciferae 十字花科**
- *164) *Arabis takesimana*, Nakai. たけしまはたざほ (新種)
*165) *A. Stelleri*, DC. v. *macrocarpa*, Nakai. たけしまはまはたざほ (新變種)
- 166) *Capsella Bursa-Pastoris*, Moench. なづな
167) *Cardamine fallax*, (Schulz.) Nakai. こばたねつけばな
168) *C. flexuosa*, With. たねつけばな
169) a) *C. Impatiens* L. v. *typica*, O. E. Schulz. じやにんじん
b) *v. obtusifolia*, Knaf. しまじやにんじん

- 170) *Cardamine Regeliana*, Miq. おぼたねつけばな
171) *Raphanus Raphanistroides*, Nakai. はまだいこん

XXXVI. Crassulaceæ 景天科

- *172) *Sedum takesimense*, Nakai. たけしまさりんさう
173) *S. Middendorffianum*, Maxim. ひめさりんさう
174) *S. orizifolium*, Makino. たいとごめ
175) *Cotyledon malacophylla*, Pall. あをのいはれんげ

XXXVII. Saxifragaceæ 虎耳草科

- 176) *Chrysosplenium alternans*, Thunb. ねこのめさう
177) *C. flagelliferum*, Schmidt. つるねこのめさう
178) *Hydrangea petiolaris*, S. et Z. ごとうづる
179) *Saxifraga cortusæfolia*, S. et Z. だいもじさう
180) *Schizophragma hydrangeoides*, S. et Z. いはがらみ
181) *Tiarella polyphylla*, Don. づだやくしゆ

XXXVIII. Spiræaceæ 繡線菊科

- 182) *Aruncus silvester*, Kost. やまぶきしようま
*183) *Opulaster insularis*, Nakai. たけしましもつけ (新種)
184) *Spiræa obtusa*, Nakai. やましもつけ

XXXIX. Pomaceæ 梨科

- *185) *Cotoneaster Wilsonii*, Nakai. たけしましりんとら
186) *Pourthiæa villosa*, Dene. v. *Zollingeri*, Schneider. かまつか
187) a) *Sorbus commixta*, Hedl. ななかまど
* b) *f. rufo-hirtella*, Nakai. あらげななかまど (新變種)

XL. Rosaceæ 薔薇科

- 188) *Agrimonia pilosa*, Ledeb. きんみづひき
189) *Duchesnea indica*, Focke. へびいちご
190) *Geum japonicum*, Thunb. だいこんさう
*191) *Potentilla Dickinsii*, Fr. et Sav. v. *glabrata*, Nakai. たけしまいはきんばい (新變種)
192) *Rosa Luciae*, Fr. et Rocheb. てりはのいばら
193) *R. multiflora*, Thunb. のいばら
*194) *Rubus takesimensis*, Nakai. たけしまくまいちご (新種)
195) *R. Oldhami*, Miq. さなぎいちご
196) *R. phænicolasius*, Maxim. うらじろいちご

XLI. Drupaceæ 櫻桃科

- *197) *Prunus takesimensis*, Nakai. たけしまぎくら
- XLII. Leguminosæ 荳科**
- 198) *Desmodium caudatum*, DC. ぬすびとはぎ
- 199) *D. mandshuricum*, (Max.) Nakai. まるばぬすびとはぎ
- 200) *Lathyrus maritimus*, Bigel. はまえんどう
- 201) *Lespedeza sericea*, Miq. めどはぎ
- 202) *Pueraria hirsuta*, Matsum. くず
- 203) *Vicia angustifolia*, Roth.
- 204) *V. hirsuta*, Koch. すずめのえんどう
- 205) *V. pallida*, Turcz. v. *pratensis*, (Kom.) Nakai. のはらくさふぢ
- XLIII. Geraniaceæ 牻牛兒科**
- 206) *Geranium Kramerii*, Fr. et Sav. みつばふうろ
- XLIV. Oxalidacæ 酢漿草科**
- 207) *Oxalis corniculata*, L. かたばみ
- 208) *O. stricta*, L. たちかたばみ
- XLV. Rutaceæ 芸香科**
- 209) a) *Fagara ailanthoides*, Engl. からすざんしょう
- * b) v. *inermis*, Nakai. とげなしからすざんしょう (新継種)
- *210) *Phellodendron insulare*, Nakai. たけしまきはだ (新種)
- 211) *Zanthoxylum piperitum*, DC. さんしょう
- XLVI. Simarubaceæ 苦木科**
- 212) *Picrasma quassioides*, Benn. にかき
- XLVII. Euphorbiaceæ 大戟科**
- 213) *Acalypha australis*, R. Br. えのきぐさ
- 214) *Daphniphyllum macrophyllum*, Miq. ゆづりは
- 215) *Euphorbia Helioscopia*, L. とうだいぐさ
- XLVIII. Anacardiaceæ 漆樹科**
- 216) *Rhus javanica*, L. ふしのき
- XLIX. Aquifoliaceæ 冬青科**
- 217) *Ilex integra*, Thunb. もちのき
- L. Celastraceæ 衛矛科**
- 218) *Lavonimus japonicus*, Thunb. まさき
- 219) *E. oxyphyllum*, Miq. つりばな
- 220) *E. radicans*, Sieb. つるまさき
- 221) a) *E. striata*, Makino. こまゆみ

- *221) b) *v. microphylla*, Nakai. こばまゆみ
- LI. Aceraceæ 槭樹科**
- *222) *Acer Okamotoanum*, Nakai. おにいたや
- *223) *A. takesimense*, Nakai. をきのはうちは (新種)
- LII. Balsaminaceæ 鳳仙花科**
- 224) *Impatiens Noli-tangere*, L. きつりふね
- LIII. Rhamnaceæ 鼠李科**
- 225) *Hovenia dulcis*, Thunb. けんぼなし
- LIV. Vitaceæ 葡萄科**
- 226) *Ampelopsis heterophylla*, S. et Z. のぶどう
- 227) *Quinaria tricuspadata*, Koehne. つた
- 228) *Vitis Coignetii*, Pulliat *v. glabrescens*, Nakai. たけしまやまぶどう
- LV. Tiliaceæ 田麻科**
- *229) *Tilia insularis*, Nakai. たけしましなのき
- LVI. Dilleniaceæ 獼猴桃科**
- 230) *Actinidia arguta*, Pl. さるなし
- 231) *A. polygama*, Pl. またたび
- LVII. Theaceæ 山茶科**
- 232) *Camellia japonica*, L. fil. つばき
- LVIII. Guttiferæ 金絲桃科**
- 233) *Hypericum erectum*, Thunb. をとぎりさう
- LIX. Violaceæ 堇菜科**
- 234) *Viola albida*, Palib. *v. Takahashii*, Nakai. きくばすみれ (朝鮮特産)
- 235) *V. chinensis*, Don. すみれ
- 236) *V. dissecta*, Ledeb. なんざんすみれ
- 237) *V. grypceras*, A. Gray. たちつぼすみれ
- 238) *V. hondoensis*, W. Beck. et Boiss. あふひすみれ
- *239) *V. insularis*, Nakai. たけしますみれ (新種)
- 240) *V. Kusanoana*, Makino. おほたちつぼすみれ
- 241) *V. Patrini*, DC. しろすみれ
- 242) *V. Selkirki*, Parsh. みやますみれ
- 243) *V. verecunda*, A. Gray. つぼすみれ
- LX. Elæagnaceæ 胡頹子科**
- 244) *Elæagnus macrophylla*, Thunb. おほばぐみ
- LXI. Alangiaceæ 瓜木科**

245) *Marlea platanifolia*, S. et Z. v. *macrophylla*, Makino. うりのき

LXII. Oenotheraceæ 柳葉菜科

- 246) *Cirœea alpina*, L. みやまたにたて
247) *C. cordata*, Royle. うしたきさう
248) *C. lutetiana*, L. やまたにたて
249) *Epilobium cephalostigma*, Hausskn. いはあかばな
250) *E. hirsutum*, L. おほあかばな
251) *E. calycinum*, Hausskn. なんぶあかばな
252) *E. pyrriholophum*, Fr. et Sav. あかばな
253) *E. sp.?* ひろはあかばな
254) *E. sp.?* べにあかばな
255) *E. sp.?* たけしまあかばな
256) *E. sp.?* まるばあかばな
257) *E. sp.?* なかばあかばな

LXIII. Araliaceæ 五加科

- 258) *Aralia chinensis*, L. たらのき
259) *A. cordata* Thumb. うど
260) *Hedera japonica*, Tobler. きづた
261) *Kalopanax ricinifolius*, Miq. はりぎり

LXIV. Umbelliferæ 繖形科

- *262) *Angelica takesimana*, Nakai. たけしましうど (新種)
263) *Anthriscus silvester*, Kost. しゅく
*264) *Bupleurum latissimum*, Nakai. たけしまさいこ
265) *Cnidium japonicum*, Miq. はまぜり
266) *Cryptotenia japonica*, Hassk. みつばぜり
267) *Hydrocotyle Wilfordi*, Max. のちどめ
268) *Oenanthe stolonifera*, DC. せり
269) *Osmorhiza aristata*, Mak. et Yabe. なかじらみ
270) *Peucedanum japonicum*, Thumb. ぼたんばうふう
271) *Sanicula elata*, Hamilt. うまのみつば
272) *Torilis japonica*, DC. やぶじらみ

LXV. Cornaceæ 四照花科

- 273) *Aucuba japonica*, Thumb. あをき
274) *Cornus brachyocba*, C. A. Mey. くまのみづき
275) *C. controversa*, Hemsl. みづき

- LXVI. Pirolaceæ 鹿蹄草科**
276) *Chimaphila japonica*, A. Gray. こうめがささう
277) *Pirola asarifolia*, Spr. いちやくさう
278) *P. renifolia*, Max. じんえふいちやくさう
- LXVII. Ericaceæ 躑躅科**
279) *Rhododendron brachycarpum*, Don. しろばなしゃくなげ
- LXVIII. Primulaceæ 櫻草科**
280) *Lysimachia mauritiana*, Lam. はまぼつす
- LXIX. Myrsinaceæ 紫金牛科**
281) *Ardisia japonica*, Bl. やぶかうじ
- LXX. Ebenaceæ 柿樹科**
282) *Diospyros Lotus*, L. しののがき
- LXXI. Styracaceæ 齋墩果科**
283) *Styrax Obassia*, Sieb. et Zucc. はくうんぼく
- LXXII. Oleaceæ 木犀科**
*284) *Ligustrum foliosum*, Nakai. たけしまいぼた (新種)
*285) *Syringa venosa*, Nakai. たけしまはしどひ (新種)
- LXXIII. Gentianaceæ 龍膽科**
286) *Crawfordia trinervis*, Makino. つるりんだう
287) *Gentiana squarrosa*, Ledeb. こけりんだう
288) *G. Zollingeri*, Faw. ふでりんだう
- LXXIV. Asclepiadaceæ 蘿摩科**
289) *Metaplexis japonica*, Makino. がかいも
- LXXV. Convolvulaceæ 旋花科**
290) *Calystegia Soldanella*, R. Br. はまひるがほ
291) *Cuscuta japonica*, Chois. ねなしかづら
- LXXVI. Borraginaceæ 紫草科**
292) *Lithospermum arvense*, L. いぬむらさき
293) *Tournefortia sibirica*, L. すなびきさう
294) *Trigonotis peduncularis*, Benth. たびらこ
- LXXVII. Verbenaceæ 馬鞭草科**
295) *Callicarpa japonica*, Thunb. むらさきしきぶ
296) *Clerodendron trichotomum*, Thunb. くさぎ
297) *Vitex ovata*, Thunb. はまがう
- LXXVIII. Labiatæ 唇形科**

- 298) *Ajuga decumbens*, Thunb. きらんさう
 299) *Elscholtzia cristata*, Willd. なぎなたこうじゆ
 *300) *Lamium takesimense*, Makai. たけしまをどりこさう (新種)
 301) *L. amplexicaulis*, L. ほとけのざ
 302) *Leonurus sibiricus*, L. めはじき
 303) *Lophanthus rugosus*, Fischer et Mey. かはみどり
 304) *Plectranthus inflexus*, Vahl. やまはつか
 305) *Satureia chinensis*, Briq. くるまばな
 306) *S. multicaulis*, Matsum. et Kudo. やまとうばな
 307) *Scutellaria scordifolia*, Fisch. v. *subglabra*, Kom. なみきさう
 308) *Thymus Serpyllus*, L. いぶきじやこうさう

LXXXIX. Solanaceæ 茄科

- 309) *Physalis angulata*, L. せんなりほほづき
 310) *Solanum Dulcamara*, L. v. *heterophyllum*, Makino. やまほろし
 311) *S. lyratum*, Thunb. ひよどりじようご
 312) *S. nigrum*, L. いぬほほづき

LXXX. Scrophulariaceæ 玄参科

- *313) *Paulownia tomentosa*, Koch. きり
 314) *Scrophularia Grayana*, Maxim. えぞのひなのうすつぼ
 315) *Veronica agrestis*, L. いぬのふぐり
 *316) *V. insularis*, Nakai. たけしまくはがた

LXXXI. Orobanchaceæ 列當科

- 317) *Lathraea japonica*, Miq. やまうつぼ
 318) *Orobanche caerulea*, Steph. はまうつぼ

LXXXII. Plantaginaceæ 車前科

- 319) *Plantago depressa*, Willd.
 320) *P. major*, L. v. *asiatica*, Dene. おほばこ
 321) *P. sibirica*, Poir. ながばおほばこ

LXXXIII. Rubiaceæ 茜草科

- 322) *Asperula odorata*, L. くるまむぐら
 323) *Galium Aparine*, L. あほやえむぐら
 324) *G. trifloriforme*, Kom. きくむぐら
 325) *G. strigosum*, Thunb. やえむぐら
 326) *Mitchella undulata*, Sieb. et Zucc. つるありどうし
 327) *Pederia tomentosa*, Bl. へくそかづら

328) *Rubia cordifolia*, L. v. *Mungista*, Miq. あかね

LXXXIV. Caprifoliaceæ 忍冬科

- *329) *Abelia insularis*, Nakai. たけしまつくばねうつぎ(新種)
*330) *Lonicera insularis*, Nakai. たけしまへうたんぼく
*331) *Sambucus pendula*, Nakai. やうらくにはとこ(新種)
332) *Viburnum Carlesii*, Hemsl. おほちうじがまづみ(朝鮮特産)
333) *V. furcatum*, Bl. むしかり
334) *V. Wrightii*, Miq. みやまがまづみ

LXXXV. Valerianaceæ 敗醬科

- 335) a) *Valeriana officinalis*, L. v. *latifolia*, Miq. ひろはかのこさう
* b) *v. integra*, Nakai. ながばかのこさう(新變種)

LXXXVI. Cucurbitaceæ 胡蘆科

- 336) *Gymnostemma pedatum*, Bl. あまちゃづる

LXXXVII. Campanulaceæ 桔梗科

- *337) *Campanula takesimana*, Nakai. たけしまほたるぶくろ(新種)

LXXXVIII. Compositæ 菊科

- 338) *Adenocaulon adhaerescens*, Max. のぶき
339) *Artemisia desertorum*, Spr. ほそばをとこよもぎ
340) *A. japonica*, Thunb. をとこよもぎ
341) *A. mongolica*, Fischer. ほそばよもぎ
342) *A. vulgaris*, L. おほよもぎ
343) *Aster Glehnii*, Schmidt. ごまな
344) *A. Oharai*, Nakai. おほだるまぎく(朝鮮特産)
345) *Bidens bipinnata*, L. せんだんぐさ
346) *B. tripartita*, L. たうこぎ
347) *Cacalia farfaræfolia*, Sieb. et Z. v. *ramosa*, Matsum. おほかはもりさう
348) *Carduus crispus*, L. ひれあざみ
349) *Carpesium abrotanoides*, L. やぶたばこ
350) *C. divaricatum*, Sieb. et Zucc. がんくびさう
351) *C. rosulatum*, Max. ひめがんくびさう
*352) *Chrysanthemum lucidum*, Nakai. てりはぎく(新種)
353) *Cirsium nipponicum*, Makino. ひめあざみ
354) *C. segetum*, Bunge. あれちあざみ
355) *Crepis japonica*, A. Gray. やぶたびらこ

- | | | |
|------|--|----------|
| 356) | <i>Eupatorium japonicum</i> , Thunb. | ふぢばかま |
| 357) | <i>Gnaphalium luteo-album</i> , L. | ははこぐさ |
| 358) | <i>Hemistepta carthamoides</i> , O. Kuntz. | きつねあざみ |
| 359) | <i>Lactuca chinensis</i> , Makino. | たかさごさう |
| 360) | L. <i>denticulata</i> , Max. | やくしさう |
| 361) | L. <i>laciniata</i> , Makino. | あきののげし |
| 362) | L. <i>Matsumurae</i> , Makino. | のにがな |
| 363) | L. <i>stolonifera</i> , Benth. | いはにがな |
| 364) | L. <i>triangulata</i> , Regel. | やまにがな |
| 365) | <i>Petasites japonica</i> , Miq. | ふき |
| 366) | <i>Saussurea brachycephala</i> , Fr. | ひめしらねあざみ |
| 367) | <i>Siegesbeckia orientalis</i> , L. | めなもみ |
| 368) | <i>Solidago Virga-aurea</i> , L. | あきのきりんさう |
| 369) | <i>Sonchus asper</i> , Hill. | おにのげし |
| 370) | S. <i>oleraceus</i> , L. | のげし |
| 371) | <i>Taraxacum platycarpum</i> , H. Dahlst. | たんぽぽ |
| 372) | <i>Xanthium Strumarium</i> , L. | をなもみ |

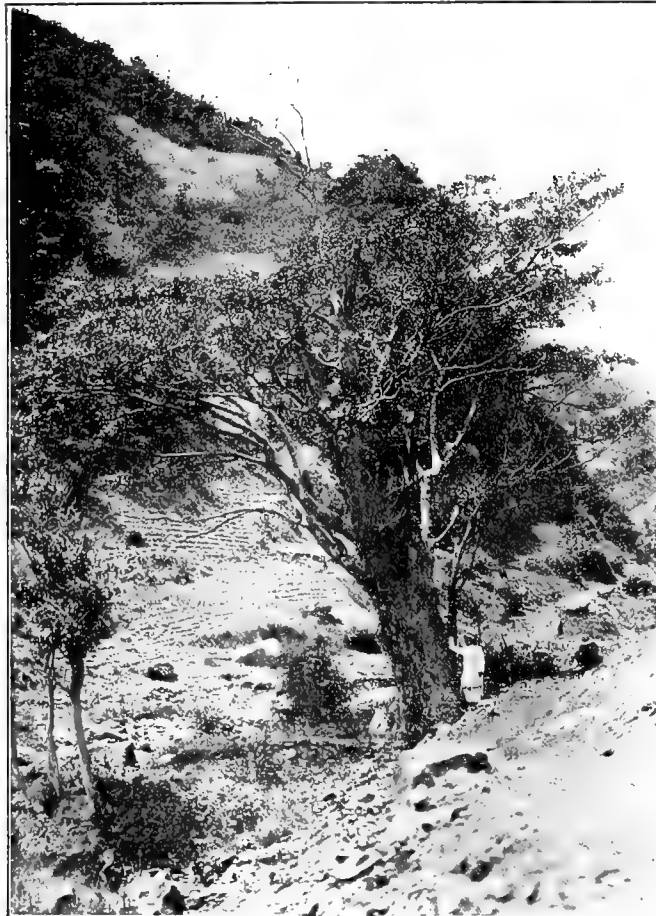


玄圃ノ海岸。つばきノ群落、鳥ハ風強キ故海岸ノ樹木ハ皆斯ノ如ク内地ニ向フ。

(6) 海岸植物帯ト山地植物帯トノ區別

鬱陵島ハ既述ノ如ク寒暖兩流ノ支配ヲ受ケテ、氣候寒カラズ暑カラザル爲メ暖帶植物ノ分子ヲ含ミ、常綠潤葉樹多シ、特ニ潮流ノ最モ多ク影響アル六百米突以下ニ於テ然リトス、大凡左ノ如シ。

Machilus Thunbergii	いぬぐす	Malapocenna Sieboldii	しろだも
Daphniphyllum macropodum	ゆづりは	Ilex integra	もちのき
Euonymus japonicus	まさき	Camellia japonica	つばき
Elæagnus macrophylla	まるばぐみ	Hedera japonica	きづた



いぬぐすノ老木^{トクニ}。通丸味ニアリ。側ニ立テル中井囑託ト比較スレバ其大サヲ知り得ベシ。以前ハ斯ノ如キ木ハ稀トラザリシモ皮ヲ剥ガシテハ枯シ、後伐リ探リ、此以上ノモノハ殆ンドナシ。

Ancuba japonica あをき *Ardisia japonica* やぶこうじ
Akebia quinmata あけび *Vitex ovata* はまがう
 之レニ加フルニ

Aphananthe aspera むくのき *Broussonetia papyrifera* かぢのき
Schizophragma hydrangenoides いはがらみ
Fagara ailanthoides からすざんしょう

等ノ落葉性ノ暖帶植物ヲ以テス。斯ノ如キ植物帶ハ朝鮮半島ニテハ全羅南道ノ南部ニ非レバ見ルヲ得ズ、故ニ鬱陵島ハ緯度ニ於イテ遙カニ全南ヨリ北方ニ位スレモ、尙ホ其南端ニアルガ如シ。然ルニ重ネテ寒流ノ影響モアル故氣候高カラズ、故ニ海岸ノ岩上ニつが、ひめこまつノ如キ山地植物ノ混生スルヲ見ルノミナラズ

Taxus cuspidata いちむ *Sasa kurilensis* ちしまざさ
Fagus multinervis たけしまぶな
Rhododendron brachycarpum しろばなしやくなげ

ノ如キ山地植物スラ成育スル如キ奇觀ヲ呈ス。余ハ台霞、南陽洞間ノ山ニテつが林ノ下木トシテつばき林アリ、其又下木トシテしろばなしやくなげアリ。其下ニハやぶかうじノ生ズル所ヲ見タリ。之レニ氣温ガ植物分布上ニ主要ノ因ヲナスヲ證明スルト共ニ、鬱陵島ノ植物帶ガ他ニ類ナキヲ表明スル所以ナリ。六百米突ヨリ山頂九百二十米突迄ハ常緑潤葉樹少ナク、僅カニつるまざさノ樹幹ニ纏ハルアルノミ、而シテ常緑潤葉樹ニ代ルモノハ

Sorbus commixta ななかまど *Acer Okamotoanum* をにいたや
Tilia insularis たけしましなのき *Acer takesimense* あきのはうちは
 等ニシテたけしまぶな、つが等ハ大ニ其個數ヲ増ス。今六百米突ヲ界シテ分布ノ限定サレシ樹木類ヲ區別スレバ大凡左ノ如シ。

六百米突以下

六百米突以上

<i>Juniperus chinensis</i> びやくしん		<i>Viburnum furcatum</i> むしかり
<i>Pinus densiflora</i> あかまつ		<i>Viburnum Wrightii</i> みやまがまづみ
<i>Sasa japonica</i> やだけ		<i>Enonymus striata</i> v. <i>microphylla</i>
<i>Salix Ishidoyama</i> たけしまやなぎ		こばまゆみ
<i>S. korocensis</i> かうらいやなぎ		
<i>Abelicea serrata</i> けやき		
<i>Aphananthe aspera</i> むくのき		
<i>Broussonetia papyrifera</i> かぢのき		
<i>Clematis paniculata</i> せんになさう		
<i>C. triphylla</i> ぼたんづる		

Akebia quinata あけび
Cebatha orbiculata あをつづらふぢ
Machilus Thunbergii いぬぐす
Malapoenna Sieboldii しろだも
Opulaster insularis たけしましもつけ
Spiraea obtusa やましもつけ
Cotoneaster Wilsonii

たけしましやりんたう

Pourthiaea villosa Zollingeri かまつか
Rosa Luciae てりはのいばら
R. multiflora のいばら
Rubus Oldhami さなぎいちご
R. phænicolasius うらじろいちご
Fagara ailanthoides

からずさんしょう

Zanthoxylum piperitum さんしょう
Picrasma quassioides にかき
Daphniphyllum macropodum ゆづりは
Rhus javanica ふしのき
Ilex integra もちのき
Euonymus japonicus まさき
Hovenia dulcis けんぼなし
Camellia japonica つばき
Elaeagnus macrophylla まるばぐみ
Hedera japonica きづた
Aucuba japonica あをき
Cornus brachypoda くまのみづき
Vitex ovata はまがう
Paulownia tomentosa きり
Abelia insularis

たけしまつくばねうつぎ

Lonicera insularis

たけしまへうたんぼく

Viburnum Carlesii てうじがまづみ
Aster Oharai おほだるまぎく

即チ兩者ヲ比較スレバ、六百突以下ハ甚ダシク多種ニシテ、其中ヨリ純海岸分子タルてりはのいばら、まるばぐみ、はまがう、たけしまへうたんぼく、おぼだるまぎくヲ除クモ、六百米突以上ニ限定セルモノトハ 36 對 3 ト云



上峯ノ頂(九百二十米突)附近。A. ななかまど B. しろばなしやくなげ C. ちしまざさ

フ奇觀ヲ呈ス。然レドモ次表ノ如キ要樹ヲ以テ兩者、自ラ其植物群落ノ狀ヲ異ニス。

六百米突以下ノ主要樹

<i>Machilus Thunbergii</i>	いぬぐす
<i>Malapenna Sieboldii</i>	しろだも
<i>Ilex integra</i>	もちのき
<i>Hovenia dulcis</i>	けんぼなし
<i>Lonicera insularis</i>	
	たけしまへうたんぼく
<i>Rubus takesimensis</i>	
	たけしまくまいちご
<i>Eleagnus macrophylla</i>	まるばぐみ
<i>Euonymus japonicus</i>	まささ
<i>Camellia japonica</i>	つばき

六百米突以上ノ主要樹

<i>Fagus multinervis</i>	たけしまぶな
<i>Acer Okamotoanum</i>	をにいたや
<i>Sorbus commixta</i>	ななかまど
<i>Tilia insularis</i>	たけしましなのき
<i>Prunus takesimensis</i>	たけしまざくら
<i>Acer takesimense</i>	あきのはうちは
<i>Rhododendron brachycarpum</i>	
	しろばなしやくなげ
<i>Alnus Maximowiczii</i>	みやまはんのき
<i>Sasa kurilensis</i>	ちしまざさ

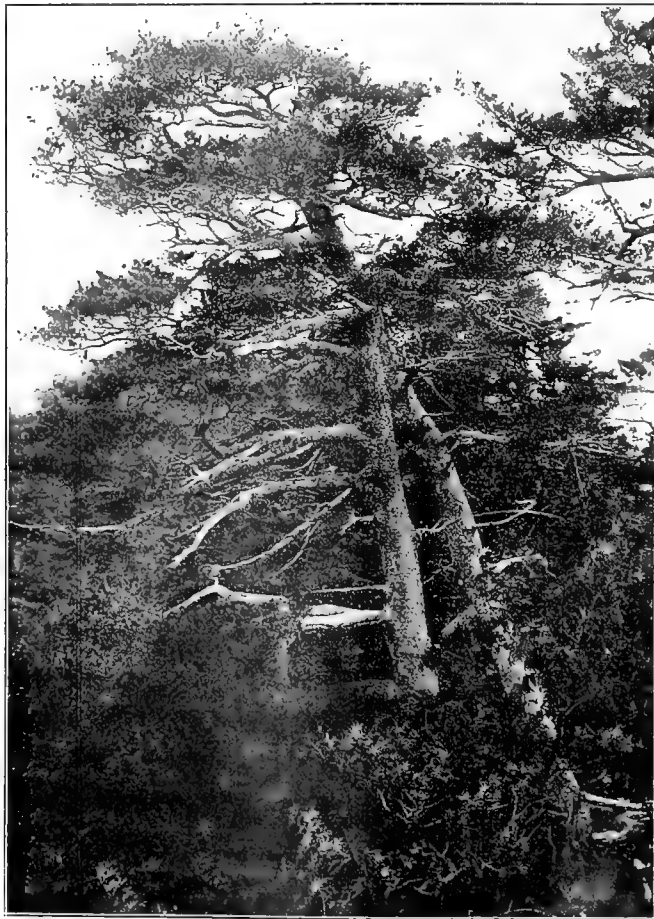
Sasa japonica

やだけ

|

(7) 島ノ植物帯ノ特色

- 1) 植物ノ種類少キニ特産植物多キ事。
- 2) 山地植物ト海岸植物トガ、海岸地方ニ於テノミナラズ。標高六百米突以下ニテハ何處ニテモ混生スル事。



ひめこまつ。

上峯ノ一岩角ニアリ。

伐採困難故斧ノ厄ヲ免レシモノナリ。

- 3) 特産植物タルたけしまぶな、たけしましなのき、をにいたやトガ殆ンド純林ヲナシテ山頂ニ群生スルコト。
- 4) つが、ひめこまつ、おほいたどり、等ノ朝鮮ニナキ純日本植物ガヨク繁茂シアル事。

- 5) 朝鮮本土ノ同緯度ノ地ニ比シ著シク南地性ノ常緑潤葉樹多キ事。
- 6) さるなし、またたび、つるあぢさい、いはがらみ、つるまさき、つた、きづた等ノ纏攀植物多ク、樹幹岩面ヲ被フ事。
- 7) おほまひづるさう、ぎようじやにんにく、おほすはまさう等ノ單純叢アル事。
- 8) 朝鮮本土ニ於ケルヨリモ草木ノ葉ノ潤大ナルモノ多キ事。
- 9) 水草ニ乏シキ事。
- 10) 純海岸植物ニ乏シキ事。
- 11) 美花ヲ開クモノ少ナキ事。

(8) 島ノ特産植物

- 1) *Athyrium acutipinnulum*, Kodama. たけしまめしだ
ほそばめしだニ似テ葉幅廣ク、丈高ク、鋸齒トガル、南西洞ノ山中ニアリ。
- 2) *Dryopteris takesimensis*, Kodama. たけしましだ
てりはべにしだニ似テ下方ノ羽片特ニ長ク、鱗片ノ形ヲ異ニス、彌勒峯ト上峯トノ間ニアル岩山ノ絶壁ニ着生ス、稀品ナリ。
- 3) *Polystichum subbipinnatum*, Kodama. おほしゆもくしだ
しゆもくしだヨリ葉幅廣ク、光澤乏シク、葉色ハ深綠色ナラズ、裂片ハ深く缺刻ス、錐山ノ溪流ニ沿ヒ生ズ。
- 4) *Carex brepharicarpa*, Fr. v. *insularis*, Nakai. たけしましろうじょうすげ
しろうじょうすげノ一變種ニシテ、穎ニ毛乏シ。全島ノ山林ニ生ズ。
- 5) *Carex takesimensis*, Nakai. たけしまなるこすげ (東京植物學雜誌第三十一卷二百八十二頁)
概形ハ最モ *Carex jaluensis* てうせんかさすげニ似タレドモ、穎ハ兩凸レンズ狀ナリ、沙洞ノ奥ノ卑濕地ニ生ズ。
- 6) *Carex viridissima*, Nakai. たけしまかんすげ (東京植物學雜誌第三十一卷二百八十一頁)
葉ハかんすげト同ジク、葉ノミニテハ區別シ得ザレドモ穎ハ多數密生シ、且其形ハひめかんすげニ似テ綠色ナリ。全島ノ森林ニ生ズ。
- 7) *Lilium Hausonii*, Lautschlin. たけしまゆり
古來武島百合又ハ竹島百合トシテ知ラル、モノニシテ、實ニ本島ノ原産ナリ。鱗莖ハをにゆりに似、葉ハ輪生シ、其輪生セルハ二三乃至四階ヲナシ、花ハ黃色ニシテ多肉ナリ。全島ノ樹林下ニ生ズ。
- 8) *Salix I-hidoyama*, Nakai. たけしまやなぎ (東京植物學雜誌第三十一卷

二十五頁)

葉ハたんなやなぎ *Salix hallaisanensis* ニ似タレドモ、葉莖花ハ長サ其半ニモ達セズ、果實細ク、腺ハ瓶狀ナリ。南望樓臺國有林並ニ沙洞ノ上方ノ山脊ニ生ズ。

- 9) *Fagus multinervis*, Nakai. たけしまぶな(朝鮮森林植物編第三輯第一圖) いぬぶなニ似テ單ニ葉形ヲ以テスレバ區別困難ナリ。余ハいぬぶな又ハ其近似ノ種ナルベシト云ヒ置キシガ、今回其花ヲ發見シ、同行セル E. H. Wilson 氏苦心シテ其樹幹ニ攀ヂテ之レヲ採收セシモノヲ見ルニ其雄花ノ花梗太ク一見いぬぶなト異リ、又葉ハ一般ニいぬぶなヨリ早ク毛ヲ失ヒ且僅カニ幅廣シ。全島ノ山林ニ生ジ島ノ主要樹ナリ。



たけしまぶな。羅里洞ヨリ南陽洞ニ越ス峠ノ羅里洞側ニアリ、樹ノ下ニ立テル中井囑託ト比較シテ其大サヲ推測シ得。

10) *Phytolacca insularis*, Nakai. たけしまやまごぼう

大ナル株ヲナシ莖ノ高サ四五尺、*P. esculenta* = 似タル所アレドモ雄蕊ハ皆完全ナリ、鬱陵島ニモアレドモ竹島ニ特ニ多シ。

11) *Hepatica maxima*, Nakai. おほすはまさう(東京植物學雜誌第三十一卷二十七頁 *Anemone maxima* 參照)

Hepatica triloba すはまさう = 似テ葉ハ二倍以上ノ大サアリ、花ハ直徑七八分以上アリテ、子房ニ毛ナシ、山林下ニハ至ル所ニ生ジ盛ニ群生ス。

12) *Corydalis filistipes*, Nakai. たけしまえんごさく

球根ハ直徑七八分以上アリテ黄色ナリ、葉ハ三回三出シ淡白ク、花ハ淡紫色ニシテ小テアレドモ、花梗ハ細ク長サ少クモ一吋以上アリ、羅里洞峯ヨリ上峯ニ亘ル間ノ峯嶺キニ生ジ、寧ロ稀品ナリ。



たけしまざくらノ老木。中央ニ腰カケタル樹通譯ニ比較
シテ其大サヲ推測シ得ベシ。上峯ノ羅里洞側ニアリ

- 13) *Arabis takesimana*, Nakai. たけしまはたざぼ
いははたざぼ = 似テ花美シク葉 = 毛乏シ、山中樹林下 = 多ク生ズ。
- 14) *Arabis Stelleri*, DC. var. *macrocarpa*, Nakai. たけしまはまはたざぼ
はまはたざぼ = 似テ長角長シ、道洞國有林ノ海岸ノ岩上 = 生ズ、多カラズ。
- 15) *Sedum takesimense* Nakai. たけしまきりんさう
大形ノほそばきりんさう状ノ形態ヲナセドモ莖ノ下部ハ多年生トナリ且、
きりんさうヲ太クセン如ク分岐ス、海岸ノ岩上 = 多シ。
- 16) *Opulaster insularis*, Nakai, たけしましもつけ
葉ハ *O. monogynus* = 似タリ。但シ本屬中最モ葉ノウスキ種ナリ。道洞
國有林ノ岩上 = 生ジ僅ニ一本ヲ見出セシノミニテ、花並ニ果實ヲ見ズ。
- 17) *Cotoneaster Wilsonii*, Nakai. たけしましやりんとう
波斯産ノ *C. racemiflora* = 似テ葉ノミニテハ區別シ難シ、花ハ毛少ナク果
實卵形ナルヲ以テ異リ、道洞國有林ノ岩上、錐山ノ岩上等 = 着生シ、稀品
ナリ。
- 18) *Potentilla Dickinsii*, Fr. et Sav. var. *glabrata*, Nakai. たけしまいはき
んばい



たけしまざくらノ花。大正六年ハ島 = 大雪アリシ爲メ山上 = ハ所々 = 雪ヲ殘
シ、爲メ = 四月 = 咲クベキ花ガ六月始メ余ガ山上セシトキニモ殘レリ、寫眞ハ上峯上
ニテ撮リシモノナリ。

いはきんばい *P. Dickinsii* = 似テ葉幅廣ク毛少ク、鋸齒丸シ、沙洞兄弟岩並 = 錐山ノ岩上ニ生ズ、稀品ノ部ニ屬ス。

19) *Rubus takesimana*, Nakai. たけしまくまいちご

くまいちご *Rubus crataegifolius* = 近似ノ種ナレドモ枝太ク葉ハかぢいちご *Rubus hydrastifolius* = 類シ、刺少ナク、花大ナリ。果實ハくまいちごノ大形ノモノニ同ジク美味ナリ、全島ニ生ズ。

20) *Prunus takesimensis*, Nakai. たけしまざくら

おほしまざくら *P. Lannesiana* = 似テ花梗殆ンドナシ。又樹ハやまざくら狀ニ高ク伸ビおほしまざくらノ如ク基部ヨリ分岐セズ、花白ク香氣アリ。又芽ニ粘質ヲ有ス。



1. たけしまきはだ 2. をにいたや

沙洞ノ奥ニハたけしまきはだ多シ。余ハ羅里洞峯ニテ合抱ノ老樹ヲ見タリ、材質ヨク器具ノ製作ニ適ス。

21) *Phellodendron insubae*, Nakai. たけしまきはだ

ひろはきはだ *P. sachalinense* = 似テ、樹膚ハ木栓質ヲ有シ、花梗細シ。

22) *Enonymus striatus*, Makino v. *microphyllus*, Nakai. こばまゆみ (東京植物學雜誌第三十一卷二十七頁)

こまゆみ *E. striatus* = 似テ葉ノ小ナルヲ異ニス。羅里洞峯、上峯ノ頂ニ生ズ。



こばまゆみ。小サキ葉ヲツケ居ルモノ是ナリ。上峯ニアリ、高サ四五尺。

- 23) *Acer Okamotoanum*, Nakai. をいたや(東京植物學雜誌第三十一卷二十八頁)

いたやかへで *A. pictum* = 似テ一層大木トナリ。葉大 = 花ハ二倍以上アリテ果實モ亦大ナリ。森林植物編第一輯ニをきのはうちはトアルモノ、果實ハ夫ナリ。當時採收者岡本氏入營不在中ニテ、間接ニ誤リ傳ヘテ別種ノ葉ト混ズルニ至レリ、山中至ル所ニアリ。

- 24) *Acer takesimense*, Nakai. をきのはうちは(朝鮮森林植物編第一輯第七面ノ葉ノミ)

くはがたはうちは = 近ケレドモ葉ハ常ニ十二裂片以上ニ切レ、果實ハてうせんはうちは = 似タリ、道洞國有林ノ岩上並ニ山上ノ森林ニ生ズ。

- 25) *Tilia insularis*, Nakai. たけしましなのき(東京植物學雜誌第三十一卷二十七頁)

しなのき *Tilia japonica* = 似テ一層喬木トナリ、葉ハ厚シ。

- 26) *Viola insularis*, Nakai. たけしますみれ

葉ハちほたちつぼすみれ *V. Kusanoana* = 似、花ハつぼすみれ *V. verecunda* = 似タリ、恐ラク兩種ノ間種ナルベシ、石門洞ノ奥ニ生ズ。

- 27) *Angelica takesimana*, Nakai. たけしまししうど

にほひうど *A. Uchiyamana* = 似テ丈高ク、花大ナリ。海岸地方ニ至ル所ニ生ジ、高サ六七尺ニ達スルモノアリ。



シリョウノホシ
羅里洞峯上ノをにいたやノ純林。向テ右ノホハ直径
三尺ノ幹ヲ有ス。たけしましたのきト共ニ本島ニ於ケル潤葉樹中最大
ノモノナリ

28) *Bupleurum latissimum*, Nakai. たけしまさいこ (東京植物學雜誌第三十一卷二十八頁)

ほたるさいこ *B. sachalinense* = 近キ種ナルモ葉ハ二倍以上ノ廣サアリテ苞モ又丸シ、海岸ノ岩上ニ生ジ、特ニ道洞附近、南陽洞附近ニ多シ。

29) *Ligustrum foliosum*, Nakai. たけしまいぼた

えほばいぼたニ似テ葉ノ表面ハ葉脈間入セズ、花序ニ葉ヲ混ズ、六百米突邊ニ最モ多ク生ズ。



たけしましなのきノ老木。苧洞ノ奥ニアリ、側ニ立テル中井鳩託ト比較スレバ其大サヲ知り得ベシ。目通直径二十五尺高サ約百尺。

- 30) *Syringa venosa*, Nakai. たけしまはしどひ
てうせんはしどひニ似テ葉ヤ、丸ク光澤アリ、葉ノ表面ノ葉脈ハ著シク凹入ス、花ハ白色、紫赤色等アリ、山上ノ岩角ニ生ジ寧ロ稀品ナリ。
- 31) *Lamium takesimense*, Nakai. たけしまをどりこさう
をどりこさうニ似テ大形ニシテ葉ニ毛ナシ、花ハえぞをどりこさうノ如ク純白ニシテ且大形ナリ、山中至ル所ニアリ。
- 32) *Paulownia tomentosa*, Koch. きり
きりハ古來日本ニテ栽培スレドモ其原産地不明ナリシガ、鬱陵島ハ其原産地ナルコトヲ知ルニ至レリ。十年前迄ハ直径六七尺餘ノ老木アリシモ伐採シ盡シテ今ハ玉泉洞ノ斷崖、錐山ノ斷崖、等ニ其名残ヲ止ム。



沙洞ニ於ケル自生樹ノ切株ヨリ發生セル新幹。

- 33) *Veronica, insularis* Nakai. たけしまくはがた
Veronica Schmidtii = 似テ大形ニシテ花大ナリ。五百米突以下ノ草地ニ生ズ。
- 34) *Abelia insularis*, Nakai. たけしまつくばねうつぎ。
北支那産ノ *Abelia biflora* = 似タル種ナレドモ、葉幅廣ク苞ノ形ヲ異ニス。道洞國有林ト南望樓臺國有林トノ岩上ニ生ズ。稀品ナリ。
- 35) *Lonicera insularis*, Nakai. たけしまへうたんぼく (東京植物學雜誌第三十一卷三十頁)
へうたんぼく *L. Morrowi* = 似テ葉幅廣ク、花大ナリ。果實ハ成熟スレバ紅色ニシテ美シ。海岸地方ニ至ル所ニ生ズ。
- 36) *Sambucus pendula*, Nakai. ようらくにはとこ。(東京植物學雜誌第三十

一卷二百十二頁)

にはとこ屬中ニアリテ本種ノ如ク花穂ノ垂ル、モノナシ。皮ハ木栓質アツシ。殆ンド全島ノ森林ニ生ズ。果實成熟スレバ穂ハ益々下垂シ頗ル美シ。



ようらくにはとこ。道洞國有林ニテ攝ル。

- 37) *Valeriana officinalis*, L. v. *integra*, Nakai. ながばかのこさう
かのこさう *V. officinalis* v. *latifolia* = 似テレドモ葉ノ裂片ハ狭長ニシテ
全縁ナリ。羅里洞ニ生ジ、稀品ナリ。
- 38) *Campanula takesinana*, Nakai. たけしまほたるぶくろ
ほたるぶくろ *C. punctata* v. *rubriflora* = 似テ葉厚ク光澤アリ。花ハ白色
ニシテ紫斑アリ。萼ノ脈特ニ著シ、海岸一帯ニ散在シ、所々ニ群生ス。

<i>Machilus Thunbergii</i>	イヌグス			×	×	×	×	×	×					
<i>Malapenna Sieboldii</i>	シロダモ			×	×	×	×	×	×					
<i>Hydrangea petiolaris</i>	ツルアゲサイ				×		×	×	×	×	×	×	×	×
<i>Schizophragma hydrangeoides</i>	イハガラミ				×	×	×	×	×	×	×	×	×	
<i>Opulaster insularis</i>	タケシマシモツケ													
<i>Spiraea obtusa</i>	ヤマシモツケ			×				×						
<i>Cotoneaster Wilsonii</i>	タケシマシヤリンドウ													
<i>Pourthrea villosa Zollingeri</i>	カマツカ			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
<i>Sorbus commixta</i>	ナナカマド			×	×			×	×	×	×	×	×	×
<i>Rosa Luciae</i>	テリハノイバラ				×	×			×	×				
<i>Rosa multiflora</i>	ノイバラ			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
<i>Rubus takesimensis</i>	タケシマクマイチゴ													
<i>Rubus Oldhami</i>	サナギイチゴ			×	×				×	×	×			
<i>Rubus phoenicolasius</i>	エビガライチゴ			×	×	×		×	×	×	×	×	×	×
<i>Prunus takesimensis</i>	タケシマザクラ													
<i>Pueraria hirsuta</i>	クズ			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
<i>Fagara ailanthoides</i>	カラスザンショウ								×	×				
<i>F. a. v. inermis</i>	トゲナシカラスザンショウ								×	×				
<i>Phe'lodendron insulare</i>	タケシマキハダ													
<i>Zanthoxylum piperitum</i>	サンショウ			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
<i>Picrasma quassioides</i>	ニガキ			×	×	×			×	×	×	×	×	×
<i>Daphniphyllum macropodum</i>	ユヅリハ								×	×	×	×	×	×
<i>Rhus javanica</i>	フシノキ			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
<i>Ilex integra</i>	モチノキ								×	×	×	×	×	×
<i>Euonymus japonicus</i>	マサキ			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
<i>Euonymus oxyphyllus</i>	ツリバナ			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
<i>Euonymus radicans</i>	ツルマサキ								×	×	×	×	×	×
<i>Euonymus striatus</i>	コマユミ			×	×	×			×	×	×	×	×	×
<i>E. s. v. microphyllus</i>	コバマユミ			×	×	×			×	×	×	×	×	×
<i>Acer Okamotoanum</i>	オニイタヤ													
<i>Acer takesimensis</i>	ヲキノハウチハ													
<i>Hovenia dulcis</i>	ケンボナシ								×	×		×	×	×
<i>Ampelopsis heterophylla</i>	ノブドウ			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
<i>Quinaria tricuspidata</i>	ツタ			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
<i>Vitis Cointeti glabrescens</i>	タケシマブドウ			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
<i>Tilia insularis</i>	タケシマシナノキ													
<i>Actinidia arguta</i>	マタタビ			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
<i>Actinidia polygama</i>	サルナシ			×	×	×			×	×	×	×	×	×
<i>Camellia japonica</i>	ツバキ								×	×	×	×	×	×
<i>Elaeagnus macrophylla</i>	オホバグミ								×	×	×	×	×	×

<i>Marlea platanifolia macrophylla</i> ウリノキ		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		
<i>Aralia chinensis</i> タラノキ	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
<i>Heler japonica</i> キヅタ				x	x	x	x	x	x	x				
<i>Kalopanax ricinifolius</i> ハリギリ	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
<i>Aucuba japonica</i> アヲキ					x	x	x	x	x					
<i>Cornus brachypoda</i> クマノミヅキ				x	x		x	x	x					
<i>Cornus controversa</i> ミヅキ		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
<i>Rhododendron brachycarpum</i> シロバナシヤクナゲ		x	x	x			x		x	x	x	x		
<i>Ardisia japonica</i> ヤブカウジユ				x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
<i>Diospyros Lotus</i> シナノガキ					x									
<i>Styrax Obassia</i> ハクウンボク		x	x	x	x				x	x	x	x		
<i>Ligustrum foliosum</i> タケシマイボタ														
<i>Syringa venosa</i> タケシマハシドヒ														
<i>Callierpa japonica</i> ムラサキシキブ			x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
<i>Clerodendron trichotomum</i> クサギ		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
<i>Vitex ovata</i> ハマガウ				x	x	x	x	x	x					
<i>Thymus serpyllus</i> イブキジヤカウサウ	x	x	x							x	x	x	x	x
<i>Iaulownia tomentosa</i> キリ														
<i>Praderia tomentosa</i> ヘクソカツラ		x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
<i>Abelia insularis</i> タケシマツクバネウツギ														
<i>Lonicera insularis</i> タケシマヘウタンボク														
<i>Sambucus pendula</i> ヤウラクニハトコ														
<i>Viburnum Carlesii</i> オホチヨウジガマツミ			x	x										
<i>Viburnum furcatum</i> ムシカリ						x			x	x	x	x	x	x
<i>Viburnum Wrightii</i> ミヤマガマズミ		x	x						x	x	x	x	x	x
<i>Aster Oharni</i> オホダルマガク				x										
計 91		9	29	48	57	51	37	49	60	64	53	42	14	

(備考) 朝鮮北部ト云フハ元山、平壤ヲ連スル線以北、中部ト云フハ其以南ニシテ迎日嶺、仁川ヲ連スル線以北、其以南ヲ南部トス。又本島ノ西部ト稱スルハ敦賀、琵琶湖ヨリ伊勢嶺頭ヲ連スル線以西、中部ト稱スルハ其ヨリ以東、阿武隈川、信濃川爾河口ヲ連スル線ニ至ル迄、北部トハ其以北ヲ云フ。

此表ニ依レンバ鬱陵島ノ木本植物大凡九十一種中、最モ多ク共有分子ヲ有スルハ本島ノ中部ニシテ六十四種アリ、次テ本島西部ノ六十種、朝鮮南部ノ五十七種、本島北部ノ五十三種、九州ノ五十一種、隠岐ノ四十九種、朝鮮中部ノ四十八種、北海道ノ四十二種、對馬ノ三十七種、朝鮮北部ノ二十九種、樺太十四種、烏蘇利九種ノ順トナル。

烏蘇利ヨリ下リテ朝鮮南部ニ至ル迄逐次共有分子ヲ増スハ鬱陵島ノ氣候ガ溫和ニシテ烏蘇利ニ生ズルガ如キ植物ノ繁茂ニ適セザルハ其一因ニシテ、其山地植物ガ主トシテ日本、朝鮮ノ山地植物要素ナルハ其二因ナリ。之レ

ヤガテ朝鮮、日本ハ本來同一帯ノ植物區ニアリテ烏蘇利ハ既ニ往古ヨリ其帶ノ以北ニ位セシ別個ノ植物區ヲナセシヲ證セルモノナリ。烏蘇利ト共有分子ハいぶさじやかうさうヲ除ク外ハ朝鮮ノ南部ニ至ル迄盡ク分布シ、朝鮮北部ニアルモノハみやまはんのきヲ除クノ外ハ之ト相同ジ。中部ニ至リテハ少シク異例ヲ有ス。即ハチ南北兩部ニナキモノニびやくしん、やましもつけ、アリ。又屬ノ上ヨリスレバつくばねうつぎ屬、しやりんと屬ハ北部ニアリテ中部、南部ニナク、いぬぐす屬、しろだも屬、ゆづりは屬、もちのき屬、つばき屬ハ南部ニアリテ中部、北部ニナシ、面シテつくばねうつぎ屬トしやりんと屬トハ共ニ北地性ノ屬ニハアラズシテ兩者共ニ溫帶中部又ハ南部ノモノニシテ此島ニ斯ル屬ガアル上ニ其ニ屬スル種ガ皆特有ノ種ナルヨリ推セバ、其存在ハ鬱陵島ガ朝鮮北部ニ近似ナルヲ示スニハアラズシテ、反陸ノテ往古ヨリ大陸ノ一部トシテ現位置ニ存在シ同島附近一帶ニ存在セシ舊大植物ガ、此平穩ナル島嶼上ニ餘喘ヲ保チツ、アルモノト見ルベキモノトス。

翻テ日本側ニツイテ見ルニ先ヅ對馬、隱岐兩島ヲ除ケバ、近縁ノ度ハ中部、西部、北部ノ順トナル。今中部ト西部トヲ比較センニ、鬱陵島ト本島西部ト共通ノ分子ハ皆本島中部トモ共通ニシテ、中部ニハ其上ニ更ニ西部ニナキ、ちしまざさ、みやまはんのき、しろばなしやくなげ、いぶさじやかうさうノ四種ヲ共有ス。而シテ此等ハ何レモ稍寒地ノ植物ナレトモ、中國ノ山地特ニ三千尺以上ノ地ニ本來生ゼシナラバ、現存シ得ザル理由ナシ、故ニ此等ノ植物ハ本來、本島ノ西部ニハ存在セザリシモノト考フベク、從ツテ鬱陵島ガ日本ト連結セシ頃ヨリ分離ニ至ル迄、本島西部ハ本島中部並ニ鬱陵島ヨリハ暖地ナリシヲ知り得ベシ。

中部ト北部トヲ比較スルトキハ、中部ト共通ノモノニシテ北部ニナキモノハ左ノ十一種ナリ。

むくえのき、いぬぐす、しろだも、てりはのいばら、からずざんしょう、ゆづりは、つるまささ、おほばぐみ、あをき(其變種ハアリ)くまのみづき、はまがら

以上ノ十一種ハ皆暖地ニ産スルモノニシテ本邦ノ北部ニハ野生シ難シ、故ニ昔時タトヘ此等ガ本島北部ニ野生セシ事アルモ、現今ノ如キ氣候、風土トナラバ自然ニ枯死消滅スベキ運命ニアルモノナリ。然レドモ以上ノ十一種ノモノハ果實ハてりはのいばらヲ除ク外ハ皆鳥類ノ食餌トナルモノニシテ鳥ニ依リ移植サルベキ性質ハアレドモ、鬱陵島ニ達スルニハ少クモ百五十海里以上ヲ通過スベク、現時ニ於テハ全ク鳥ニ依リテ移植セラル、事ナシト斷言スルヲ得ベシ。果シテ然ラバ此等共通ノ分子ハ大陸分離以前ニ鬱陵島ヲ含ム舊大陸ニ存在セシモノト見ルヲ可トス。

北海道ニ至リテハ更ニ共有分子少ク、本島北部ニアリシ

あかまつ、つが、やだけ、けやき、せんになさう、ぼたんづる、あをつづらふぢ、さなぎいちご、けんぼなし、つばき、きづた、はまがら、等モナシ。是レニハ氣候寒冷ナル爲ニモアレドモつばき、きづた、はまがらヲ除カバ必ズシモ生育ニ適セザルニ非ズ、現ニあかまつ、あをつづらふぢノ如キハ朝鮮ニテハ北海道南部ヨリハ寒冷ノ地ニ生育シ。つがハ本島ノ高山ニテ北海道ノ寒氣ニ準ズル所ニ生育セリ。故ニ此等ハ北海道ノ土地ガ往古ヨリ本島ト異ル植物帯ヲ有セシ實證ナリ。樺太ニ至リテハ更ニ甚ダシク烏蘇利同様、鬱陵島トハ早クヨリ遠隔シ、最モ關係ウスキ地ナリシト謂フ得ベシ。次ニ隠岐ト對馬ト鬱陵島トヲ對稱スレバ對馬ト共通ノ植物ハ皆隱岐ニ存在スルノミナラズ隱岐ニハ對馬ニ存在セヌ左ノ十種アリ。

やだけ、けやき、つるあぢさい、やましもつけ、ななかまど、えびがらいちご、ゆづりは、つるまささ、またたび、くまのみづき

是レ對馬ガ隱岐ヨリモ本來南方ニ偏シ、南地性ノ植物ヲ有セシニヨル。

(10) 鬱陵島ノ分離期

鬱陵島ハ日本海ガ陥没シテ後ニ海中ヨリ噴出セシ火山カ又ハ陥没前ニ成リシ火山ノ殘リシモノカ、日鮮地方ニ寒冷ノ時期襲來セシ以前ニ既存セシカ、又ハ寒期ノ去リシ後ニ孤立シテ成リシカ、此等ノ諸問題ハ鬱陵島附近一帯ノ歴史ヲ語ルモノニシテ學問上重大問題ナリ。

余ハ島ト日鮮兩陸トノ植物分布上並ニ東亞産哺乳動物ノ化石、島ノ構造ト植物分子トヨリシテホボ其時期ヲ推定シ得ト考フ。

此問題ヲ論ズルニ當リ先決スベキハ日鮮地方ハ洪積期ニ果シテ溫暖ナリシカ、將又寒冷ノ期來リシ事アリシカテフ事ナリ。

亞細亞大陸ニハ北米又ハ歐洲ニ於ケルガ如ク、同緯度ノ邊ニ氷河ノ遺跡ナク化石ハ未ダ攻究不十分ナルヲ以テ、亞細亞ハ其當時溫暖ナリシナラントノ説ヲ持スルモノアリ。而シテ一代ノ想像説トシテ見ルベキ Simuroth ノ Penetrationstheorie ノ如キモ眞ニ近キト考フルモノアルガ如シ。横山又次郎博士ハ鮮新世ヨリ日本ハ次第ニ溫和トナリ、洪積期ニ及ンデハ房總半島ニハ珊瑚礁ヲ生ジ、日本ニハ熱帶植物繁茂セシ事並ニ中新世ニハ歐米ニハ熱帶植物タル月桂樹屬、たこのき屬、Eucalyptus 屬、いちじく屬、ふともも屬、はごろものき屬等ノ樹木ガ繁茂シ、水草ニハ蓮、おほをにばず等生ジ、英國ニテモ鯨魚ガ生息セシガ、其當時日本ニハ現時樺太、カムチャツカ邊ニアルベキ動植物ガ生育セルヲ言ハリ、東京帝國大學理科大学紀要第三十二冊第五

編横山博士ノ論文參照)。然ルニ矢部長克博士ハ横山博士ノ考證ハ地層ノ測定ヲ誤リシ結果ニシテ、博士ガ鮮新期ニ氣候寒冷ナリシト云フ點ニハ一致スルモ、洪積期ニ氣候ガ溫暖ナリシ爲メニ生ゼシト云フ珊瑚礁ハ洪積期ヨリ續キテ沖積期ノ始メニ亘ル氷期終了後、一時、氣候ガ溫和トナリシ時ニ生ゼシモノノ遺物ニシテ、歐米ニ氷河期アリシ當時ニ日本ハ決シテ溫暖ナリシニ非ズト斷定セリ。横山博士ノ説ニハ歐洲ノ學者ニ讚否ノ兩説アリシ事並ニ、其否定者ノ論據ノ薄弱ナル事ハ同博士ガ「現代ノ科學」第一卷第一號ニ記載セルガ如シ。然ルニ山崎直方博士ハ飛驒ノ國境ニ完全ノ氷河痕ヲ發見シ。其時代コソ不明ナレ日本ニモ氷河ノ襲來セシ事アリシヲ言ヘリ。(其氷河ハ今モ信州梓川ノ上流ニアル Hetner Stein 並ニ白馬山ニテ見ルヲ得)。余ハ敢テ此等諸大家ノ説ヲ上下スルヲ欲セザレドモ、朝鮮植物調査ノ結果、其植物分布上ヨリ判定セル自己ノ意見ヲ明カニセントス。

洪積期ニ於ケル歐米ノ氷河ハ歐洲ニテハ南ハ Pyrenees 連山ニ亘リ、北米ニテハ其西部ニ迄モ波及セリ。故ニ若シ一部ノ地質學者ガ唱フルガ如ク、地軸ノ變更ニテ此結果ヲ來セシナラバ、北極ハ Greenland ニ移リ、我日本ハ熱帶圈内ニ入り、熱帶植物ガ鬱然トシテ繁茂スベキ筈ナリ。歐米ノ寒氣襲來ハ洪積期中三次ニ及ビ、其中間期ニハ氣候ハ溫暖ナリシト雖モ、最後ノ寒氣襲來ニ際シテハ巨象 マンモス、長毛ノ犀等ノ如キ寒地生ノ動物ガ南下シテ佛國迄モ濶歩セシ程ニシテ、今日原人ガ マンモスヲ象牙上ニ彫刻セシモノヲ Madelaine ニテ發見セシハ其當時即チ古石器時代 (Paleolithic age) ノ遺物ナリ。

氷河ガ地軸ノ回轉ニ依リテ起ルナラバ、我日本ニハ歐米ト交互ニ三次ニ亘リテ寒冷氣候ノ時期ガ來ラザルベカラズ。故ニ歐米ノ地ヨリ最後ノ氷期ガ去リテ漸次ニ現時ノ暖氣ガ來リシナラバ、我日本ハ今日以上ノ暖氣(熱帶少クモ半熱帶)ヨリ漸次ニ今日ノ如キ冷氣ニ向ヒタリト斷定セザルベカラズ、是レ横山博士ノ考定ナレドモ現時ノ植物ノ分布ハ不幸ニシテ夫ト反對ノ現象ヲ有スルガ如シ。

先ヅ例ヲ濟州島ニ取レバ此邊ノ事情ヲ窺知シ得ベシ、同島ハ玄武岩ヨリ成リ其活動ハ有史後ニモ及ビシ故他ノ玄武系ノ如ク早クモ第三紀ヨリ生ゼシ島ナルベシ。同島ノ植物ニ就イテハ嘗テ濟州島植物調査報告書(大正二年九月提出同三年四月版)ニ詳論セシト雖モ以上ノ説ヲ證明セン爲メ重ネテ小論ヲ試ムベシ。

同島ノ山上ニ周極植物トシテ存スルモノハ

Diapensia lapponica いはうめ

Lonicera caerulea var. *edulis* よのみ

<i>Thymus serpyllum</i>	いぶきじやかうさう
<i>Vaccinium uliginosum</i>	くろまめのき
<i>Empetrum nigrum</i>	がんかうらん
<i>Salix myrtilloides</i>	ぬまやなぎ
<i>Majanthemum bifolium</i>	まひづるさう

等アリ。此等ノ植物ヲ最短距離ニ求ムレバくろまめのき、いぶきじやかうさう、まひづるさう等ハ金剛山上ニ存スレドモ、ぬまやなぎ、がんかうらん、いはうめノ三種ハ北朝鮮咸北咸南ノ北部又ハ日本本島ノ中央山系即チ日本アルプスノ連山ニ至ラザレバ存在セズ。

次ニ東亞ノ高山植物トシテ存スルモノニハ

<i>Lycopodium chinense</i>	ひめすぎらん
<i>Clintonia udensis</i>	つばめをもと
<i>Bistorta vulgaris</i> var. <i>angustifolia</i>	ほそばいぶきとらのを
<i>Cerastium Fischerianum</i>	たがそでさう
<i>Dianthus superbus</i> var. <i>brevicalycina</i>	たかねなでして
<i>Ranunculus acris</i> var. <i>borealis</i>	こみやまきんぼうげ
<i>Astragalus membranaceus</i>	みやまわうぎ
<i>Geranium davuricum</i>	だふりあふうろ
<i>Daphne kantschatica</i>	えぞこせうのき
<i>Pirola incarnata</i>	べにはないちやくさう
<i>Rhododendron davuricum</i>	えぞむらさきつつじ
<i>Swertia tetraptera</i>	えぞせんぶり
<i>Pedicularis amurensis</i>	ゆきわりしほがま
<i>Galium kantschaticum</i> var. <i>intermedium</i>	おほばよつばむぐら
<i>Lonicera sachalinensis</i>	べにはなへうたんぼく

等アリ。又日鮮ノ高山植物トモ云フベキハ

<i>Juniperus Sargentii</i>	みやまびやくしん
<i>Agrostis flaccida</i>	みやまぬかぼ
<i>Salix halloisensis</i>	たんなみねやなぎ
<i>Betula Ermani</i> var. <i>nipponica</i>	だけかんば
<i>Persicaria debilis</i> var. <i>triangularis</i>	みやまたにそば
<i>Bistorta suffulta</i>	くりんゆきふて
<i>Anemone stolonifera</i>	さんりんさう
<i>Arabis semunensis</i>	はくさんはたざほ
<i>Arabis serotina</i>	ふじはたざほ

<i>Ribes tricuspe</i> var. <i>japonicum</i>	ざりこみ
<i>Fragaria nipponica</i>	しろばなへびいちご
<i>Potentilla Dickinsii</i>	いはきんばい
<i>Rosa Taquetii</i>	さいしうみやまばら
<i>Sorbus commixta</i>	ななかまど
<i>Viola Boissieuana</i>	ひめみやますみれ
<i>Cnidium Tachiroei</i>	いはういきよう
<i>Primula modesta</i>	ゆきわりさう
<i>Lonicera Vidalii</i>	あらげひようたんぼく
等ニシテ朝鮮ノ高山植物タルベキハ	
<i>Abies koreana</i>	てうせんしらべ
<i>Allium Taquetii</i>	さいしゆうやまらつきやう
<i>Clematis koreana</i>	みつばはんしようづる
<i>Tilia Taquetii</i>	くはのはしなのき
<i>Leontopodium coreanum</i>	かうらいうすゆきさう
ニシテ朝鮮本土ニアリテ此島ニテハ高山植物ト化シ居ルモノニハ	
<i>Acanthopanax sessiliflorus</i>	まんしううこぎ
<i>Diervilla florida</i>	おほたにうつぎ
<i>Malus baccata</i> var. <i>mandshurica</i>	えぞのこりんご
<i>Berberis amurensis</i>	ひろはめぎ
<i>Iris Rossi</i>	たれゆへさう
等ニシテ島特産ノ高山植物ハ	
<i>Tofieldia Fauriei</i>	たんないはぜきしよう
<i>Silene fasciculata</i>	たんなしらたまさう
<i>Salix Blinii</i>	
<i>Euphorbia Fauriei</i>	みやまたいげき
<i>Rhamnus Taquetii</i>	さいしうくろつばら
<i>Gentiana lactea</i>	しろひなりんだう
<i>Lonicera leptantha</i>	うらじろひようたんぼく
<i>Anaphalis Morii</i>	たかねははこぐさ
<i>Artemisia hallaisanensis</i>	
等數多シ。現時濟州島ノ山麓ハ氣候溫暖ニシテ柑橘、甘蔗、芭蕉、ユーカリ樹等ノ栽培ニ適シ、野生ノ常綠潤葉樹中暖地性ノ分子ニハ	
<i>Cinnamomum camphora</i>	くすのき
<i>Cinnamomum pedunculatum</i>	やぶにつけい

<i>Myrica rubra</i>	やまもも
<i>Illicium anisatum</i>	しきみ
<i>Stephania discolor</i>	はずのはかづら
<i>Stamtonia hexaphylla</i>	むべ
<i>Myroxyton racemosum</i>	くすどいげ
<i>Camellia japonica</i>	つばき
<i>Taonabo japonica</i>	もくこく
<i>Eurya japonica</i>	ひさかき
<i>Eurya emarginata</i>	はまひさかき
<i>Eleocarpus elliptica</i>	こばんもち
<i>Poncirus trifoliata</i>	からたち
<i>Euonymus japonicus</i>	まさき
<i>Euonymus radicans</i>	つるまさき
<i>Sageretia theezans</i>	くろいげ
<i>Raphiolepis umbellata</i> var. <i>liukiensis</i>	しやりんばい
<i>Raphiolepis ovata</i>	まるばしやりんばい
<i>Distylium racemosum</i>	いすのき
<i>Hedera japonica</i>	きづた
<i>Gilibertia trifida</i>	かくれみの
<i>Aucuba japonica</i>	あをき
<i>Viburnum odoratissimum</i>	さんごじゆぼく
<i>Dammacanthus indicus</i>	ありどうし
<i>Vaccinium bracteatum</i>	しやしやんぼ
<i>Ardisia crispa</i>	まんりよう
<i>Ardisia pusilla</i>	ひめやぶこうじ
<i>Symplocos lucida</i>	くろき
<i>Ligustrum japonicum</i>	たまつばき
<i>Ligustrum lucidum</i>	たらねずみもち
<i>Trachelospermum divaricatum</i>	ていかかづら
<i>Machilus longifolia</i>	あをがし
<i>Machilus Thunbergii</i>	いぬぐす
<i>Malepomea aciculata</i>	いぬがし
<i>Malepomea Sieboldii</i>	しろだも
<i>Actinodaphne lanceifolia</i>	かごのき
<i>Maeghan pungens</i>	なはしろぐみ

<i>Elæagnus glabra</i>	つるぐみ
<i>Elæagnus macrophylla</i>	まるばぐみ
<i>Daphniphyllum glaucescens</i>	ひめゆづりは
<i>Daphniphyllum macropodium</i>	ゆづりは
<i>Hibiscus Hamabo</i>	はまぼろ
<i>Ficus pumila</i>	おほいたび
<i>Ficus foveolata</i>	いたびかづら
<i>Pasania cuspidata</i>	しひのき
<i>Quercus myrsinæfolia</i>	しらかし
<i>Quercus glauca</i>	あらかし
<i>Quercus stenophylla</i>	うらじろがし
<i>Quercus acuta</i>	あかがし
<i>Pinus Thunbergii</i>	くろまつ
等アリ、其他ノ落葉樹ニテモ暖地性ノ分子ニハ	
<i>Idesia polycarpa</i>	いいぎり
<i>Casalpinia japonica</i>	じやけついはら
<i>Ehretia acuminata</i>	ちしやのき
<i>Callicarpa japonica</i> var. <i>luxurians</i>	おほむらさきしきぶ
<i>Ficus Sieboldii</i>	ほそばいぬびは
<i>Ficus erecta</i>	いぬびは
<i>Adina rubella</i>	しまたにわたりのき

ノ如キアリ。特ニ羊齒類ニハうらじろ、こした、きじのをしだヲ始メトシ
おほたにわたり、しろやましたノ如キ暖地性ノモノアリ。草ニハ水仙、はま
をもと、はまなたまめ、ひともとすすき、くぐ、せきしょう、やぶみようが、
のしらん、きみづ、ひめくづ、はまたいげき、やまあゐ、やぶからし、あり
のとう、あふひごけ、はだかほほづき、をぎのつめ、すずむしさう、ぬまだ
いこん、はまぐるま等ノ暖地植物多ク、樹膚ニハなごらん、まめづたらん、
むぎらん、せきこく、やうらくらん、くもらん、ふうらん等ノ着生蘭類アリ、
岩面ニハふうとうかづらノ纏ハルアリテ之ヲ房總半島ニ比較スレバ、其暖地
植物ニ富ム事ハ正ニ伯仲ノ間ニアリ。若シ一部學者ノ論ズルガ如ク、洪積
期ニ房總半島ニ珊瑚礁ガ生ジ、日本ニ熱帯植物ガ繁茂セシナラバ、濟州島モ
亦共ニ熱帯植物ニ被ハレ僅々六千四百尺ノ其山上ニハ周極植物ハ愚カ現日
鮮ノ高山植物ナドモナク常緑潤葉樹又ハ暖地性ノ落葉樹ガ生ゼザルベカラ
ズ。而シテ其後歐洲ノ氣候ガ温暖トナリ、日本ガホボ今日ト同様ノ有様ト
ナリシトスレバ周極植物ガ今日ノ如ク濟州島上ニ來ルニハ今日ノ最短距離

ヨリハ尙一層ノ遠距離ヨリ來ラザルベカラズ、斯ノ如キハ事實上アリ得ベカラザル事ニ屬ス。現時トシテモ白頭山地方又ハ信飛ノ界ヨリがんかうらん、ぬまやなぎ、いはうめ等ガ來ル事スラ殆ンド想像ノ外ニアリ。濟州島ノ山上(山麓ニナシ)ニハ鳥、風並ニ潮流ニテ移シ得ザルはしばみ屬植物(つのはしばみ、つぼはしばみ)、かへて屬植物(いたやかへて、てうせんはうちは、いろはかへて)ノ如キモノアリテ往古日鮮ト陸地ノ連絡アリシ事並ニ連絡アリシ當時ニハ一度はしばみ屬植物、てうせんしらべ、だけかんば、ななかまど、ざりこみ等ガ平地ニ生ゼシ程ノ寒氣來リシ事ヲ證明シ得、抑モ洪積期末ニ生存セシ巨象マンモスハ長サ一尺餘ノ毛ニテ被ハレシ寒地ノ動物ニシテ、現今迄モ生存セバ其棲息地ハ少クモ樺太以北ノ地ナルベシ。其遺骸ハ我國ニテハ三河國幡豆郡ニ發掘セラレ現ニ農商務省ノ標本陳列所ニアリ。又支那ニハ氷河ノ來リシ事全クナシト迄謂ハルレドモマンモスノ遺骸ハ湖北省宜昌府附近ニモ發見セラレタリ是レ洪積期ニ東亞モ寒冷ナリシ證ナラズトセンヤ。

然ラバ歐米ニ於ケル如ク古石器時代ニ東亞ガ寒氣ニ襲ハレシト假定セバ如何、現今日鮮其他ノ高山ニ共有ノ高山植物ニシテ其當時ニ存在セシ種類ハ必ズヤ平地ニ下リシニ相違ナシ。其後溫暖ノ時期來リシ時ハ此等ハ山頂迄移動シテ現時トナリシト考ヘラル。歐米ノ地ニテハ氷河時代ノ間ニ介在セシ溫暖期ニハ決シテ第三期中新世ニ於テ樟屬、たこのき屬、ユーカリ樹屬、いちじく屬、ふともも屬、はごろものき屬等ノ樹木ガ繁茂セシ如キ溫暖ノモノニ非ズ、從ヒテ日鮮地方ノ如キモ熱帶植物ガ繁茂スルガ如キ事アラズ、又洪積期終末ノ古石器時代ニ氷河ハ再ビ其面積ヲ擴大シマンモスガ南下セシトハ雖モ、洪積期最初ノ氷河ニ及ブベクモアラズ、殆ンド比較スルニモ足ラズ、故ニ日鮮ノ地モ亦其影響ハ甚ダ輕微ナリシ事ニ思ハシム。

故ニ東亞ノ氣候ガ歐米ト同一軌ニアリシト假定セバ、現今高山上ニアル旬松ヲ始メトシ分布ノ困難ナル高山植物ハ洪積期ニハ平地ニ下リ、沖積期ニ入リテ漸次山上ニ追ハレテ今日ニ及ビシト見ルヲ得ベシ。斯ノ如クナラバ豈管ニ濟州島ノミニアラズ、日鮮兩陸ノ高山植物ノ分布ヲ説明スル上ニ甚ダ合理的ナレバ、余ハ寧ロ其真ナルヲ信セントス。其當時ノ寒氣ハ余ガ管テ理學界ニ「朝鮮ノ松」ト題シテ論ビシモノ並ニ鷲峰植物調査報告書ニテ論ビシガ如ク、日鮮ノ中部ニハ旬松カ、朝鮮ノ南部ニハ朝鮮五葉ガ平地ニ下リシ程ノ程度ナリシヲ思フ。信州ノ氷河痕モ恐ラクハ此時代ニ成リシナルベク、又沖積期ニ房總半島ニ珊瑚礁ノ成レル當時ハ日鮮共ニ現今ヨリ溫暖ナリシトスルモ動物ト同ジク植物モ寒地性ノモノヲ多ク介在セシメ、現今ト大差ナキ植物帶ヲナセシヲ想定シ得。

此合理的ノ假定ヲ携ヘテ鬱陵島ノ植物帯ニ臨マンニ、鬱陵島ノ四圍ハ斷岸絶壁ニシテ特ニ海ニ至レバ一層急ニシテ、北方ニアル三岩ノ如キハ各柱ノ間五十尋餘ニ達シ、附屬ノ島ハ數町以内ニアルニモ係ラズ、其間皆百尋餘ノ深サヲ保チ僅カニ半里モ沖合ニ出ヅレバ三百乃至五百尋以上ノ深サアリ、加之同島ハ一ノ圓錐山ニ非ズシテ地形頗ル複雑ナレバ多クノ斷層ガ頻出シ、且島ノ四周ハ著シク陥没セルモノノ如シ。之ヲ對馬海峽ガ單ニ削剝作用ニテ成レルト比較スレバ大ニ其深淺ノ度ヲ異ニス。島ニ産スル純海岸植物ハ次ノ二十二種ニシテ

<i>Setaria pachystachys</i>	はまえのころ
<i>Carex pumila</i>	こうぼうむぎ
<i>Atriplex littoralis</i>	はまあかざ
<i>Sagina maxima</i>	はまつめくさ
<i>Arabis Stelleri</i> v. <i>macrocarpa</i>	たけしまはまはたざほ
<i>Rosa Luciae</i>	てりはのいばら
<i>Cnidium japonicum</i>	はまぜり
<i>Lysimachia mauritiana</i>	はまぼつす
<i>Tournefortia sibirica</i>	すなびきさう
<i>Scrophularia Grayana</i>	おほひなのうすつぼ
<i>Artemisia desertorum</i>	ほそばをとこよもぎ
<i>Carex oahuensis</i> var. <i>Boottiana</i>	いそすげ
<i>Dianthus littoralis</i>	いそなでしこ
<i>Raphanus rayhanistroides</i>	はまだいこん
<i>Sedum orizifolium</i>	たいとごめ
<i>Lathyrus maritimus</i>	はまえんどう
<i>Eleagnus macrophylla</i>	まるばぐみ
<i>Peucedanum japonicum</i>	ぼたんばうふう
<i>Calystegia soldanella</i>	はまひるがは
<i>Vitex ovata</i>	はまがら
<i>Lonicera insularis</i>	たけしまへうたんぼく
<i>Arter Oharai</i>	おほだるまぎく

島ノ植物ガ山地植物ニ富ム上ニ特産植物ガ一割以上アルニモ係ラズ、僅々周圍十里餘ノ島ニ海岸植物ガ六分弱アルノミナルハ、是レ四周ノ土地ノ陥没ヲ證明スル他ノ一因子ナリ。若シ海洋ニ孤立シテ生ゼシモノナラバ、海岸植物ガ最モ其數多ク、風又ハ鳥ニ依リ移動スベキモノハ其次ニ位スベキ筈ナリ。

島ニ産スル樹木中ひめてまつ、やだけ、ちしまざさ、たけしまぶな、もみ

ぢ類、たけしましなのき、つばきノ如キハ海ヲ隔テ、來ルニハ大規模ノ浮島ノ漂着ニ依ラザレバ不可能ナリ、特ニたけしまぶな、たけしましなのき、もみぢ類、たけしまゆり、きり、たけしましやりんと、たけしまつくばねうつぎ、ようらくにはとこ、たけしまへうたんぼく、たけしまきはだ等ノ特有種アルハ、其植物帶ノ古キモノニシテ且現日本植物帶及ビ現朝鮮植物帶ヨリハ可ナリ區別アル一地方ヲナセシヤ明カナリ。

たけしまぶなハ越前小野郡牛ヶ谷産ノ第三種ノ化石タル *Fagus intermedia*, *Nathorst* (*Nathorst*: zur Fossilen Flora Japans p. 29. taf. XI 2-5) ト同形ノ葉ヲ出スコトアリ又 *Fagus Antipofi* = 似タル大形ノモノニテ側脈多キモノヲ出スコトモアリ、是レ其樹ガ古型 (Architype) ノモノナルヲ示ス。又おにいたやノ葉ハ横濱産ノ第三種化石ニテ *Nathorst* 氏ガ *Acer* cfr. *pictum* (*Nathorst*: l. c. p. 38. taf. XIII. 1-2) トスルモノニ酷似ス。余ハ或ハ夫ト同種ニ非ザルヤヲ疑フ。斯ノ如ク特有種中ニ古型ノモノ、アルハ益々鬱陵島ガ古キ地ニ成リシ山ニシテ島トナリシ以來、新來ノモノト競争スルコトノ少キ爲メ古型其儘ヲ保存セシモノ、如シ、たけしまゆりモ一種特有ノ百合ニシテ朝鮮、日本ニアルくるまゆり群中ニアリテハ格段ノ形ニシテ鱗莖ノ寧口をにゆりニ似タリ、斯ル種ハ偶然ニ又直ニ現存種ヨリ變化スベキニ非ズ、既ニ形成ノ古キヲ示ス。又きりノ如キモ屬其物ガ古キ植物群ニシテ支那臺灣ニ別種ノ自生アル外、日本ニモ朝鮮ニモ現時ハ自生ナシ、日本ニアル桐ハ昔時此島ト往來セシ時移シ植エシモノガ廣マリシモノナルベク、枕草子ニ桐の花むらさきにさきたる云々トアルヨリ始メテ諸書ニ出ヅレドモ大和本草綱目、本草綱目啓蒙、草木性譜等何レモ其原產地ヲ記サズ。朝鮮ニハ一種邦種ト異リ葉形ト毛ノ量ヲ異ニスル支那桐 (*Paulownia glabrata*, Rehder?) ヲ栽培ス、此レ鬱陵島ガ古型ノモノヲ有スル實證ノ一ナリ、しやりんと屬モ然リ、日本ニハ現存ノ種ナク、滿鮮ヲ通シテ北鮮ニ稀品タル *Cotoneaster Zabelii* アルノミ、而シテ飛ンテ臺灣支那以西ニハアリ、是レ昔時廣ク分布セシ屬ノ一部ガ此島ニ遺留セリト見ルベキモノトス、てまりしもつけ屬 (*Opulaster*) モ之ト同ジ、此屬ハ種類少ク其ノ大部分ハ北亞米利加ニアリテ一種ハ アムール流域ヨリ滿鮮ニ及ブ、而シテ此島ニアルモノハ其一別種ニシテ *Opulaster insularis* ト命ズベキ新種ナリ、是レ亦古ク別個ノ植物帶ノ一因子トシテ存留セシモノナルベシ。にはとこ屬モ然リ、島ニ最モ多クアルハ此島ニアルにはとこノ唯一種ニシテようらくにはとこ *Sambucus pendula* ト云フ、樹膚ハ木栓質ヨク發達シ、花穂、果穂共ニ下垂シ、其特徴ノ著シキ事、東亞ニ其比ヲ見ズ、既ニ早ク往古日鮮地方ニアルをにはとこ、こぶのき、にはとこ等ヨリ特立シテ成リシ種ガ日本海舊大陸ニ存シ此ガ此島ニ遺留セシモノ、如シ、

斯ク擧ゲ來レバ島ノ植物帶ノ由來ハ一朝一夕ノモノナラザルヲ解スベシ。

然ルニ朝鮮側ト共有ノ樹木中純朝鮮分子ニハ

<i>Juniperus chinensis</i>	びやくしん (朝鮮中部)
<i>Salix koreensis</i>	かうらいやなぎ (朝鮮全部)
<i>Quercus mongolica</i>	もんどりなら (蒙古ヨリ朝鮮ノ南端迄布遍的、 本州ニハ極メテ稀ナリ)
<i>Berberis amurensis</i> v. <i>latifolia</i>	おほひろはめぎ (咸北明川郡)
<i>Spirea obtusa</i>	やましもつけ (黄海、江原兩道)

等アリ。特ニなら屬、びやくしん屬ノ如キモノ、アルハ嘗テ朝鮮ト陸地ノ連絡アリシ事ヲ證明ス、又日本ト共通ノ樹木中、純日本分子ニハ

<i>Pinus parviflora</i>	ひめこまつ
<i>Tsuga Sieboldii</i>	つが

アリ。其中ひめこまつノ如キ陸地ノ連絡アルニ非ンバ分布シ得ザルモノアルハ往時本州ト此島ト陸地ノ連絡アリシ事ヲ證スルニ足ル。又特有種中たけしまやなぎハ朝鮮側ニアルたんばやなぎ (*Salix hallaisanensis*) = 似又日本側ニアルだいせんやなぎ (*Salix daisenensis*) = 似、たけしまくまいちごハ日鮮兩陸ニ共在スルくまいちご (*Rubus crataegifolius*) = 似、たけしまざくらハ日本産ノ大島櫻 (*Prunus Lannesiana* f. *albida*) = 似、たけしまきはだハ北海道ト樺太トニアルひろはきはだ (*Phellodendron sachalinense*) = 似、たけしまつくばねうつきハ朝鮮北部ニ産スルてうせんつくばねうつき (*Abelia koreana*) = 似、をきのはうちはハ朝鮮ノくはがたはうちは (*Acer Pseudo-Sieboldianum* var. *nudicarpum*) 及ビ日本本州ノこはうちはかへて (*Acer Sieboldianum*) = 似、たけしましなのきハ日本ノしなのき (*Tilia japonica*) = 最モ近ク、朝鮮、滿洲、黒龍江流域ニアルアムールしなのき (*Tilia amurensis*) 之ニ次ギ、たけしまへうたんぼくハ日本ノへうたんぼく (*Lonicera Morrowii*) = 近ク、たけしまはしどひハ朝鮮ノてうせんはしどひ (*Syringa Palibiniana*) = 近ク、何レモ其等ト祖先ヲ同フセザルヤト思ハル、ガ如キハ鬱陵島ガ如何ニ日鮮兩陸ニ關係ノ深キカヲ知ルニ足ラン。

以上ノ事實ヲ綜合スレバ鬱陵島ハ岩石ノ示スヨリ想像シテ濟州島ノ本體ノ成レルヨリ後ニ成リシトハ雖モ、洪積期末ノ古石器時代即ハチ氣候ガ尙ホ寒冷ナリシ時カ又ハ古石器時代ヨリ漸次氣候温暖トナリ始メシ頃ニ成立セシモノ、如シ。

其當時鬱陵島ハ日本海ノ舊大陸ノ一部ニアル火山ニシテ其舊大陸ハ或ハ日本側、朝鮮側ニ連絡セシカ、或ハ鬱陵島成立頃ニハ少クモ一部ハ鬱陵島ト共ニ存在シ、其上ニハ

Fagus multinervis	たけしまぶな
Opulaster insularis	たけしましもつけ
Rubus takesimensis	たけしまくまいちご
Phellodendron insulare	たけしまきはだ
Acer takesimense	をきのはうちは
Paulownia tomentosa	きり
Lonicera insularis	たけしまへうたんぼく
Salix Ishidoyana	たけしまやなぎ
Cotoneaster Wilsonii	たけしましやりんとう
Prunus takesimensis	たけしまざくら
Acer Okamotoanum	をにいたや
Tilia insularis	たけしましなのき
Abelia insularis	たけしまつくばねうつぎ
Sambucus pendula	ようらくにはとこ

等ノ特有分子（其當時少クモ其一部ハ既ニ現種トシテ存在セリ）ヲ有スル一植物帯ニテ被ハレシモ其後氣候ガ溫和トナルニ從ヒ次第ニ溫帶分子ノ侵入ヲ見、時恰モ近海一帯ノ陷沒起リシ爲メ、日鮮兩側ヨリ全然分離スルニ至リシモノ、如シ、故ニ鬱陵島ノ分離ハ極メテ近代ナリ。又現存スルいぬぐす、つばき、しろだも、おほばぐみ、いはがらみ、もちのき、まさき、ゆづりは、あをき等南地性ノ常緑樹ハ少クモ其一部分ハ寒氣終了後、氣溫和グニ從ヒ北上セシモノガ海流ニ保護セラレテ朝鮮側ノ同緯度ニテハ此島ニノミ残留シ、朝鮮ノ東岸ニテハ南下ノ寒流ニテ冬期甚ダシク氣温低下スル故次第ニ枯死消滅シ、現時見ルガ如キ鬱陵島ヨリモ寒地性ノ植物ニ被ハル、ニ至リシナラン。

鬱陵島ヲ構成スル岩石ノ大部分ハ小藤文次郎博士ニ依レバ白頭山ノモノニ同ジク、一種無名ノアルカリ性岩石ナリト。此岩ハ余ノ實見セシ所ニ依レバ白頭山ニテハ玄武岩（朝鮮系）ヲ貫キテ出デ、噴火ニ際シ必ズ浮石ヲ飛ばス。現ニ鬱陵島ニモ白頭山ト同様ニ浮石ノ堆積セル所アリ。而シテ貫カレタル朝鮮系ノ玄武岩ハ濟州島ノ瑞山、飛揚島ノ如ク有史後ニ活躍セシモノスラアレバ、單ニ岩石學上ヨリスルモ極メテ近代ノモノト斷ジ得ベク、特産植物其他ノ草木ヨリノ推斷ト併セテ如上ノ結論ノ眞ニ近キコトヲ知ルベシ。

日本海ニ太平洋ト共通ノ海藻群ノ少キハ是レ日本ノ外海トノ連絡ガ極メテ近代ノ事ニシテ其連絡モ先ヅ北方ヨリセシ爲メ、太平洋種ノ入ルヲ得ザリシ爲ナルベク、又海底ヲ寒流ガ洗フモ一因ナルベシ、而シテ日本海側ノ海岸植物ノ北漸ハ一層近代ノ事ナルベシ。

(11) 島ヲ含ム舊大陸ハ沙漠ニ非ズ

既述ノ如ク岡村金太郎博士ハ舊日本海大陸ヲ或ハ沙漠ナリシナラント云ヘドモ、余ハ其然ラザルコトヲ斷言セントス、如何トナレバ鬱陵島特有ノ植物ハ決シテ沙漠地ニ生ズル植物ニ非ズ、赤松ノ如キ乾地ニモ生ジ得ル植物ハ僅カニ玉泉洞兄弟岩上並ニ之レニ續ク山脊ノ岩上ニ數本宛アルノミ、又いちろ、ひめこまつ、しろばなしやくなげ、ななかまど、むしかり、みやまがまづみ、ノ如キモ平原の性質ノ植物ニ非ズ。故ニ余ハ日本海ノ舊大陸ハ沙漠ニ非ズシテ反テ樹木ノ繁茂セシ山系ノ起伏セシ事ヲ考フ。且又其當時ハ今ノ滿洲平野ヨリ直隸、江蘇ニ亘リテハ海ニシテ山東半島ハ島嶼ナルカ又ハ朝鮮側ニ連絡シ、遼東半島、朝鮮、滿洲ノ山地、北海道、本島ヲ含ム一帯ノ大陸アリシコトヲ思フ。是レ植物ノ分布上ヨリ推定シ得ベク、支那植物帶ガ滿、鮮、日ノ植物帶ニ關係ウスキモ其一證タラント思考ス。此等ニ就イテハ他日又章ヲ改メテ論ズル所アルベシ。

(12) 島ノ自生木本植物ノ檢索表並ニ所生地

- | | | | | |
|---|---|---|-------|---|
| 1 | { | 針葉樹 | | 2 |
| | { | 闊葉樹又ハ笹ノ類 | | 6 |
| 2 | { | 松ノ類、葉ハ二本又ハ五本宛生ズ | | 3 |
| | { | 松以外ノ類、葉ハ一本宛生ズ | | 4 |
| | { | 葉ハ二本宛生ジ、毬果ハ長サ二寸以下ナリ | | |
| | | あかまつ <i>Pinus densiflora</i> , S. et Z. | | |
| | | 玉泉洞兄弟岩並ニ其上部ノ山ノ岩角ニノミ生ズ | | |
| 3 | { | 葉ハ五本宛生ジ毬果ハ長サ二寸以上アリ、大木トナル | | |
| | | ひめこまつ <i>Pinus parviflora</i> , S. et Z. | | |
| | | 山上ノ岩角地ニ生ズ | | |
| 4 | { | 葉ハ細カク、針狀ヲナス、灌木又ハ喬木、毬果ハ丸ク豌豆大、成熟スレバ黒クナル | | |
| | | びやくしん <i>Juniperus chinensis</i> , L. | | |
| | | 海岸ノ岩角ニ生ズ | | |
| | { | 葉ハ平タシ | | 5 |
| | { | 葉ハトガリ大木トナラズ | | |
| | | いちろ <i>Taxus cuspidata</i> , Sieb. et Zucc. | | |
| | | 山中ノ森林下ニ生ズ | | |
| 5 | { | 葉ハ先端丸キカ又ハ少シク凹ム、大木トナル | | |
| | | つが <i>Tsuga Sieboldii</i> , Carr. | | |
| | | 山中至ル所ニ生ズ | | |



玉泉洞ノ兄弟岩、此所ハ島唯一ノ赤松ノ自生地ナリ、 1. つが 2. 赤松
赤松ノ下ニ立テル人夫ト大サヲ比較スベシ。

6	{ 笹ノ類	7
	{ 落葉又ハ常緑ノ潤葉樹	8
	{ 葉ハ細長ク、先端次第ニトガル	
	やだけ <i>Sasa japonica</i> , Makino.	
	海岸ノ山ニ群生ス	
7	{ 葉ハ幅廣ク先端急ニトガル	
	ちしまざさ <i>Sasa kurilensis</i> , Makino et Shibata.	
	山中ニ多シ	
8	{ 攀縋性植物	9
	{ 攀縋性ナラズ	23
9	{ 常緑ナリ	10
	{ 落葉性	12
	{ 葉ハ掌狀複葉ニシテ葉片ハ三個乃至五個、全縁ナリ	
	あけび <i>Akebia quinata</i> , Dene.	
10	{ 南望樓台國有林ニ生ズ	
	{ 葉ハ單葉	11

- 11 { 葉ハ互生、掌狀ニ三乃至五又スルカ又ハ卵形ナリ
 つた *Hedera japonica*, Toubler.
 海岸ノ岩上又ハ樹木ニ纏フ
 葉ハ對生、橢圓形、粗鋸齒アルヲ常トス
 つるまさき *Euonymus radicans*, Sieb.
 山中至ル所ノ樹木又ハ岩ニ着生ス
- 12 { 葉ハ對生ス 13
 葉ハ互生ス 17
- 13 { 葉ハ三個以上ノ葉片ヨリ成ル 14
 葉ハ單葉 15
- 14 { 葉ハ三葉片ヨリ成リ、葉片ニ鋸齒アリ
 ぼたんづる *Clematis triphylla*, Thumb.
 海岸近キ山ニ生ズ
 葉ハ五葉片ヨリ成ルヲ常トシ、葉片ニハ最初ニ出ヅルモノヲ除ケバ鋸齒
 ナシ
 せんになさう *Clematis paniculata*, Thumb.
 鶴圃、台霞ノ海岸近キ山ニ生ズ
- 15 { 葉ハ全縁、半灌木様ノ植物、臭氣アリ
 へくそかづら *Paderia tomentosa*, Bl.
 馬岩峠、錐山等ニ生ズ
 葉ハ鋸齒ヲ有ス 16
- 16 { 葉ニハ細カキ鋸齒一樣ニ生ズ、幹ノ徑ハ四寸以上トナルコトアリ
 つるあぢさい *Hydrangea petiolaris*, Sieb. et Zucc.
 至ル所ニ生ズ
 葉ニハ粗鋸齒アリ、葉裏白シ
 いはがらみ *Schizophragma hydrangeoides*, Sieb. et Zucc.
 海岸地方ニ多シ
- 17 { 葉ハ三葉片ヨリ成リ毛アリ
 くず *Pueraria hirsuta*, Matsumura.
 七百米突以下ノ地ニ生ズ
- 18 { 葉ハ單葉又ハ三葉ヨリ成ルトキハ葉片ニ鋸齒アリテ毛ナシ 18
 葉ニ對生スル卷鬚アルカ又ハ吸枝アリ 19
 卷鬚ナシ 21
- 19 { 吸枝ヲ出ス、葉ハ往々二個以上ノ複葉トナル
 つた *Quinaria tricuspidata*, Koehne.
 至ル所ノ樹林岩上ニ生ズ
 卷鬚ヲ以テ外物ニ纏フ 20



びやくしんノ老木、南陽洞ヨリサツタイクムニ越ス海岸ノ山上、數年前迄ハ斯ル
木ハ多數ニアリシ由ナルモ土民ハ逐次伐採シテ薪炭料ニ供シツ、アリテ、
今ハ大樹ナシ、樹下ニアルハ人夫ト吉岡技手ナリ。

- 葉裏ニ毛ナシ、花ハ岐織花序ヲナス
のぶどう *Ampelopsis heterophylla*, Sieb. et Zucc.
六百米突以下ニ多シ
20. 葉裏ニ白キ綿毛アリ、花ハ總狀花序ヲナス
たけしまぶどう *Vitis Coignetii*, Pulliat v. *glabrescens*, Nakai.
海岸地方ノ山ニ多シ
21. 葉ハ全縁、卵形、廣卵形又ハ兩側ヨリ少シク彎入ス、若枝ニモアリ
あをつづらぶち *Cebatha orbiculata*, Schneider.
海岸地方ニ多シ
- 葉ニ鋸齒アリ、若枝ニ毛ナシ
- 葉ノ鋸齒ハ内曲ス、枝ノ色ハ白褐色、髓ハ片々ヲナス
またたび *Actinidia polygama*, Pl.
海岸地方ノ山ニ多シ
22. 葉ノ鋸齒ハトガル、枝ノ色ハ帶赤褐色、髓ハ密ナリ
さるなし *Actinidia arguta*, Pl.
山中至ル所ニアリ

23	{	常緑樹ナリ	24
	{	落葉樹ナリ	35
24	{	寄生植物、葉ハ對生シ、枝ハ追次二岐シ關節ス やどりぎ <i>Viscum coloratum</i> , Nakai. 山中ニアリテたけしまぶなニ寄生ス	
	{	寄生植物ナラズ	25
25	{	葉ハ對生ナリ	26
	{	葉ハ互生ナリ	28
26	{	小灌木ニシテ地ヲ匍ヒ、葉ノ長サ五分以内、香氣アリ いぶきじやこうさう <i>Thymus Serpyllus</i> , L. 羅里洞平原、道洞國有林等ニ生ズ	
	{	葉ノ長サ一吋以上アリ	27
27	{	匍匐性ノ灌木、葉裏白シ、葉ハ全縁ナリ はまがう <i>Vitex ovata</i> , Thunberg. 南部海岸ニ生ジ稀ナリ	
	{	直立ノ灌木、大ナルハ一丈トモナル、葉ハ綠色粗鋸齒アリ あをき <i>Aucuba japonica</i> , Thunberg. 海岸地方ノ樹林ニ多シ	
28	{	高サー尺以内ノ小灌木、葉ハ卵形又ハ廣橢圓形紅果ヲ結ブ やぶかうじ <i>Ardisia crispa</i> , Bl. 六百米突以下ノ樹林下ニ生ズ	
	{	稚樹ニ非ンバ高サ必ズ數尺以上アリ	29
29	{	葉裏ハ綠色	30
	{	葉裏ハ白シ	32
30	{	葉ニハ小鋸齒アリ、葉ハ卵形又ハ廣橢圓形、光澤アリ つばき <i>Camellia japonica</i> , L. fl. 六百米突以下ニハ至ル所ニ生ズ	
	{	葉ハ全縁、但シ新シキ側枝ノモノニハ小鋸齒アルコトアリ	31
31	{	葉ハ大ナルモ長サ三寸以内ナリ、葉脈ハ表面ニテハ不顯著ナリ もちのき <i>Ilex integra</i> , Thunb. 六百米突以下ニハ至ル所ニ生ズ	
	{	葉ハ三寸以上ヲ常トス、葉脈ハ少クモ側主脈ハ明カナリ いぬぐす <i>Machilus Thunbergii</i> , Bl. 六百米突以下ニ生ズ	

- 32 葉裏ニハ絹毛アリ、特ニ若葉ニテハ表裏共ニ絹毛アリ
しろだも *Malapcenna Sieboldii*, O. Kuntze.
六百米突以下ニ生ズ
- 33 葉裏ニ絹毛ナシ 33
葉裏ハ鱗片又ハ毛茸ニテ白シ、又ハ少シク褐色ヲ帶ブ、葉柄綠色 34
葉裏ニハ鱗片モ毛茸モナク、臘質ニテ白シ、葉柄ハ帶紅色
ゆづりは *Daphniphyllum macropodum*, Miquel.
六百米突以下ニ生ズ
- 34 枝、葉柄、葉身ニハ銀白色ノ鱗片アリ、葉ハ廣楕圓形又ハ圓形
ひろはぐみ *Eleagnus macrophylla*, Thunberg.
海岸ニ多シ
- 34 枝、葉柄ニハ銀色ノ鱗片ナク、葉裏ニ白色又ハ帶褐色ノ毛茸アリ、葉ハ
長楕圓形、葉柄ニハ横皺アリ
しろばなしやくなげ *Rhododendron brachycarpum*, Don
森林中ニ生ジ、特ニ六百米突以上ニ多シ
- 35 葉ハ對生ナリ 36
葉ハ互生ナリ 54
- 36 葉ハ羽狀、複葉ナリ 37
葉ハ單葉ナリ 38
- 39 枝ハ帶紅色、葉裏ニハ油點アリ、葉片ハ全縁、穂ハ直立シテ開ク
たけしまきはだ *Phellodendron insulare*, Nakai.
四百米突以上ニ多シ
- 39 枝ハ綠色、葉裏ニ油點ナク、葉片ニハ鋸齒アリ、穂ハ下垂ス
たけしまにはとこ *Sambucus pendula*, Nakai.
全島至ル所ニ生ズ
- 38 葉ハ濶大ニシテ直徑七、八寸以上ヲ常トス、葉裏ニ絨毛生ズ
きり *Paulownia tomentosa*, Koch.
海岸近キ山ニ生ズ
- 39 葉ハ長サ通例六寸以下ナリ、六寸ニ達スルトキハ掌狀ニ分叉ス 39
葉ハ掌狀ニ分叉ス 40
葉ハ掌狀ニ分叉セズ 41
- 40 葉ノ裂片ハ全縁ナリ、喬木トナル
おにいたや *Acer Okamotoanum*, Nakai.
山中至ル所ニ生ジ、特ニ上部ニ多シ
- 40 葉ノ裂片ニハ鋸齒アリ、葉ノ裂片ハ十個以上ナリ

- をきのはうちは *Acer takesimense*, Nakai.
道洞國有林並ニ山上ノ森林ニアリ稀ナラズ
- 41 { 葉ハ全縁ナリ 42
葉ハ少クモ毛狀ノ鋸齒アリ 45
- 42 { 葉ニハ全然毛ナシ、通例長サ一寸内外、長橢圓形又ハ披針形、灌木ナリ
たけしまいぼた *Ligustrum foliosissimum*, Nakai.
山上ニ多シ
葉ニハ少クモ葉裏ノ脈上ニ毛アリ 43
- 43 { 葉ハ廣橢圓形、裏面ニ絨毛アリ、花ハ一個宛腋生シ一花梗ニ二個並ビ生
シ果實ハ紅色ノ漿果
たけしまへうたんぼく *Lonicera insularis*, Nakai.
海岸地方ニ多シ
葉ハ廣橢圓形又ハ廣卵形、側主脈ハ平行シテ彎曲ス、花ハ枝ノ先端ニ出
テ複總狀又ハ聚繖花序ヲナス 44
- 44 { 葉裏ノ毛ハ立ツ、又ハ葉裏主脈ニノミアリ、花ハ複總狀花序ヲナシ、前
年ノ枝ノ先端ニ出ヅ、葉ハ廣卵形
たけしまはしどひ *Syringa venosa*, Nakai.
山中ノ岩石地ニ生ズ、島ニハ白花ノモノ多シ
葉裏ノ毛ハ伏ス、花ハ今年ノ枝ノ先端ニ聚繖花序ヲナス、葉ハ廣橢圓形
くまのみづき *Carpinus brachypoda*, C. A. Meyer.
海岸地方ノ森林ニ生ズ
- 45 { 葉ノ長サハ通例一寸以内ナリ、長クモ一寸五分以内ナリ 46
葉ノ長サハ一寸以上ニシテ通例二寸以上ナリ 48
- 46 { 葉ニハ粗鋸齒アリ、分岐多キ灌木ニシテ高サ三尺ヲ出ヅルハ稀ナリ
たけしまつくばねうつぎ *Abelia insularis*, Nakai.
道洞國有林並ニ南望樓臺國有林ノ岩上ニ生ズ
葉ニハ極小ナル鋸齒アリ 47
- 47 { 葉ノ長サハ一寸内外ナリ
こまゆみ *Euonymus striatus*, Makino.
苧洞上方ノ山ニ生ジ、比較的少シ
葉ノ長サハ五六分
こばまゆみ *Euonymus striatus* var. *microphyllus*, Nakai.
上峯並ニ羅里洞峯ノ上部ニ生ズ

- 48 葉ノ表裏ニハ星狀毛密生ス、葉ハ廣卵形又ハ其ヨリ廣シ
ちようじがまづみ *Viburnum Carlesii*, Hemsley.
海岸地方ノ山ニ生ズ
- 49 葉ノ表裏ニハ星狀毛殆ンドナシ 49
葉ハ幅廣ク殆ンド圓形ニシテ基脚著シク彎入シ、波狀ノ皺アリ、葉ノ長
サハ三寸以上ニシテ幅モ約相同ジ
むしかり *Viburnum furcatum*, Blume.
山上ノ森林ニ生ズ
- 50 葉ノ基脚ハ彎入少ナク、波狀ノ皺ナシ
葉縁ニハ微小ノ鋸齒一様ニアリ、一見全縁ノ觀アリ、葉柄短カク、葉ハ
卵形ニシテ著シクトガル、芽ハ細長シ
つりばな *Euonymus oxyphylla*, Miquel.
山上ノ森林ニ生ズ
- 51 葉縁ニハ粗鋸齒アリ 51
葉ハ三脈著シ、側脈ハ葉縁ニ達ス、葉ハ先端ニ向ヒ擴カリ、裏面葉脈ニ毛
アリ
みやまがまづみ *Viburnum Wrightii*, Miquel.
山上ノ森林ニ生ズ
- 52 葉ハ中央又ハ基部ニ近ク廣シ、葉脈ニ毛ナシ 52
葉ハ廣濶ニシテ長サハ幅ノ二倍ニ達セズ、臭氣アリ、花序ハ枝ノ先端ニ
生ズ果實ハ碧色豌豆大
くさぎ *Clerodendron trichotomum*, Thunberg.
山上ヲ除キ至ル所ニ生ズ
- 53 葉ノ長サハ幅ノ二倍以上アリ、臭氣ナシ、花序ハ腋生、果實ハ徑二分ヲ
出デズ
むらさきしきぶ *Callicarpa japonica*, Thunberg.
海岸地方ニ多シ
- 54 葉ハ羽狀又ハ複羽狀 54
葉ハ單葉 65
葉ハ複羽狀ナリ、莖ト葉トニ刺アルヲ常トス、莖ニ分岐乏シキヲ常トス
レドモ大木トナレバ然ラズ
たらのき *Aralia chinensis*, L.
山麓地方至ル所ニ生ズ
- 55 葉ハ單羽狀ナリ 55
羽狀葉ノ中肋ニハ翼アリ、羽片ハ二對乃至三對
ふしのき *Rhus javanica*, L.
巨泉洞、通九味等ノ樹林ニ生ズ
- 羽狀葉ノ中肋ニハ翼ナシ 56



たらのきノ大木。玉泉洞ノ兄弟岩ノ上方ノ山ニアリ、樹下ニアル中井囁託ト比較スレバ其大サヲ知り得

- 56 { 莖ニ刺ナシ 57
 { 莖ニ刺アリ 58
- 57 { 葉片ノ鋸齒ハ鋭クトガル、葉片ハ五對以上ナリ
 { ななかまど *Sorbus commixta*, Hedl.
 { 山上ニ多シ
 { 葉片ノ鋸齒ハ鋭カラズ、皮ハ著シク苦味ナリ
 { にがき *Pierasma quassioides*, Bennett.
 { 山麓地方ニ生ス
- 58 { 葉裏ニハ白キ毛密生ス 59
 { 葉裏ニハ毛アルモ少ナシ 60



ななかまじどノ老木。彌勒峯ニアリ、上ニ攀ヂ居ル吉岡技手ト比シテ其稀大ノ樹ナルヲ知り得ベシ 下ニ簇生スル幅廣キ葉ノモノハぎようじやんにくナリ

- 莖ニハ針狀ノ刺密生ス、裏面ニハ腺點アリ
 はまなし *Rosa rugosa*, Thunberg.
 自生アリト云フモノアリ、故ニ假ニ此所ニ編入ス
- 59 葉ニハ鈎刺散生ス、枝ノ先端ニハ帶紅ノ腺毛密生ス
 えびがらいちご *Rubus phoenicolasius*, Maxim.
 海岸近ク散生ス
- 60 莖ハ直立シ、葉裏ニハ腺點アリ 61
 葉ハ散出シテ傾下スルカ又ハ地ヲ匍ヒ、葉裏ニ腺點ナシ 63
- 葉ニハ葉ノ附着點ノドニ相並ビテ二個宛ノ刺アリ、葉ニ香氣アリ
 さんじょう *Zanthoxylum piperitum*, DC.
 61 沙洞、南西洞並ニ錐山ニアリ
- 葉ニハ刺散生スルカ又ハ全然刺ナシ 62

- 莖ニハ刺散生ス
 からすざんしょう *Fagara ailanthoides*, Engler
 六百米突以下ニ生ズ
62. 莖ニハ刺ナシ
 とげなしからすざんしょう
Fagara ailanthoides, Engler var. *inermis*, Nakai
 道洞國有林ニ生ズ



南陽洞、台霞間ノ一部。海拔三百米突ノ邊 1. つが 2. つばき 3. しろばなしくなげ
 つが林下ニつばき林アリテ其下ニしろばなしやくなげノ群生セル所ナリ。

63. 葉片ニハ複鋸齒アリ、托葉ハ小ニシテ離生ス
 さなぎいちご *Rubus Oldhami*, Miquel.
 サンマクノ斜面ニ生ズ
64. 葉片ニハ單鋸齒アリ、托葉ハ葉柄ニ沿ヒテ附着ス
 葉片ノ表面ハ光澤アリテ先端丸キカ又ハ凹ミ、長サニ三分
 てりはのいばら *Rosa Luciae*, Fr. et Rocheb.
 羅里洞ノ平原ニ生ズ
64. 葉片ハ光澤ナク、先端トガリ、長サ三分以上
 のいばら *Rosa multiflora*, Thunberg.
 通九味ノ海岸ニ生ズ稀ナリ

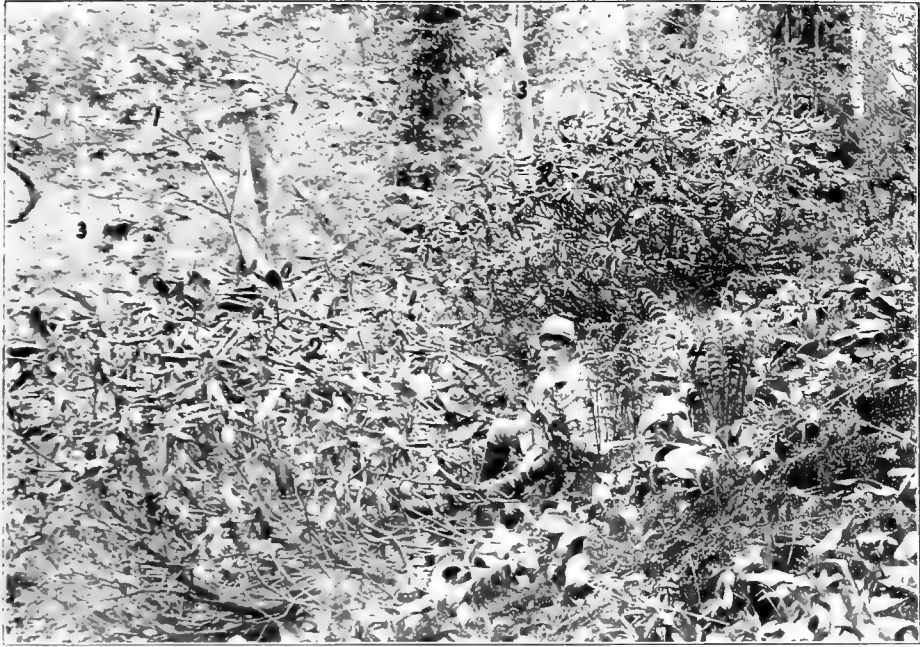
- 65 { 葉ハ掌狀ニ三乃至七又ス 66
- { 葉ハ掌狀ニ分又セズ 69
- 66 { 葉ハ深ク五乃至七又ス、有刺ノ喬木
 { はりぎり *Kalopanax ricinifolium*, Miquel.
 { 山中ノ樹林ニ生ズ
- { 葉ハ淺ク三乃至五又ス、無刺ノ灌木、稀ニ葉ニ刺アリ 67



かうらいおほめしだ。島内ニアリテハをしだト共ニ最大ノ羊齒ナリ、未ダ葉ヲ充分ニ展開セザル故眞ノ大サヲ表ハサズ。羅里洞ノ山中。

- 67 { 葉ノ裂片ニ鋸齒ナシ、刺ハ全然ナシ
 { うりのさ *Marlea platanifolia*, Sieb. et Zucc.
 { var. *macrophylla*, Makino
 { 樹林中ニ生ジ竹島ニモアリ
- { 葉ノ裂片ニ鋸齒アリ 68

- 68 { 中肋ニ刺ナシ、枝ハ細ク徑一分以内稜線アリ
たけしましもつけ *Opulaster insularis*, Nakai.
道洞國有林ニテ唯一株ヲ見出セリ
中肋ニハ裏面ニ刺アルコトアリ、枝ハ徑一分以上、稜線著シカラズ
たけしまくまいちご *Rubus takesimensis*, Nakai.
至ル所ニ生ズ
- 69 { 莖ニハ葉ノ變形セル三又又ハ五又セル刺アリ、葉ノ鋸齒ハ細カケレドモ
鋭シ、高サ三、四尺ノ灌木
おほひろはめぎ *Berberis amurensis*, Rupr. v. *latifolia*, Nakai.
岩上ニ生ズ
- 70 { 莖ニハ刺ナシ 70
葉ハ全縁又ハ波狀ヲナセドモ鋸齒ナシ 71
葉ニ鋸齒アリ 74
- 71 { 葉縁ハ波狀ヲナス、裏面ニハ最初ウスキ絹毛アレドモ後無毛トナル、喬
木トナルモノアリ
たけしまぶな *Fagus multinervis*, Nakai.
山中至ル所ニ生ズ
- 72 { 葉縁ハ丸シ 72
葉ハ長サ一吋以内、葉裏ニハ白毛密生ス、小灌木ナリ
たけしましやりんとう *Cotoneaster Wilsonii*, Nakai.
道洞國有林並ニ錐山ニ生ズ
- 73 { 葉ハ長サ二吋以上アリ 73
葉ハ長橢圓形又ハ其ヨリ長シ、小枝ハ綠色又ハ灰褐色
しなのがき *Diospyros Lotus*, L.
南望樓臺國有林ニ生ズ
- 74 { 葉ハ廣卵形又ハ廣橢圓形、小枝ハ帶紅色
みづき *Cornus controversa*, Hemsley.
山中樹林ニ生ズ
- 75 { 葉ノ表面ハ著シク粗糙ナリ 75
葉ノ表面ハ毛アルトキト雖モ粗糙ナラズ 77
葉柄ト若枝トニハ散出セル絨毛密生ス、葉ハ濶大彎入アルヲ常トス、葉
裏ニ毛多シ、灌木ニシテ枝ハ太シ
かぢのき *Broussonetia papyrifera*, Vent.
島ノ下部ニ多ク生ズ
- 76 { 葉柄ト若枝トニ絨毛ナシ 76



上峯樹林ノ一部。海拔八百米突ノ邊、 1. おにいたや 2. しろばなしやくなげ 3. たけしまぶな 4. かうらいおほめしだ

- 葉柄短カク、葉ニ複鋸齒アリ、先端ハ三又又ハ五又狀トナルコト多シ
おひょうにれ *Ulmus laciniata*, Mayr.
山中至ル所ニ生ズ
76. 葉ニ單鋸齒アリ、廣披針形、葉ハ先端トガル
むくのき *Aphananthe aspera*, Pl.
海岸近クノ森ニ生ジ、多カラズ
- 小サキ半灌木ニシテ枝ハ比較的太ク、葉ハ廣ク軟毛アリ、枝ノ先ニよめ
なノ花ヲ大ニセン如キ花ヲ一個宛開ク
77. おほだるまぎく *Aster Oharai* Nakai.
海岸近クノ岩上ニ生ズ
- 灌木又ハ喬木 78
- 葉ノ側主脈ノ基部ノモノハ特ニ他ノモノヨリ大ニシテ其ヨリ横ニ更ニ平
行セル側脈ヲ出ス 79
78. 葉ノ側主脈ハ基部ノモノヨリ先端ノモノニ至ル迄一樣ニ平行シテ
生ズ 83

- 79 { 小灌木、葉ノ長サハ一寸以内ニシテ丸キ鋸齒アリ、花ハ小ニシテ白ク繖
形花序ヲナス やましもつけ *Spiraea obtusa*, Nakai.
道洞國有林、南望樓臺國有林ノ岩上ニ生ズ
- 80 { 灌木又ハ喬木ニシテ葉ノ鋸齒ハトガル 80
葉ノ裏面ニハ主脈ノ分岐點ニ密毛生ズ、葉ハ通例左右不等形ナリ、幅廣
ク先端細クトガル、著シキ大木ナリ
たけしましなのき *Tilia insularis*, Nakai.
山ノ上部ニ特ニ多シ
- 81 { 葉裏ノ主脈ノ分岐點ニ密毛生ゼズ 81
鋸齒ハ微凸頭ナリ、前年ノ枝ハ帶黃褐色ナリ、葉ハ廣卵形
やまぐは *Morus bombycis*, Koidz.
山中至ル所ニアリ
- 82 { 鋸齒ハ鋸目ノ如キ形ヲナシ大ナラズ 82
前年ノ枝ハ帶紅色ナリ、葉幅二寸以上ヲ常トス
けんぼなし *Hovenia dulcis*, Thunberg.
下部ノ山林ニ生ズ
- 83 { 前年ノ枝ハ褐色ナリ、葉ノ幅ハ一寸五分ヲ出デズ
えぞえのき *Celtis Bungeana*, Planchon
山林中ニ生ズ
- 84 { 葉ハ細ク、長サハ幅ノ五倍以上アリ、長クトガル、枝ハ分岐多シ
かうらいやなぎ *Salix koreensis*, Anders.
葉ノ幅ハ少クモ長サノ四分ノ一ニ達ス 84
- 85 { 葉裏ハ白シ 85
葉裏ニ毛アリテモ白色ナラズ 86
葉ハ殆ンド圓形ニシテ裏面ニ密毛アル爲メ白シ、若枝ノ皮ハ縦ニ裂ク、
穂ハ下垂ス はくうんぼく *Styrax Obassia*, Sieb. et Zucc.
山上ノ森林ニ生ズ
- 86 { 葉ハ橢圓形ニシテ微毛生ジ、地色ハ白シ、皮ハサケズ、灌木ナリ
たけしまやなぎ *Salix Ishidoyana*, Nakai.
南望樓臺並ニ沙洞ノ山角、彌勒峯ノ岩角ニ生ズ
葉ノ側脈ハ葉縁ニ迄達セズ、鋸齒ハ小ナレドモトガル、葉ノ兩端ハトガ
ル、葉ハ短枝ニテハ其先端ニ集合ス
かまつか *Pourthiaea villosa*, Dene. v. Zollingeri, Schneid.
長興洞、南西洞ニ生ズ、稀ナリ
葉ノ側脈ハ平行シテ葉縁ニ達ス 87



羅里洞ノ一部。中央ノ二本ノ大木ハツガナリ、向テ左ノ削壁状ノ山ハ彌勒峯ノ一部ナリ。

- 87) 葉ハ廣卵形又ハ殆ンド圓形ヲナセル廣卵形、幅二寸以上アリ
 みやまはんのき *Alnus Maximowiczii*, Carr.
 山上ニ多ク生ズ
- 葉ハ廣卵形ナラズ 88
- 88) 葉ハ上部廣シ、丸キ粗鋸齒アリ、長サ三寸以上、葉柄短カシ
 もんごりなら *Quercus mongolica*, Fischer.
 岡本金藏氏之ヲ某所ニ採リ、氏ノ標本中ニアレドモ、氏
 ノ報告書ニモナク氏モ記憶セズト云フ、石戸谷、余並ニ
 Wilson 皆見出サズ
- 葉ハ中央又ハ基部ニ近ク幅廣シ、長サ三寸以下ヲ常トス 89
- 葉縁ノ鋸齒ハ丸クシテ波状ヲナス
 けやし *Abelicea serrata*, Makino.
 山中所々ニ生ズレドモ今ハ大木ナシ
- 89) 葉縁ノ鋸齒ハ細カク、トガリテ不規則ナリ
 あかして *Carpinus luxiflora*, Nakai.
 沙洞ノ奥ニ生ズ

(13) 島ノ有用植物

(a) 材用植物

いちむ *Taxus cuspidata*.

びやくしん *Juniperus chinensis*.

あかまつ *Pinus densiflora*.

ひめこまつ *Pinus parviflora*.

つが *Tsuga Sieboldii*.

あかして *Carpinus laxiflora*.

たけしまぶな *Fagus multinervis*.

大木ナク杖ヲ作り得ルノミ。

以前ハ大木アリテ鉛筆用材トシテ内地ニ向ケ移出セシモ、今ハ斯ルモノ少シ、但シ小器具ノ製作、杖、香料等ニ用キ得。

建築材ニ用キ得ベケレドモ本數少キ上搬出不便ノ所ニ生ジ居ル故、此島ニテハ用ヲナサズ。

以前ハ大木アリテ距今三十年頃ヨリ七、八年前迄ハ毎年「三島サラミ」(巨文島、濟州島等ノ住民ヲ云フ)ガ三月中旬ヨリ四月上旬迄ノ間ニ古船ニ乗ジテ來リテひめこまつヲ伐リ之レヲ割テ新舟ヲ作り六月中旬ヨリ下旬迄ノ間ニ歸リ行ケリ、其爲メ今ハ大木ハ數フル程ニシテ其レスラ搬出不便ノ地ニアリ、故ニ用材樹トシテハ今ハ此島ヨリ除クベキモノトス

大木多ク建築用材トシテ主要ノモノナリ、但シ亂伐ノ結果次第ニ其數ヲ減ジ、今ノ状態ニシテ繼續スレバ十年以内ニハ鬱陵島ノ材用樹トシテ用ヲナサザルニ至ルベキカ。

朝鮮ノ中部以南特ニ濟州島ニアリテハ本樹ハ有用樹ノ一ニ算セラレドモ、此島ニテハ僅ニ沙洞ノ奥ニ小區域ニ極限セラル、故、用材トナスニ足ラズ。

本島ノ主要樹ノ一ニシテ建築材ハ勿論薪炭ノ料トシテ廣ク用キラレ、生長モ速カニシテ今後モ又造林用トシテ用フベキモノナリ。

おひょうにれ *Ulmus laciniata*.

けやき *Abelicea serrata*.

いぬぐす *Machilus Thunbergii*.

しろだも *Mulapenna Sieboldii*.

{材ハ家具製作ニ供シ得レドモ大木少シ。

{以前ハ大木多カリシ由ニテ古キ建築ニハ大形ノ板ヲ用キ居レドモ今ハ直徑一尺以上ノモノハ算フル程ニスギズ、但シ生育ハ佳良故造林シテ將來ノ用材ニ供スベキモノトス。

{巨大ノ木トナリ、以前ハ良材ヲ出セシモ今ハ殘存セルモノ少シ、但シ海岸ノ防風樹トシテハ最適ノ一ナリ。

{いぬぐすニ似タレドモ小ニシテ稍劣ル。



上峯ノ一部。島ノ始原林ノ状態、谷ノ白キハ殘霧ナリ、
1. はななかまど 2. はおにいたや。

たけしまざくら *Prunus takesimensis*.

{直徑一尺以上ニ達スルモノアレドモ材用トナルモノ少シ、器具製作ニ供シ得。

- からすざんしょう *Fagara ailanthoides*. { 以前ハ材用ニ供シ得ルモノアリシモ
今ハナシ、但シ其材ハ濕氣ニ耐ユ
- たけしまきはだ *Phellodendron insulare*. { 以前ハ大木多カリシ由ナルモ今ハ少
ナク、僅ニ上峰ニテ一本目通周圍三
米突二十三、高サ三十米突許ノモノ
ヲ見タリ、材ハ器具製作ニ用キ得ベ
ク光澤ヨク木理美シ。
- おにいたや *Acer Okamotoanum* { 大木トナリ材質ヨク建築材、器具用
材、炭材、薪材トナリ、現時ニ於ケ
ル島ノ最重要ノ材用樹ナリ。
- けんぼなし *Hovenia dulcis*. { 以前ニハ大樹アリテ材ヲ用キ居リシ
モ今ハ大株ノ根株ヲ掘取りテ器具製
作ヲナシツ、アリ。
- たけしましなのき *Tilia insularis*. { 大樹アレドモ材質可ナラズ、唯薪材
ニ用キ得ベシ。
- はりぎり *Kalopanax ricinifolium*. { 大工ガせんのみト云フモノ是ナリ、
山中ニ大木アレドモ今ハ之レニ勝ル
モノアル爲メ顧レモノナシ、器具製
作ニ適ス。
- きり *Paulownia tomentosa*. { 本島ノ原産丈ケニ昔時ハ巨樹アリテ
直徑六尺長サ一丈餘ノ材サヘ取りシ
由ナルモ、今ハ僅カニ直徑一尺餘ノ
樹ヲ殘スニスギズ、古株ニハ今モ尙
ホ大ナルモノ多少殘存ス、現時島廳
ニテ其栽培ヲ奨励シ居ル故ニ後年又
桐ノ產地トナルベシ。

(b) 薬用植物

- ひろはえぞでんだ *Polypodium vulgare v. latifrons*. { 匍枝ハ肺腺カタル、並ニ喘息ノ薬ト
ナル。
- くじやくしだ *Adiantum pedatum*. { 苦味アリ、緩和劑トナル。
- わらび *Pteridium aquilinum*. { 驅蟲劑ニ用キラル。



羅里洞峯ノ上部ノ樹林下。1. をしだ(薬用) 2. ぎょうじゃにんにく(食用)
3. つるあぢさい 4. おにいたや(材用) 5. のびねちどり

をしだ *Dryopteris pseudo-filixma.*

ぜんまい(根) *Osmunda regalis.*

びやくしん *Juniperus chinensis.*

かもじくさ *Agropyrum ciliare.*

てんなんしょう (天南星)

Arisema japonicum.

根莖ハ Filicic acid $C_{16}H_{42}O_{12}$, Filicin, Aspidin $C_{27}H_{57}O_7$, 樹脂、タンニン、揮發性油等ヲ含ミ條蟲驅除ニ用キラル、本島ニハ多産スル故採收スレバ巨額ノモノナルベシ。

(根莖ハ強壯劑、止血劑トシテ用キラル。

(Pinene, Cadinene ヲ含ミ果實ハ Gin 酒ヲ作ルニ用フ。

麥角菌培養ニ用ヒ得。

塊莖ハ劇毒ニシテ生食スレバ狂死ス、其煎出液ハ害蟲驅除ニ用キ得、大和地方ニハ之ヲ石灰ニテ中和シテ食フモノアル由ナレドモ不馴ノモノニハ危険ナリ。

- ぎしぎし *Rumex japonicus*.
ながばぎしぎし *Rumex crispus*.
かはらさいこ *Dianthus superbus*.
ゐのこづち *Achyranthes bidentata*.
おほあまどころ *Polygonatum robustum*.
おほすはまさう *Hepatica maxima*.
いぬぐす(厚朴) *Machilus Thunbergii*.
しろだも *Malapœna Sieboldii*.

みつばふうろ *Geranium Kramerii*.

さんしよう *Zanthoxylum piperitum*.

たけしまきはだ(黄蘗)
Phellodendron insulare.

にがさ *Picrasma quassioides*.

たけしまやまごばう
Phytolacca insularis.

だいもじさう *Saxifraga cortusæfolia*.
だいこんさう *Geum japonicum*.

ふしのき *Rhus javanica*.

たらのき *Aralia chinensis*.
- { 何レモ根ハ Rumicin $C_{14}H_{10}O_4$ ヲ含
ミ、煎出液ハタムシ、芥蘇ヲ治スル
ニ用フ、又下劑トモナル。
種子、果實ハ利尿藥トナル
{ 根ハ下劑トナリ、脚氣病ヲ治スルニ
用フ。
根莖ハ強壯劑トナル。
莖葉共ニ肝臟ノ藥トナル。
皮ハ煎出液トシテ服シ血行ヲ善クス。
皮ハ Sassafras oil 様ノ油ヲ含ム。
化學的ニハ丹寧以外ニ知レザレドモ
其莖等ノ浸出液ハ下痢止ニ特効ア
リ、恐ラク甚ダ分解シ易キ未知ノ成
分アルベシ。
{ 果實ハ Japanese pepper oil, Xanthoxy-
lin 並ニ結晶質物 $C_{10}H_8O_4$ ヲ含ミ、皮
ハ Xanthoxylum ヲ根ハ Berberin ヲ含
有ス、興奮ノ用アレドモ多用スレバ
魔靡セシム。
{ 内皮ハ苦味ニ富ミ、煎汁ヲ煮固メテ
胃腸ノ藥トス Berberin ヲ含ム。
{ 効用ハたけしまきはだニ同ジ Quas-
sin ヲ含ム。
{ 未ダ試験ヲ經ザレドモ商陸同様ノ効
アルベシ。
{ 何レモ葉ノ煎出液ハ利尿ノ効アリ、
腎臟炎ニ特効アリ。
葉ニ生ズル蟲癭ハ Gallæ chinenses,
Gallæ japonicæ トシテ知レ、約四プロ
ノ丹寧ヲ含ム、種子ニハ鹽分アリ、故
ニ鹽麩子ト云ヒ、漢法ニ咳ヲ治スル
ニ用キ、皮ハ止血用トス。
{ 皮ハ Aralin ヲ含ム。根ノ煎出液ハ糖
尿病ニ用フ。

はりぎり(海桐) <i>Kalopanax ricinifolius</i> .	漢法ニ皮ヲ海桐皮ト稱シ、煎出液ニシテ目ヲ洗ヒ又日射病ヲ治シ、又疥癬ヲ治スルニ用フ、化學成分不明。
しゃく(前胡) <i>Anthriscus silvester</i> .	
しろばなしやくなげ <i>Rhododendron brachycarpum</i> .	根ハ發汗劑トシ又喘息ヲ治スルニ用フ。 葉ノ煎出液ハ胃腸藥ノ代用ニス。朝鮮ニテハ萬病草ト云ヒ萬病ニ効アリト云フ、Ericolin, Rhododendrin ヲ含ミ有毒ナリ。
いぶきじやこうさう <i>Thymus Serpyllus</i> .	葉ハ Carvacrol, Thymol 等ヲ含ミ之レヲ乾溜シテ除去シタルモノハ、煎出シテ咳ニ最有効ナリ、獨乙製ノ百日咳ノ葉ハ實ニ之ヲ原料トセルナリ。
やまほろし <i>Solanum Dulcamara v. heterophyllum</i> .	莖葉ハ共ニ <u>Dulcamarin</u> ト稱スルアルカロイドヲ含ミ有毒ナレトモ、果實ハ凍傷ニ用キテ特効アリ Solanidin ヲ含メトモ其物が有効ナリトハ思ヘズ恐ラク化學上未ダ檢出シ得ザル成分アルベシ。
ひよどりじょうご <i>Solanum lyratum</i> .	

(c) 食用植物

りょうめんした	嫩芽ハわらびト同様ニ食フ。
わらび	{ 此島ニハ少ナケレトモ嫩芽ノ食用トナルコト並ニ根ヨリ澱粉ヲ採リ得ルハ人ノ知ル所ナリ。
ぜんまい	嫩葉ヲ食フ。
ちしまざさ、やだけ	{ 兩者共嫩芽ヲ燻デ、後味噌又ハ醬油ニテ煮テ食フ、特ニちしまざさノ方ハ味ヨシ。
きょうじやにんにく	{ 球根ノ上部ヲ採リ、種々料理シテ食フ、山中ニ頗ル多ク島民ノ主要食物ノ一ナリ。
たけしまゆり、をにゆり	兩者共ニ其根ヲ食シ得。
しほて	{ 若芽ハ輕ク燻デ、胡麻醬油、芥子アヘ等ニシテ食ヘバ美味ナリ、山中ニ多産ス。
あかざ、いぬびゆ	何レモ燻デアヘモノトシテ食フ。
さんしょう	葉ヲ食フ。

- うど { 嫩芽ヲ食フハ人ノ知ル所ナリ、島内至ル所ニ多
産ス、近來糟漬ヲ作り島ノ名物ト稱シテ賣ルモ
ノアリ。
- みつばぜり 葉ヲ食フ。
- せり 葉ヲ食フ、羅里洞ニノミアリ。
- ふき 葉柄ヲ食フ、錐山溪流附近ニ多シ。
- ひめあざみ { 嫩葉、嫩芽ヲヒタシモノトス、風味佳良ナリ、「ム
ルランゴンク」ト稱ス。
- ひめしらねあざみ ひめあざみ同様ニ食フ。
- あきのさりんさう 同上。

果實及ビ種子ノ食用トナルモノニたけしまやまぶどう、たけしまいちご、おぼばぐみ、またたび、さるなし、けんぼなし(果梗)、さんしょう等アリ。

(d) 其他ノ有用植物

- やまぐは { 島ノ主要産物ハ繭ナリ、而シテ養蠶ニ用フル桑
ハ皆此島ニ本來自生スルやまぐは並ニ其ヲ人家
附近ニ移植セシモノナリ、故ニやまぐはハ鬱陵
島産物ノ因ヲナスモノト云フベシ、先年來日本
ノ良種ヲ移植セント企テシモ一時ハ活着スルモ
皆潮風ノ爲メニ枯死ス、固有ノ植物ヲ其儘増殖
シ且改良スルガ産業施設ノ第一歩ナルコト並ニ
最モ安全ナルコトヲ示ス好例ナリ、大凡やまぐ
はノミニテ斯ノ如ク養蠶ヲナシ居ルハ他ニ類ナ
シ、之レ本島ノ誇トスル所ナリトハ島司ノ公言
シテ憚ラザル所ニシテ其廣言ハ蓋シ故アルナ
リ。
- かぢのき { 多ク自生ス、一層殖シテ製紙ノ料トナサバ、良
水ニ富ム島ノ事故製紙ヲ業トナシ得ルニ至ルベ
シ。

おほまひづるさう(花白)、しろばなえんれいさう(花白)、きえびね(花黄)、たけしましやりんとう(花白)、おほすはまさう(花白稀ニ淡紅)、てうせんはしどい(花白稀ニ紫)、たけしまくはがた(花紫青)、ようらくにはとこ(果實紅色)、てりはぎく(花白)等ハ島ノ園藝植物トシテ推奨スルニ足ル、たけしまゆりハ勿論其一ナレドモ既ニ内地ニテ所々ニ栽培シアル故今ハ珍トスルニ足ラズ。

なぎなたかうじゆ、いぶきじやこうさう、何レモ葉ヨリ香油ヲ採リ得、羅里洞ニハ多産ス。
 いぬぐす、しろだも 種子ヨリ臘ヲ採リ得。
 つばき、はくろうんぼく 種子ヨリ油ヲ採ル。



上峯ノ一部。 1. めんま 2. おほまひづるさうノ群落。

(13) 島ノ有毒植物

すきな (*Equisetum arvense*). 家畜ガ其葉ヲ食ヘバ食慾ヲ減ジ、體衰弱シ、甚ダシキハ其爲メニ仆ル、根ヲ食ヘバ呼吸切迫ヲ來ス。
 しろばなえんれいさう (*Trillium obovatum*). 其根ハ有毒ニシテ、食ヘバ甚ダシキ嘔吐ヲ催ス。
 いらくさ (*Urtica japonica*). 刺ニハ蟻酸ヲ含ミ、體ニ觸ルレバ劇シク刺ス。
 たけしまやまごばら (*Phytolacca insularis*). 生根ハ皮膚ヲ咬ス、恐ラク *Phytolacca* toxin ヲ含ムナラン。
 せんじんさう (*Clematis paniculata*). ぼたんづる (*Clematis triphylla*). たがらし (*Ranunculus scleratus*). きつねのぼたん (*Ranunculus quelqpretensis*).

何レモ葉ハ皮膚ニ發泡ヲ起サシム。

くさのわら (Chelidonium majus).

{Chelidinin $C_{21}H_{19}NO_5 \cdot H_2O$; Chelerythrin $C_{22}H_{17}NO$; α -, β - γ - Homochelidonin; Protopin; Sanguinarin 等ヲ含ミ、皮膚ヲ侵シ、食スレバ胃腸ノ壁ヲ侵シ、神經ヲ麻痺セシム。

はまきけまん (Corydalis platycarpa).

{Corydalin, Corycavin 等ヲ含ミ有毒ナリ。

へびいちご (Duchesnea indica).

{人ニ依リ其實ヲ食フモ中毒セザレドモ、多クハ發熱シ、皮膚脹レ、甚ダシク渴ヲ覺ユルニ至ル。

とうだいぐさ (Euphorbia Helioscopia).

{皮膚ノ弱キモノハ其乳汁ニテ刺激セラル、疣又ハ頬黒ヲ取ルニ用キルモノアリ、口ニスレバ壞疽狀ノ症狀ヲ呈ス。

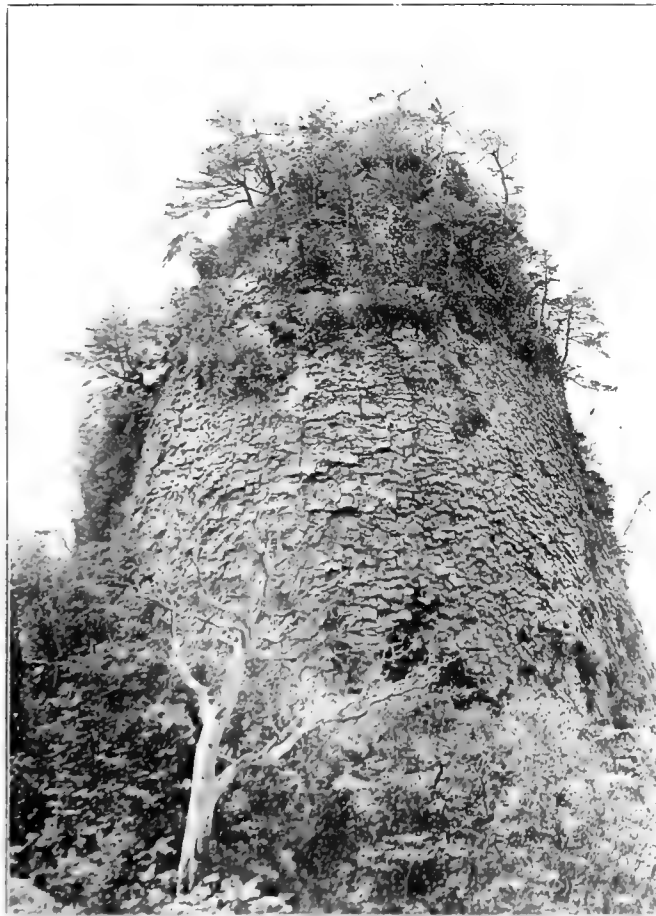
きつりふね (Impatiens Noli-tangere).

{Impatiinid ト稱スル刺激性ノ苦味アル有毒成分ヲ含ム。



石門洞ノ奥。 1. ハ成長シツ、アルおほいたどりノ群落 2. はいぬすぎなノ群落。

- いぬほほづき (*Solanum nigrum*). {果實ハ Solanin, Betain, Saponin 等ヲ
含ム有毒ナリ。
- たけしまへうたんぼく
(*Lonicera insularis*). {果實ハ有毒ニシテ食フベカラズ、恐
ラク Xylostein ヲ含ムナルベシ。
- ようらくにはとこ
(*Sambucus pendula*). {果實ヲ生食スレバ劇シキ頭痛ヲ起
ス。



トウルボン
石峯^〇
ス、峯上ニ生ズルモノハつが、ひめこまつヲ主トス、前景ニアル枯存木ハおにいた
やナリ。

峯ハ「ミロクサンコルトンギ」ヨリ南西洞ニ下ル間ニアリ、島中最奇峯ト

(15) 移植植物ノ成績

くは 全部枯死ス、今後幾回繰返スモ同様ナラン。

まだけ (成績中位ニシテ、移植植物中有用ノモノトナリ、島ノ産物ヲナス
ニ至レルハ是ノミナリ、沙洞ノ如キ竹林ノ見ルベキモノアリ。

- すぎ { 成績悪シク到底用材ヲ得ル見込ナシ、之レ潮風劇シキ爲ナリ、但シ現今迄ノ移植所ハ適當ノ箇所ト云フベカラズ、石門洞、羅里洞ノ如キ風害少キ地ヲ選ビテ試験スルニ非ンバ絶対ニ不良ト斷ジ得ズ、但シ島ニハおにいたや、つが、たけしまぶな、けやき、きり等有用材ヲ出ス植物ニ乏シカラザル故敢テすぎヲ増殖スル必要ナシ。
- くろまつ 成績良好ナラズ、ひめこまつニ劣ル程ナリ。
- いちじく 稀ニ栽培シ結實ス、但シ産業上何等ノ價值ナシ。
- ざくろ 同上。
- かさ 同上。
- 一般ニ果樹ハ風強キ爲メ見込ナシ。
- ぼぶら { 風強キ所トシテハ成績悪カラズ但シ、有用材多キ島故島民ハ一顧ダモセズ山麓地ノ土砂防護ニ用キ得ベシ。

(16) 島今後ノ生産

鬱陵島ハ一個ノ險峻ナル小孤島ニシテ産物ニ乏シク車馬ヲ通ズルヲ得ズ、到底多人數ノ居住ニ適セズ、現人口ハ既ニ多キニ過グ、故ニ成シ得ベクバ之ヲ減ズルヲ要ス。

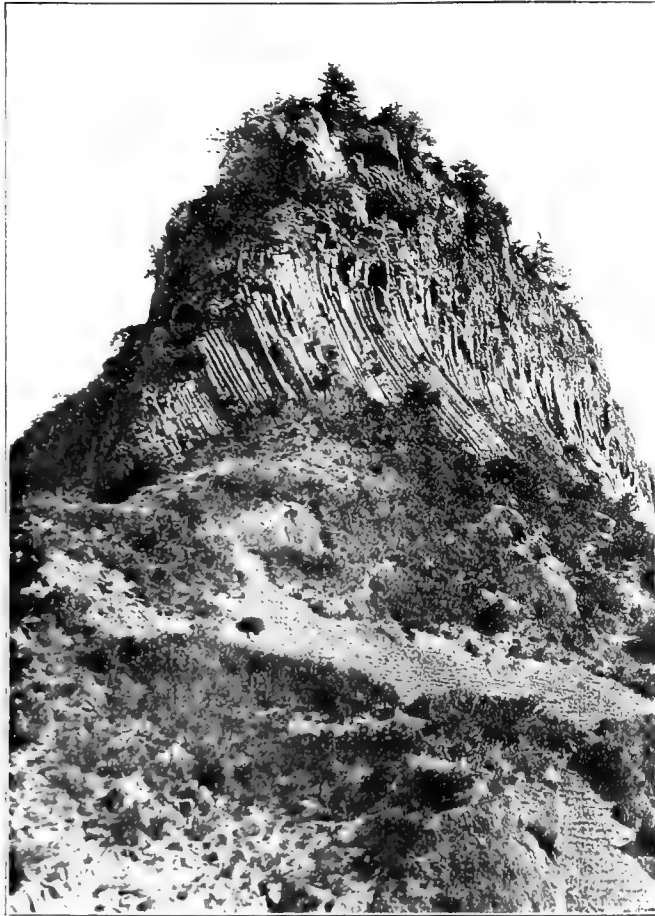
島民ノ食料ノ主タルベキハ麥ナリ、然レドモ畑地ハ皆山ノ傾斜甚ダシキ所ニノミアリテ、肥料ハ流レ去リ、加フルニ土壤ハ火山灰ニシテ輕ク、風ニ飛散シ、作物ノ生育甚ダ悪シ、現時ハ四十度ノ斜面ニスラ畑ヲ作り、年々小兒ガ轉下シテ死スルモノアリト云フ、是レニ人口過剰ニシテ斯克セザレバ食物ニ不足ヲ告グルニ基ク、從ヒテ森林モ亦減ジ燃料モ次第ニ減ジ行ク、故ニ島民ハ漁業ト養蠶トわかめ、かぢめ等の海草採收ニ依リテ食物ノ不足ヲ補ヒツ、アリ、幸ニモ島廳ノ施政宜シキヲ得養蠶ハ年々盛大ニ赴ケドモ之ヲ更ニ擴張センニハ (1) 桑ノ増殖ヲ計リ、(2) 蠶室ヲ建ツルヲ要ス、(1) ハ易業ナレドモ (2) ハ用材ノ減ゼシ今日容易ノ事ニ非ズ、故ニ本島ノ養蠶モ今日以上多クヲ望ミ難シ。

漁業ノ主タルモノハ鳥賊漁ナレドモ微弱ナル暖流ニ乗ズル鳥賊ニモ限アルニ一方無制限ニ漁獲スル爲メ年々歳々其産額ヲ減ズルノミ、唯島ニハ良港ナク、大船ヲ繋グニ適セザル故僅ニ其廢滅ヲ免レツ、アリ、つばきハ多ク自生スレドモ媒介ノ鳥少キト風強キトニテ果實ヲ結ブコト少シ、故ニ多量ノ油ヲ採ルコト能ハズ。



上塚ノ頂

- 1 ななかまど。
- 2 をきのはうちほ。
- 3 たけしまどくら。
- 4 しろばなしやくなげ。
- 5 ちしまさま。
- 4 ト記シアル上方島ノ
最高所ナリ。



南陽洞ノ材木岩。
火山岩ノ節理整然トシテ恰モ玄武洞ニ見ル如キ觀ヲ呈ス、
島中ノ一偉觀ナリ。

牧畜業ハ山ノ傾斜甚ダシキ爲メ多クヲ望ミ難シ。

果樹ハ風害ノ爲メ殆ンド望ナシ。

(斯ク舉ゲ來レバ本島ハ産物少ク人ノ住ムニ適セザルガ如クナレドモアナガチ然ルニハ非ズ、其生産ヲ増ス爲メ次ノ注意ヲ要ス。

- (1) 山林保護ニカメ林産ヲ主産物トスベシ。
- (2) 之ヲナス爲メ傾斜急ナル加地ハ樹林トナシ、中腹以上ノ造林用ニハたけしまぶな、おにいたや、つが、たけしまきはだヲ主用シ、中腹以下ニハいぬぐす、きり、けやき、おにいたや、まだけヲ用フベシ、且ツいぬぐす等ノ樹皮ヲ剥グヲ嚴禁シ、専ラ材用樹タラシムベシ。
- (3) 島本來ノやまぐはヲ増殖シ、養蠶ヲ獎勵スルハ勿論ナレドモ、紬等ノ織物ヲ作ルコトヲ授ケ、島民ノ怠慢ノ時ヲ少フスルヲ要ス。

- (4) 漁業ハ現状維持ニ止メ置クベシ。
- (5) 荒地ヲ利用シ、かぢのき、かうぞ、みつまた(潮風ヲ避ケル邊ニ植ユ)ノ栽培ヲ盛ニシ製紙ヲナサシムベシ。
- (6) おにいたやハ木炭トセズシテ可成家具製作ニ用キ、伐採ハ島廳又ハ組合ニテ制限シ、且島民ニ加工法ヲ教フルヲ要ス。
- (7) 竹材ノ移出ハ之レヲ朝鮮側ニナスベシ。
- (8) 茶ハ全南ノ北部ノ山ニ自生多キ故、此島ニ氣候上不適當トハ斷ジ難キ故、潮風甚シカラザル邊ヲ選ビテ試育シ、成績宜ケレバ栽培ヲ獎勵シ製茶ヲナシ、島民ノ飲料移入ヲ防グベシ。
- (9) たけしまのだけ、すすきノ若葉ヲ牧草ノ主要物トシ山羊ノ養殖ヲ計レバ島民ガ得ル肉類丈ケハ充分ナルベク、又所ニヨリ牛馬ノ飼育ハ不能ニ非ズ。
- (10) おぼすはまさう、たけしまやまごばう等ハ可成増殖シ、藥種トシテ輸出ヲ計ルベシ。
- (11) 人參ノ栽培ヲ副業トナシ居ルガ如ク、百合根ノ栽培ヲ副業トスルハ有利ナリ。
- (12) 傾斜アル畑地ノ畔ニテ桑、かぢのき等ヲ栽植セザルトキハ、少クモようらくにはとこ、たけしまはしどひ等ヲ植エテ土砂ヲ防護スル外、園藝品トシテ輸出ヲ計ルベシ、島民ガ作リツ、アルしろばなしやくなげ、びやくしん、つがノ盆栽ノ如キハ殆ンド價値ナキモノトス。
- (13) 朝鮮ニ島ノ産物移出ノ便ヲ計ル爲メ元山、鬱陵島間ヲ命令航路トスルヲ要ス。

追記。

第十章ニテ述ベシ如ク洪積期ハ東亞ニテモ寒冷ニシテ歐米ノ如ク三回ニ亘リテ寒温互ニ來リシヤ否ヤヲ確メ得ザレド少クモ沖積期ニ入ル前ハ今ヨリモ遙ニ寒冷ナリシモノ、如シ、換言スレバ現今ノ氣候ニ入ル前ハ今ヨリモ寒冷ナリシナリ、此事實ハ朝鮮側ノミナラズ日本側ニテモ植物ノ分布状態ヨリ明カニ説明シ得、理學博士小泉源一氏ハ大正三年植物學雜誌上ニ木曾御岳火山植物分布論ヲ掲ゲテ最後ニ御岳ノ植物ノ固有分子ハ第三期鮮新世(Pliocene)ニ至リ氣候ノ寒冷トナリシ以來發生シ、又洪積期(Pleistocene)ノ或寒冷ナル時代ニモ發生セシモノニアラザルカ、而シテ渡來分子ハ主ニ洪積期ノ寒冷ナリシ時代ニ北方ノ發生中心ヨリ分布シ來リシモノニ非ルカト云ヘリ。

尙ホ廣ク説明セン爲メ二ノ松柏類ニツキテ云ヘバ、俗ニ眞柏ト云フみやまびやくしん *Juniperus Sargentii* (Henry) Takeda ハ樺太、北海道ノ山ニ生ズレドモ本島ニテハ日光ノ白根山ヲ經テ大和ノ室生山、大峯山ニ至リ更ニ四

國ノ高山ニ飛ビテ石槌山、劔山等ニモ生ジ、九州ノ九重山ニ迄至ル、朝鮮側ニテハ反テ南ニ偏シ、濟州島ノ漢拏山頂ヨリ朝鮮ノ智異山ヲ經テ江原道ノ金剛山ニ至ル、此木ハ元來寒地性ノモノニテ氣候寒冷ナリシ頃即ハチ日鮮兩陸ノ未ダ連絡セシ頃ハ本島、四國、九州、中鮮以南ノ低地又ハ低キ山ニハ至ル所ニ生ゼシモ一旦氣候ガ溫暖トナルニツレ山上ニ上リテ南部ニテハ今ハ其餘喘ヲ保チツ、アル一方北ニ逐ハレシモノハ樺太ニ迄モ北上セシナリ。

匏松 *Pinus pumila* ニテモ同様ノ現象アリ、其分布ハ北ハ東西比利亞 Baical 地方ヨリ スタノボイ、ブレア連山ヲ經テ東ハ カムチャツカニ亘リ、朝鮮側ニテハ長白連山、狼林山ヲ經テ南シテ江原道ノ金剛山、冠岳山ニ至リテ盡ク、又日本側ニテハ北海道ノ山ヨリ本島ニ入り甲、信、飛ノ アルプスヨリ日光（女峯、溫泉岳）秩父（甲武信岳、トツサカ山）ニ至ル其南下シテ比較的 ニヨボニ ヌモンガタケ ヲフ シガタケ 低キ山脈上ニアルハ全ク昔時ノモノガ其所ニ遺留シテ更ニ寒冷ナル上方ニ至ラントシテ得ズ、止ムナク現地ニ留マルモノナリ、（理學界第十二卷第五號余ノ朝鮮ノ松ノ記事參照）、其他四國ノ劔山ニ くりんゆきふて Polygonum suffultum せんだいたいげき Saxifraga sendaica ノ存在スル事、石鎚山上ニ みやまだいこんさう Sieversia calthafolia ノ生ズル事（植物學雜誌第三百六十六號雜錄小泉源一氏ノ石鎚山ノ みやまだいこんさうノ記事參照）、九州豊後九重山上ニ こけもも Vaccinium Vitis-Idea ノ存在スル事ナドトシテ如上ノ事實ヲ證明セザルハナシ、小泉氏ガ更ニ植物學雜誌第三百八十九號ノ雜錄欄ニ仙丈ヶ岳ノ針葉樹帶中ニアル崖上ニ喬木針葉樹ノ生ゼザル所ニ純高山植物ノ生ジ居ルコトヲ記シ且、昔時ハ高地帶ガ今ヨリモ尙ホ五六百米突以下ニ其下限ヲ置キシ丈ヶ寒冷ナリシコトヲ云ヘルハ明カニ余ノ論據ニ裏書スルモノナリ、余ハ大正五年六月朝鮮彙報特別號ニ 鷲峯ノ植物調査ト題シテ 鷲峯ノ植物ヲ記セシ中ニ はひまつとてうせんごえふトノ分布ヨリ推シテ次ノ結論ヲナセシ事アリ。

1. 朝鮮ニモ一度寒期來レリ。
2. 其時期ハ恐ラク洪積期ナルベシ、如何トナレバ玄武岩ヨリ成ル胞胎山ニ朝鮮五葉ト假松トガアレバナリ。
3. 其寒冷ノ度ハ少クモ朝鮮ニテハ朝鮮五葉ガ平地ニ生ジ中鮮ニテハ假松ガ平地ニ生ゼシ程度ニアリシナルベシ（下略）。

此第三頁ヲ換言スレバ昔時ノ植物分布ノ低限ハ現時ヨリハ少クモ千米突下方ニアリシ事ヲ表ハス。

何レニモセヨ日本、朝鮮ハ勿論亞細亞ニモ歐米ノ如ク（歐米ノ如ク甚ダシカラザル迄モ）洪積期ニ寒氣來リ其ニ次デ現時ノ溫氣トナリシコトハ疑フノ餘地ナシ。
（大正八年六月誌）



大正八年十二月六日印刷

大正八年十二月十日發行

朝鮮總督府

印刷所 三 秀 舍

東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷者 島 連 太 郎

東京市神田區美土代町二丁目一番地














New York Botanical Garden Library
QK 368 .N31 gen
Takai, Takenoshin/Report on the vegetati

3 5185 00135 1657

